

2009年度事業報告書

1.全体の報告(成果と課題)…P17
A ボランティアセンター…P19
B NPO活動推進センター…P29
C 若者自立支援…P32
D 情報センター…P41
E 連絡調整・ネットワーク…P43
F 災害ボランティアオールとちぎ…P45
G エコ・ハウスたかねざわ…P49
H とちぎコミュニティファンド…P58
2.その他の事業 4.財政運営 5.組織運営…P61

1.全体の報告(評価)

【成果】

(1)運営委員会の活性化とともに、事業運営がボランティア・スタッフ中心に変化した。また、組織が会員同士の連携・助け合いのネットワークへ変化しつつある。

一昨年まで、本会の運営は自主事業と委託事業を有給職員が回していく動き方が主流であった。しかし本来、本会の動き方は阪神淡路大震災での救援活動で発揮されたボランティアの力を組織の恒常的運営にとりこみ自由、柔軟、個別対応、臨機応変、かつ継続的な動きができることを目指していた。

その視点から見ると「**ボランティアが職員とともに事業運営**」をするハイブリッド・エンジンが昨年度本格的に動き出した感がする。運営委員会の活性化とともに、災害救援・復興支援の災害ボランティアオールとちぎの復興支援活動、若者支援のユースアドバイザーによる若者への個別支援の動き方、V情報誌の「会員ハンター」による会員の掘り起こしと各地域でのネットワーク再構築、そして「まちかどVネット実行委員会」の動きが挙げられる。

「ボランティアとともにあるVネット」の本格スタートの画期となった一年だった。

(2)「若者支援」で市民参加による社会課題解決への取り組みが深まった。

とちぎ若者サポートステーション事業とそこから派生するさまざまなボランティアプログラムが有機的につながり、発展した1年だった。前期末(2009年1月)から始まった**ユースアドバイザー養成講座**は、若者の支援をプロだけのものにせず、地域や大人が(他人が)応援するという動きを全国にさきがけて作った。また**オリオン通り野菜販売プロジェクト**は1年経過した2010年6月に常設店舗での“商売”になった。なにより若者支援に関心がなかった農家、商店街、近隣住民と若者の普通の接点ができただけが成果であろう。また**高校卒業程度認定試験プロジェクト**では個別に勉強を教える“**教えボラ**”という分野も作ってしまった。

委託事業の枠組みをボランティアとの共同事業によりあっさりを超えてしまうことこそが、本会の若者支援の特長であり、全国に手本となれるところである。

(3)とちぎコミュニティファンド事業による「寄付の文化」づくりができた。「寄付を受けるNPO」側の育成と「寄付する個人」の双方の育成の端緒となった。

とちぎコミュニティファンド(とちコミ)は、「あげる人が選ぶ」というあたりまえのボランティアの行動原理を推進することで、寄付嫌いを減らし、寄付を通して社会を変える運動である。

今期はとちコミの運営のため非常勤職員を配置し、冠ファンド(花王助成、ゆめ基金)の運営、NPOデータ

バンク登録促進、合同寄付キャンペーンの運営にあたった。結果、とちコミの事業運営が安定し、助成金預託企業や参加NPOからの信用が高まった。

一方、課題も明らかになった。定額給付金合同寄付キャンペーンでは、「寄付ください」と訴える千載一遇のチャンスにもかかわらず、「寄付集めできないNPO」が多かった。これは、①寄付を集める意識が薄い(ない)、②直接「寄付ください」と言っていない、③中間支援団体まかせ、などが考えられる。寄付をあげる側(市民・企業)とともに、寄付をもらう側(NPO)にも教育(しつけ)が必要であると思った。

また、寄付をいただくチャンスを意図的につくっていく企画力が必要であり、中間支援業務を行うとちコミスタッフの意識変革と能力向上が必要だとわかってきた。

(4) テーマ横断的に「10年後の日本社会」をシュミレーションすることで、市民活動者が今から何に取り組むべきかを明らかにするとともに、県内NPO/NGOリーダーの社会課題への共通認識が形成された。

今期会員総会の第2部で「10年後の日本ととちぎVネット」をテーマにワークショップをおこなったが、それとまったく同じコンセプトで「栃木ボランティア・市民活動フォーラム」の分科会を運営した。7月から、孤独・無縁社会、多文化共生、環境・地球温暖化、仕事がない、教育費、貧困など分野横断的なテーマで市民活動者による10年後を予測したシナリオを作成した。当日「10年後の悪夢のシナリオ」にならないために今から市民活動はなにをすべきか、を考えた。

結果的に、この集会を実施する過程で市民活動のリーダー間で目標を確認し、運動の方向性を探っていく貴重な機会となった。

【現状と課題】

(1) 国・自治体の社会保障システムの全体的な“ほころび”の発生と企業内の互助機能の喪失。無縁社会化の進行。NGO/NPOと組んだ市民自身による生活保障機能の再構築が必要。

今期の年度途中から民主党に政権が変わった。しかし、国・自治体の社会保障システムの全体的な“ほころび”の発生や、企業内の互助機能が喪失したこの10年間を劇的に変えることは、政治だけではそう簡単にはできないだろう。さらに、無縁社会化の進行も見えないところでの大きな流れである。

こうしたなかで、私たちができることは「助け合いの活性化」「縁の再生」である。地縁・血縁・お金がなくてもなんとかなる社会をつくること。NPO/NGOと組んだ市民自身による生活保障機能の再生が必要である。

(2) 官直営や官設民営のボランティア・NPO推進機関の過当競争。ボランティア・市民活動の「主体性の喪失」が危惧される。

全国にボランティアセンター、NPO支援センターなどの推進機関(団体)が3000か所ある。そのほとんどが官営(または官設民営)のセンターである。財源は税金だ。栃木県内には61か所のボランティアセンター(市民活動センターなど)があるが、民営(市民立)は本会だけである。行政がボランティアや市民活動の推進に乗り出したのは1998年からだが、いまや協働という名のもと、**行政の都合で「なんでもボランティア」化**が進んでいる。意味するところは自治体の財源不足のもとでの協働・ボランティアブーム(流行)であろう。

「ボランティア活動の推進はいいこと」だ。しかし、本来のボランティアの性質には、辞める自由(つぶれる自由)、活動を自主的に変化させる自由、活動自体を廃止・中止する自由を含むはずだ。行政が養成したボランティア・NPOと、行政(担当者)のトラブルがあいかわらず多いのは、ボランティアの理解がないこととだけでなく、「計画通りやらねばならない予算消的な行政事業だから」である。**ボランティアという魂のこもった行為は「公平性」となじまない。**

ボランティア活動すらやることがない官設ボランティアセンターの担当者が、市民のボランティアをコーディネートすることは不可能である。そして異動で変わってしまう担当者に「ボランティア活動の推進」を任

せることは「いいこと」にならず、変なボランティア活動の大量生産になるだろう。

官直営のみならず、官設民営のセンターにはボランティアの主体性を喪失させる仕組みが働いている。

(3)個別SOSに対応できるボランティアの広範な育成が必要。(介護・地域福祉、若者支援、災害救援)

高齢社会進行と無縁社会化により、介護・地域福祉分野や、若者の自立支援分野、防災・減災の分野などで従来の制度の枠内での支援—福祉・教育・行政等のプロによる支援—に限界が生じている。

個人個人の人生を成り立たせるのはその人自身と、その周囲の支えが第一義的に必要だが、「個人の責任」と「制度の責任」が強調されるあまり、「周囲で支える人」がいなくなった。孤立無援(無縁)社会だ。「個別のSOSの対応する他人(ボランティア)が沢山いて、その営みを活性化できればいい」というのが本会の運営・問題解決の基本コンセプトだが、この無援(縁)社会への処方箋にはこのやり方が一番あっていると思える。介護・地域福祉、若者支援、災害救援の分野で、個別のSOSに対応できるボランティアの広範な育成が必要である。

(4)会員の活動の活性化と助け合いを形作るボランティア活動の提案。10年後を見越した本会の将来構想(ビジョン)づくりが必要。

冒頭(1)で述べたように、ここ数年間の懸案であった会員組織の活性化の糸口がみえてきた一年だった。今後は、無援(縁)社会化に対応すべく、本会会員自身が地域で「たすけあい」や「個別SOS」の問題解決もできるようなネットワーク作りをしていく必要があるだろう。なぜなら10年後、20年後の高齢者は私たち自身であるし、無援(縁)社会に生きざるを得ないからだ。その意味で、今後10年を見越して「本会に求められる役割」を考え、会員・役職員・ボランティアが共通認識をもつ必要がある。中長期ビジョンの策定が必要である。

(5)「認定NPO法人への寄付の税額控除方式」に対応したファンドレイジング手法の開発と、「楽しい寄付」のさらなる推進

年度途中から民主党政権に変わった。そのなかの新機軸として「新しい公共」がうたわれている。これは「官=公」という公共意識だけでなく「私たち市民自体が公を担う」意識と具体的仕組みを保証することをうたったものだ。

その大きな一歩が「認定NPO法人への寄付金は税額控除にし、控除の割合は50%にする」税制改正である。これが与党の税制調査会の原案になった。これが実現すると、例えば「認定NPO法人に10万円寄付した人には所得税から5万円引く」ということになり、国が認定NPO法人=市民団体を「公」と認め、税金で優遇するという意味になる。納税者にとっては「**目的指定できる税金**」とも言える。この大変革は「市民に支えられるNPO法人」という本来のありかたを強力に後押しすることになり、ひいては「公は自分たちが担う」意識を醸成し、市民自治を実現する手段としてのNPOを持つことになるだろう。

本会は認定NPO法人であるという特性を活かして「寄付の税額控除方式」に対応したファンドレイジング手法を開発するとともに、他のNPO法人に対して、認定NPO法人化への誘導・促進と、「楽しい寄付」のさらなる推進をする必要がある。

事業報告 A.【ボランティアセンター】

(1)ボランティア・コーディネーション事業 (Vに関する相談・助言事業)

「ボランティアしたい」活動希望者に活動の場を紹介するとともに、「ボランティアの応援求む」ニーズに対応するためボランティアの需給調整をおこなった。困難ケースは相談・援助をし、解決を図った。

「個別SOS」の対応のなかでも若者系のSOS対応は「若者サポステ」で一括対応しているのでボランティア・コーディネーション事業での相談対応は一見少なく見えるが、若者系も含めたものとして考えると「個別SOS」は総数として増えている。

また、失業などでの住居喪失した人や、障害者手帳をもっていない障害者の生活支援など従来の社会福祉の枠組みでは相談対応ができてにくいケースへの対応をした。地縁・血縁に頼れないことによる相談対応が増え、関係者の掘り起こしも含めた継続支援ケースが増えている。

さらに、グループホームなどの居住形態が定着しつつあるが、そうした暮らしの「生活の質」を高めるボランティアの必要性も徐々に増えてきている。

VCo、NPO相談 11件 (求む)

4月継続支援①：Tさん宅訪問。若者支援NPOの紹介(菊池)。継続②：5月Tさん兄妹を鹿沼「ふらっと」につなぐ(菊池)。継続③10月：Tさん保証人がいないため、市営住宅に入れず→保証人、他に家やグループホームの可能性などを検討(菊池)。11月継続④:Tさん訪問(菊池)。継続⑤「コデランネきよはら」の集合アパートを見学のためTさん同行(菊池)

9月：自動車メーカーの派遣会社を兄が解雇された。労災、生活保護等の相談。50代女性(菊池)。10月継続：派遣会社「労災」の件で上三川町社協に電話(菊池)

11月：国選弁護士から「派遣解雇47歳男性。生活苦のため万引き、起訴・拘置所釈放後の生活支援について」相談(矢野)。12月継続②：拘留中のTさん接見。保釈後の生活について面会(貝塚弁護士、西市議、矢野)。12月継続③：裁判所・拘置所・市役所・生活保護課・アパート移動(矢野・西さん)→下記詳細。

1月：市内グループホームに車いすを贈呈(矢野)

1月：市内のグループホームから「入居している方に編み物を教えてくれる人」(菊池)

2月：グループホーム「宇都宮ファミリー」でのマージャンボラ調整。毎月第2・4金13-16時に実施(菊池)

3月：自宅訪問。24時間ヘルパー介助で生活する30代女性。家を訪ねてくる人もなくひきこもり状態。友人捜しが必要(菊池)。

3月：自宅訪問。慢性疲労症候群20年の50代主婦、娘も同様の病気20代。(矢野・菊池)

(したい)

5月：VCo 損保ジャパン：社員の社会貢献のボラ活動ないか。

7月：VCo 何かVしたい定年男性

(ケース)

●VCo・47歳男性、500円相当の万引きをしたホームレスの人の国選弁護士から「12/25に判決でるが、その後に行き先はないか」と打診あり、今日接見してきた。前にも関わってくれた西さん(会員/市議)に電話し、APを貸してくれる大家さんに内諾してもらったうえで一緒に面会に行った。昨年11月のリーマンショックで日産の派遣を解雇され、半年下野市の雇用促進住宅に住んでいたが、もう居られず、6月からホームレス。この間企業に21か所も面接にいったが職がなかったとのこと。

25日10時に判決がでるが執行猶予だと思う。しかし家がない。さらに問題は、市役所がその日で事実上仕事取めになること。年明けまで家がない状態になるので、どうするかを打ち合わせた。西さんが生保の担当者に内諾をとり、その日のうちに家が決めれば、緊急一時保護の費用を出すとのこと。10時に迎えに行くことにした。

●(12/25) VCo 継続対応：朝から拘置所・裁判所に行く。Tさんの判決の日。市議の西さんと裁判所で合流。即日釈放され、御用納めになる前に市役所で手続きしないと生活保護とれないので担当課に行く。すぐ混んでいて、1時から調べ、手続きがはじまるので役場内で待つ。西さん知り合いの不動産屋が生活保護課に直接来て見積もりと物件内容の確認し、隣の足銀市役所内支店での手続き。

その後西さんの事務所に寄って御幸本町のアパートは8件のうち6件が西さん関係が紹介したの生活保護受給者が住んでいる。部屋には西さん準備した布団が一組のほかは何もないが、ガス、水道の手配もしてあり、その手続きもやる。4時に生活保護課に人がアパート確認にくるので本人が待機。

このあとTさんの唯一の資産の自転車が南警察にあるのでひきとりにいくため西さんが軽トラに乗り換えてもどる。矢野はここで別れ、事務所内にある「米バンク」の白米10kgと炊飯器、なべ、食器、お茶、コーヒーなどのセットを見繕い自転車取り戻す途中に事務所によってもらい贈呈。今日は生保一時金がでないで、金がでて炊飯器等を買うまで貸し出し。

裁判所で本人の略歴を傍聴したが、親との折り合いが悪く家出…と戻れない理由があり、天涯孤独で生きて行くには「住み込みで働けるところ」という限定の仕事を探していたとのこと。不運としかいいようがないなあ、という感じ。人の縁からもらえるというのはこういうことなんだなあと思った次第。ある意味、田舎の災害よりも大変だと思う。家・土地・縁があるなかでの被災と都会で一筋の縁の家族とも切れたかたちでの被災(解雇)。立ち直れる梃子の支点がないのが「縁がない」ということだ。いくら制度がととのっても保証人がいないだけで家が借りられない、だから「人の縁をかませないといけない」のだと思った。西さんの活動にも感心した。こういう人の動きを応援しなければと思った。

(2)一芸ボランティア事業 (Vに関する相談・助言事業)

勤労者のボランティア活動と福祉施設のボランティアのマッチングを促進するため、1年に1回～数回程度の単発ボランティアの機会を提供する「一芸ボランティア」を5年前に計画した。勤労者の「一芸」を登録し、福祉施設等の行事等のニーズと合わせてマッチングする仕組みだが、不況や企業側の推進団体との協力関係が継続しなかったことで、ここ数年コーディネート件数、実施件数とも減っている。今年は年間**53件の依頼**があり、そのうち**49件に対応**した。

この事業は**受入施設側の評価も高くボランティアの満足度も高い**が、福祉施設（職員）の中には「ボランティアの価値、意味が分からない、付き合い方が分からない」ことで、ぞんざいな対応のところも見受けられ、結果的にお互い気持ちよくプログラムが行われたいことも分かってきた。その対策として、本会『ボランティア情報』で施設へのボランティア受け入れの連載記事を掲載し、啓発・普及を図った。

●受入施設 県内の社会福祉施設、環境、子供、教育・・・などで各種活動するNPOなど。受入施設には事前に、こんな活動してほしいという「ボランティアへの求人票」を書いてもらいます。また、一芸登録票も受入施設にお見せします（氏名・連絡先等は非公開）。「芸は無いんだけど」という方も歓迎です。	
●ボランティア登録方法 ・企業ルート：各企業の総務担当に窓口になっていただき、社員の登録をすすめる ・一般受付：本会へ直接来所いただき、登録。	●一芸ボランティア活動の5つのメリット ①福祉施設が身近に感じられるようになる。②福祉施設に住んでいる方々との気持ち交流、励ましになる ③芸人（ボランティア）仲間同士での「気のおけない」関係ができる ⑤自分の芸を磨く励みになる。 ⑥アナタも社会もリフレッシュして世の中が“少し”良くなる！

(登録状況)

現在、一芸ボランティア登録者は161人もいるが、実際のニーズは演芸関係に集中しているため十数人の登録者に集中している。積極的に宣伝していないため、登録者、施設とも増えていない。

(ボランティアコーディネート実績 2009年度)

件数	施設名(依頼者)	ジャンル(活動者数)	コーディネーター実施日	ボランティア実施日	コーディネート経過	感想等
1	とよさとデイサービス	ケーナと尺八演奏(2人)	3月23日	4月14日(火)13:30~14:30	定例的な依頼	私たちのボランティアを毎回楽しみにしているとスタッフの人から聞きました。利用者人数20人、スタッフ5人。
2	今泉ケアセンターそよ風	ケーナと尺八演奏(2人)	2月17日	4月16日(木)14:00~15:00	定例的な依頼	男性の利用者さんは、涙が出たよ、良かったと感想を話されました。利用者25人、スタッフ4人。
3	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八演奏(2人)	3月18日	4月23日(木)14:00~15:00	一芸ボラのIさんからの依頼。	利用者人数25人、スタッフ5人。
4	グループホームうつのみやファミリー	マージャン(1人)	4月17日	4月24日(金)13:30~15:00	前回は好評のため依頼を受けマッチング。4月24日で調整し、依頼者へ報告。	利用者さんにも喜んでいただき、自分も感謝され、ありがたい。またよろしく願います。
5	とよさとデイサービス	ケーナと尺八演奏(2人)	4月14日	5月20日(水)13:30~14:30	定例的な依頼	昔が蘇ってきました、と利用者さん。喜ばれてうれしく思います。利用者22人、スタッフ6人。
6	デイサービスセンター「つるた」	ケーナと尺八演奏(2人)	4月23日	5月29日(金)14:00~15:00	定例的な依頼	演歌で大合唱の盛況でした。利用者20人、スタッフ6人。
7	こぶし作業所のバザー(オリオンスクエア)	フォルクローレ(2人)	4月22日	6月7日(日)9:30~15:00	コパンのKさんから依頼。他のメンバー2人の都合を確認し、マッチング完了。5月17日は雨天のため延期。	※悪天候の予報により中止● 
8	デイサービス「星風会」	・南京玉すだれ・紙切り ・尺八(2人)	5月12日	6月17日(水)14:30~15:00	100歳になる利用者のお祝いに、目で楽しめるボラをお願いしたいと希望され、南京玉すだれを紹介。	100歳のお誕生会を盛り上げることができました。利用者35人、スタッフ7人。
9	さつきが丘小学校	フォルクローレ(2人)	4月28日	6月24日(水)8:30~12:30	グローバルグループYさんの依頼をKSさんが受け、斎藤に連絡。	1クラス40人の児童を3クラス実施しました。授業での演奏では、児童と一緒に盛り上がり、先生も満足されていたようです。児童120人参加。先生1人。グローバル

						ープ3人。
10	コープの家 双葉二丁目	フラダンス (6人)	5月28日 6月3日 6月16日	6月24日 (水)14:00 ~15:00	施設から指名して依頼を受ける。電話で予定を確認し、他の仲間の予定を確認して6/3日に回答をいただく。6/3:3・4名で参加できると返事があり施設へ報告。6/16:6名参加、施設へ報告。	フラダンスの衣装がきれいね、と言って衣装に触ったり、足が不自由なのに立って一緒に踊りたいと言ったり、皆さんと一緒に楽しい時間を過ごさせていただきました。利用者12人。スタッフ5人。
11	とよさと デイサービス	ケーナと尺 八の演奏 (2人)	5月20日	6月25日 (木)13:30 ~14:30	定例的な依頼に基づくものです。	利用者の皆さんと一緒に楽しみましょう、と声かけしながら実施しました。利用者16人参加。
12	新田小学校 子どもの家	ジャグリン グ(1人)	5月12日	6月27日 (土)9:30 ~11:30	保護者の知り合いから、一芸ボラを知った。Oさんを指してきた。早速Oさんに電話するも、本人育休中。新田小学校子どもの家担当に電話し、今回見送り。	※マッチングならず●● 
13	新田小学校 子どもの家	・子どもたち と一緒に遊ぶ ・草笛と尺八 のコーボ (3人)	5月12日 5月13日	6月27日 (土)9:30 ~11:30	上記で駄目だったため、Nさんの指名を受ける。5月13日草笛のKさんも希望され、草笛演奏と実技指導を依頼する。同時に尺八とのコーボも実施することを告げる。	児童たちは初めて耳にする草笛に興味津津で、静かに聞いていました。草笛の体験では50人が一同に笑やら、教え合いやら、溜息やらでなかなか音が出ません。中條さんのロープを使った遊びでは児童たち一瞬びっくりの嵐。中條さんの話術と仕草に子ども達は中條さんにびったりくっついて離れない騒ぎ。50人もの児童父兄をまとめて、同じ行動をさせる術は素晴らしいと感じた。児童40人 父兄15人参加。
14	石川小学校	フォルク ローレ (2人)	6月1日	7月6日 (月)14:00 ~15:00	グローバルグループYさんの依頼をKSさんが受け、斎藤に連絡。	児童たちは最初は緊張していましたが、演奏が始まり、楽器や衣装の体験ではそれぞれ生き生きとして良い雰囲気でもまれた授業でした。児童28人、先生1人。学校のボランティア2人。
15	デイサー ビスセン ター 「つるた」	ケーナと尺 八の演奏 (2人)	5月29日	7月16日 (木)14:00 ~15:00	定例的な依頼。	施設にはカラオケの設備があり、歌は皆さん好きなようです。尺八やケーナの音に皆さん一緒になって唄われて、楽しまれました。利用者28人、職員4人。
16	しもつけ の郷	・草笛 ・尺八 (2人)	6月5日	7月17日 (金)13:45 ~14:45	定例的な依頼。今回は草笛を希望。	尺八を吹きだしたら、涙を流された利用者さんがいました。きっと曲と人生がかぶったのでしょうか。辛い思い出でしたら、済まない事をしたなと思いました。でも総じて大成功でした。利用者35人。スタッフ10人。
17	とよさと デイサー ビス	ケーナと尺 八の演奏 (2人)	6月25日	7月24日 (金)13:30 ~14:30	定例的な依頼。	いつも大歓迎でやらせていただいています。利用者25人、スタッフ3人。
18	デイサー ビスセン ター 「つるた」	ケーナと尺 八の演奏 (2人)	7月16日	8月4日 (火)14:00 ~15:00	定例的な依頼。	利用者25人、スタッフ4人。
19	とよさと デイサー ビス	ケーナと尺 八の演奏 (2人)	7月24日	8月22日 (土)13:30 ~14:30	定例的な依頼。	利用者20人、スタッフ4人。
20	とよさと デイサー ビス	ケーナと尺 八の演奏 (2人)	8月22日	9月7日 (月)13:30 ~14:30	定例的な依頼。	利用者24人、スタッフ2人。
21	デーサー ビスセン ター 「つるた」	ケーナと尺 八の演奏&歌 (3人)	8月4日	9月9日 (水)14:00 ~15:00	定例的な依頼。「新鮮さがなくなっているのでは何か違うものを」と希望されたので、はじめて宮田さんに要請する。本人は身体に障害があるものの、是非やりたいがまずは見学からと承諾をいただく。	今回初めてボランティアをした宮田さん、とっても感激された様子。次回のお約束もして終了しました。コーディネートして本当に良かったと思っています。利用者24人、スタッフ2人。
22	しもつけ の郷	・草笛、尺八 (2人)	7月17日 8月28日 9月2日	9月15日 (火)13:45 ~14:45	定例的な依頼。8月28日に日程の変更依頼あり。その後何度か変更になり、その都度ボラの都合悪く、今回の依頼は断念。次回の計画を立てた後に依頼するようにした。	※施設の都合で変更するが、ボランティアの都合がつかず中止●● 
23	宿郷北自 治会	・尺八 ・マジック (1人)	7月18日	9月19日 (土)11:00 ~12:00	前回実施の実績から、今回も依頼された。(独居のお年寄りの食事会でのボラ)	斎藤の尺八やマジックを心待ちにしているというお年寄りが多く、ボラしている側もやりがいがあります。30人参加。

24	サポセン祭り	フォルクローレとバラエティー演芸 (3人)	8月7日	10月3日 (土)10:30~14:30	一芸ボラのKSさんからの依頼。	ステージの参加でしたが、あまり入場者はいませんでした。もう少し入場者が多いと張り合いある。30人程度。
25	とよさとデイサービス	ケーナと尺八の演奏 (2人)	9月7日	10月6日 (火)13:30~14:30	定例的な依頼に基づくものです。	痴呆の方もいますが、私たちを心待ちにされている利用者さんが多く、ボラしてこちらも楽しく過ごさせていただいています。利用者21人、スタッフ2人。
26	デーサービスセンター「つるた」	ケーナの演奏、歌 (2人)	9月9日	10月8日 (水)14:00~15:00	定例的な依頼。斎藤も予定していたが、当日都合がつかなくなる。	利用者24人、スタッフ2人。
27	今泉ケアセンターそよ風	ケーナの演奏 (1人)	8月22日 8月27日	10月20日 (火)14:00~15:00	定例的な依頼。8月27日に、老健施設協議会から斎藤に講演の依頼があり、重複するため、Iさんに事情を説明。了解をいただきIさん一人で実施。	ボランティアの私も楽しませていただきました。利用者25人、スタッフ4人。
28	第5回こころ祭り(こころ給食サービス)	フォルクローレとバラエティー演芸 (3人)	9月15日 9月16日	10月25日 (日)11:00~11:30	おおきな木のMさんの依頼。直ちにI嵐さんに予定を確認すると、承諾をいただく。KSさんの予定も確認し、3人での出演も視野に入れてマッチングする。9月16日の承諾をもらう。	「ケーナって楽器はいい音色だね」。マイクの準備に時間がとられ、予定した曲の半分しかできませんでしたが、周りの人々からは楽しまれた様子でした。約50人程度の人々が楽しめました。
29	知的障害者施設「せせらぎ会・ウィズ」	フォルクローレとバラエティー演芸 (3人)	6月24日	11月3日 (祝)11:30~12:30	昨年実績から、一芸のKSさんに連絡が入る。	100人程度のお客がいました。演じる場所と、お客さんの位置が遠いので、一体感がありませんでした。いまいち盛り上がり欠けたボランティアでした。
30	陽南小学校	フォルクローレ (3人)	4月28日	11月6日 (金)13:00~15:00	グローバルグループのYさんの依頼をKSさんが受け、斎藤に連絡。	※先方の都合(新型インフルエンザ)により延期。●● 
31	南生涯学習センター	・マジック ・尺八 (1人)	8月11日	11月7日 (土)10:00~13:30	昨年実績から宇都宮サポセンのKさんの依頼。	マジックも尺八とケーナも楽しんでいただきました。40人位見たり聞いたりされました。
32	とよさとデイサービス	ケーナと尺八の演奏 (2人)	10月6日	11月12日 (木)13:30~14:30	定例的な依頼。	利用者24人、スタッフ2人。
33	パルティー祭り	フォルクローレとバラエティー演芸 (2人)	8月7日	11月14日 (土)13:00~13:30	一芸ボラのKSさんからの依頼。	小さな子どももいましたので、崖の上のポニョを演奏したり、コンドルは飛んで行くのアンコールをいただき、観客と楽しく過ごした。大人20人、子ども6人
34	横川西小学校	箏曲の演奏 (2人)	8月10日	11月19日 (木)9:30~12:40	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環で、四季音の会のO先生から依頼。一芸ボラの実績とする。	6年生3学級計約90人に、尺八や箏の体験や模範演奏を聴いてもらい、子どもたちの邦楽に対する意識や興味を抱いてもらうことができたと思います。
35	わいわい道場宿	フォルクローレとバラエティー演芸 (2人)	4月28日	11月22日 (日)~	わいわい道場塾の依頼をKSさんが受け、斎藤に連絡。その後何度か日程変更になり、最終的に11月22日となる。斎藤が都合付かず他の2人をお願いする。	5周年記念のフェスティバルでした。依頼を受けた黄瀬さんが急逝され、ピンチヒッターにYさんの南京玉すだれをお願いしてやりました。
36	鹿沼市府中町老人会	フォルクローレとバラエティー演芸 (2人)	8月7日	11月23日 (祝)14:00~	一芸ボラのKSさんからの依頼。	一年に一度のお楽しみ会という催しでした。黄瀬さんが急逝されましたが、お引き受けてやりました。25人程度のお年寄りが参加され、皆さん喜んでいました。主催者のらは力強い握手を求められ、来年の約束をしました。
37	とちぎ熱気球大会	箏曲の演奏 (2人)	9月29日 10月1日 10月8日 11月10日 11月11日 11月14日 11月15日 11月16日	11月23日 (祝)18:00~19:00	以前マロニエリビング新聞の取材を受けたことがきっかけで依頼を受けた。熱気球大会の表彰式、さよならパーティーで日本の伝統的な楽しい催しを希望。一芸ボラのKSさんが相応しいと思い依頼。10/8回答あり。11月14日KSさんが亡くなる。一芸ボラの都合がつかず、11月16日一芸ボラに未登録のIBさんをお願い	インターナショナルな熱気球大会だけあって、表彰式には120を超える人の中、外国の人が70%位占めていました。入場時には、外国の人達は私たちの衣装に驚きと称賛の拍手。演奏中も30人を超えるカメラのフラッシュ。演奏中もざわついていたが、聞いてくださっているなという印象でした。じて日本の伝統芸能を外国の人に紹介できたことに、やりがいと満足感を得たボランティアでした。

					いする。快く引き受けていただきホッとす。事務局に報告。	
38	陽南小学校	箏曲の演奏 (2人)	9月24日	11月27日 (金)10:00 ~12:00	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環で、宮城音の会の石林先生から依頼される。	3クラス、90人を指導。1時間では物足りず、子どもたちはもう少し体験したがっていた様子。日本の伝統楽器に触れて感激していたように感じました。
39	デイサービスセンター -「つるた」	ケーナと尺八の演奏&歌 (3人)	10月8日	11月28日 (土)14:00 ~15:00	定例的な依頼。	土曜日のため初の利用者さんが4人いました。お暇するときには手を振って別れを惜しまれていました。利用者20人、職員3人。
40	陽南小学校	南米アンデス地方の音楽の授業 (1人)	11月24日	12月10日 (木)10:00 ~12:00	定例的な依頼。	Yさんの説明に次いで、児童90人を3グループに分け、ケーナの試奏を実施する。何人かの児童はケーナを吹いて音が出たことが嬉しかったという感想をもらい、満足できました。
41	雀宮南小学校	箏曲の演奏 (2人)	9月24日	12月14日 (月)10:00 ~12:00	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環で、宮城音の会の石林先生から依頼される。一芸ボラの実績とする。	6年生3学級計約90人に、尺八や箏の体験や模範演奏を聴いてもらい、子どもたちの邦楽に対する意識や興味を抱いてもらうことができたと思います。
42	デイサービスセンター -「つるた」	尺八とケーナの演奏&歌 (3人)	11月28日	12月16日 (水)14:00 ~15:00	定例的な依頼に基づくものです。	利用者24人、スタッフ2人。
43	姿川第一小学校	箏曲の演奏 (2人)	12月1日	12月21日 (月)9:00 ~16:00	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取り組みの一環で、四季音会のO先生から依頼。	お琴の先生と合同で、1クラス35人の教室を4クラス実施。140人の児童に箏や尺八吹奏を指導しました。
44	デイサービスにしはら	・マジック ・尺八 (2人)	10月20日 10月21日	12月24日 (木)14:00 ~15:00	一芸ボラのSさんから、ボランティアのピンチヒッターの依頼を受け、マッチング。マジックの依頼だったが、メンバーで対応できないので、一芸ボラの中で対応できないかと依頼されたも。Iさんに確認し、承諾。斎藤もボラすることを施設へ報告して完了。	25人の利用者参加。マジックに、尺八にと利用者さん満足され、一緒にお茶などをいただいたボランティアでした。
45	岡本西小学校	箏曲の演奏 (2人)	9月24日	12月25日 (金)10:00 ~12:00	日本の伝統芸能を学校授業で指導する宇都宮市の取組みの一環で宮城音の会のY先生から依頼。	一クラス30人を二クラス指導し、春の海を演奏しました。約60人の児童参加。
46	那須療護園	尺八 (1人)	12月16日	1月6日 (水)14:00 ~14:30	理事の二見さんから依頼を受け、お受けする。	約50人の利用者が参加。虚無僧のいでたちで入場後、童謡で春夏秋冬を一緒に歌い、最後に演歌で大盛り上がり、こちらも楽しませていただきました。
47	介護老人ホームいずみ	尺八 (2人)	12月1日	1月16日 (土)14:00 ~14:40	昨年10月に老健センター研修会での講演を聴いたことがきっかけで、依頼を受ける。	なんと120人の利用者の中でボラしてきました。
48	デイサービスセンター 「つるた」	尺八とケーナの演奏&歌 (3人)	12月16日	1月21日 (木)14:00 ~15:00	定例的な依頼。	利用者22人。
49	県庁ロビーコンサート	フォルクローレ、バラエティ -演芸(2人)	7月15日	2月24日 (水)12:00 ~13:00	一芸ボラの五十嵐さんが申し込んだ。	約200人が熱心に私たちの演奏に聞き入っていました。終演後沢山の質問や良かったなどのお声をいただきました。
50	デイサービスセンター 「つるた」	尺八とケーナの演奏&歌 (3人)	1月21日	2月26日 (金)14:00 ~15:00	定例的な依頼。	利用者23人、スタッフ3人。
51	デイサービスセンター オリーブ	尺八 (1人)	1月26日 1月27日		一芸ボラのパンフを見て、ボランティア派遣の依頼を受ける。施設の雰囲気等を知る上で、斎藤が最初に実施することにした。施設の方でも、私がパンフの本人と知ると、是非と依頼をされた。1月27日電話で訪問日を告げると利用者は1人だという。もともと少人数で3人位の利用者さんの施設のようなのだが、いくらなんでも1人では恰好がつかず、複数人数が揃う日を改めて示していただく。2月一杯待ったが、連絡なし。 ※一旦コーディネートを打ちきる。	
52	鹿沼市立板荷中学校	フォルクローレ(1人)	2月11日	3月15日 (月)10-13時	グローバルグループのYさんから、斎藤に依頼。	20人の生徒全員がケーナの音を出すことができた。実のある授業でした。
53	デイサービスセンター 「つるた」	尺八とケーナの演奏(2人)	2月26日	3月30日 (火)14:00 ~15:00	定例的な依頼。	利用者22人、スタッフ2人。

(3)「NPO見本市&栃木ボランティア・市民活動フォーラム 2009」の実施 (Vに関する研修事

事)

前期同様、栃木県からの委託事業として「NPOメッセ(見本市)」と「フォーラム」を合体した形で実施した。7月からはプレ実行委員会、10月から実行委員会を組織して、市民活動者を中心に分科会等の企画をおこなった。

成果として、実行委員会による運営は組織・分野の横断的なつながりを作るとともに、**10年後の社会を予想することで、問題解決への共通認識と今後の運動の方向性をつくった。**

実行委員会による民間(NPO・ボランティア個人)の創意工夫やネットワークによる集客力と、県担当課の会場の確保(県施設シルバー大学校)と県関係機関への協力要請により、民間単独、行政単独では通常ではできない集客(約600人)ができた。NPO見本市に出展参加したNPOは60団体が参加した。「寄付イベント」「ワークショップ」などの催しも実施した。

<p>●運営体制：実行委員41人：前田利一、矢野正広、塚本竜也、塩澤達俊、宝島文代、石垣、真田礼子、今泉、関口清美、山中節子、栃原晋太郎、吉井久乃、中野謙作、白崎一裕、野添透、岩井俊宗、永島一彦、鈴木美恵子、土屋友里、仲村久代・茂木俊雄・小林英恵・手塚茂季、赤木健一、高野悠、佐藤隆司、増田茂、大浦智子、西岡隆、古川和稔、渡辺みゆき、二平明美、渡邊厚司、岡田正彦、石井直子、安藤正知、徳山雄一、大金和人、田中義博、福田雅章、平木千紗子。本会が実行委員会代表兼事務局</p> <p>●実行委員会開催日：11回(のべ137人) 7/30(8人)、8/12(8)、9/24(5)、10/1(17)、10/19(12)、11/5(21)、11/13(4)、11/27(6)、12/3(22)、1/8(23)、2/1(11)</p> <p>・開催場所：本会事務所(栃木県宇都宮市)</p> <p>・前日会場設営手伝い：約20人 ・当日運営スタッフ：40人</p>	<p>●参加者：約600人・うち「フォーラム」参加者：約340人</p> <p>●主催：栃木県、●企画実施：「フォーラム・見本市」実行委員会(とちぎボランティアネットワーク)、●協力：栃木県シルバー大学校</p> <p>●実行委員会参加団体：マイホームきよはら、とちぎ地域生活定着支援センター、食事サービスさくらそう、せせらぎ学園、栃木ダルク、とちぎAKK研究会、宇都宮市民活動サポートセンター、真岡市市民活動推進センター、NPO栃木タイムズ、とちぎユースサポーターズネットワーク、とちぎコミュニティファンド、とちぎ協働デザインリーグ、おおきな木、宇都宮まちづくり市民工房、若者自立塾・栃木、とちぎボランティアネットワーク、とちぎユースワークカレッジ、共に生きるために、サバイバルネットワーク、空飛ぶモニョンゴロ村、エコ・ハウスたかねざわ、とちぎYMCA、アムネスティ宇都宮、とちぎ労働福祉事業団</p>
--	--

2010年2月10日	■「NPO見本市&栃木ボランティア市民活動フォーラム2010 一ほっとけない、ほっとかない! 10年後の栃木のために、いまできること」	参加
目的	栃木県民に対してボランティアやNPOについての啓発・普及するとともに、一般の参加者には、身近な地域にあるNPOや民活動団体への参加を促す機会とする。同時に分野を超えたNPO関係者による共通テーマによる全体会・分科会形式での討論会を行うことで県内NPO・市民活動の担い手の相互研鑽の機会とする	600人
内容	<p>(1) 企画の概要</p> <p>■企画A「NPO見本市」 一般市民へのNPO等市民活動団体の紹介・対話の機会となる「NPOの見本市」を開催した。シルバー大学校中央校で開催することにより、特に定年退職した団塊の世代へのアピールを図った。見本市参加団体は55団体となった。 また、活動をアピールする「体験ワークショップ」を行なう団体を募った。体験ワークショップの出展は3団体となった。 (うち2団体はNPO見本市にも同時出展) 他にNPO・ボランティアの相談コーナーを設置し、県内NPOの中間支援団体が交代で出張相談にあたった。 「寄付もボランティアのひとつの方法」であることを促進するため、昨年同様「寄付イベント」を開催した。来場者が500円で寄付券と交換し、NPO見本市会場で各団体の活動を見て「自分が応援したいNPO」に100円ずつ寄付する仕組みである。最後の全体会で寄付額ベスト3を発表した。</p> <p>■企画B「栃木ボランティア・市民活動フォーラム2010」 NPO分野を横断した研修会は、本会が過去6回実施してきた「栃木ボランティア・市民活動フォーラム2010」として実施した。NPO関係者42人で実行委員会を組織し、全体会と分科会について企画実施した。 今回は「参加と討論」をキーワードにして分科会を構成。実行委員や分科会テーマも公募し、さらに分科会担当実行委員はテーマに従って「10年後の悪夢のシナリオ」を作成して、事前にホームページ等で公表。それを元に当日、分科会での討論に参加する企画とした</p> <p>(2) 日程・講師</p> <p>■10:00-10:30「全体会I～10年後ちょっと過激な「悪夢」の予測。分科会&見本市ガイダンス」…講堂にて ◎主催者挨拶：実行委員会代表 栗山宏(とちぎボランティアネットワーク理事長) ◎総合司会/矢野正広(とちぎボランティアネットワーク事務局長) ◎全体会Iガイド(基調講演)/廣瀬隆人(宇都宮大学教授)</p> <p>■10:40-15:00「NPO見本市」…ロビー2階廊下、A教室にて。55団体による展示、販売、活動紹介。A教室ではこのほかに、ボランティア・NPO相談コーナーを設置。</p> <p>■10:45-12:45「栃木ボランティア・市民活動フォーラム2010」分科会…B教室、C教室、多目的ホール、講堂</p> <p>■11:00-15:00「体験ワークショップ」…小会議室</p> <p>■13:30-15:30「栃木ボランティア・市民活動フォーラム2010」分科会…B教室、C教室、演習室A、演習室B</p> <p>■15:40-16:00「全体会II～各分科会報告とパンドラの函に残るもの」…多目的ホールにて。進行/矢野正広(とちぎボランティアネットワーク)</p> <p>※他に、準備で前日(2/6)16:30から20:00まで会場設営を行った。当日も9:00から10:00まで、16:00から17:00にそれぞれ備品搬入、撤収を行った。</p>	
(3) 各分科会の内容 分科会名・テーマ・講師等		
第1分科会 【孤独・無縁】 (10:45-12:45)	<p>(シナリオ概要) 10年後、お金がない高齢者は介護保険の費用が負担できず、家庭内介護に逆戻り。その結果「老老介護」や「認一認介護」が増え、疲労の末に介護うつ病になったり、介護殺人・介護心中も増加。いっぽう障害者の自立は一向に進まず、お金がなくて福祉サービスを利用できない人たちは、ま</p>	<p>実行委員：塩澤達俊(マイホームきよはら施設長)、古川和稔(宇都宮短期大学専任講</p>
		参加 50人

<p>他人事ではない「孤独のコミュニティ」。10年後あなたは何歳？</p>	<p>すます家に引きこもる。家にもいられない・肉親がいない知的障害者等は貧困ビジネスに利用され、反社会的な行動に走って刑務所を出たり入ったり、そのうちに路上死…。</p> <p>仕事に就けない若者も、家庭崩壊による子どもの孤立も、コミュニティの中ではなかなか見えてこないし見ようもしない。自殺や虐待、殺人、孤独死などの悲劇が起きてから初めて気づく、他者とのつながりの無さ。いつの間にか地域から「あの人」がいなくなり、ある日突然、家も壊され更地になった。葬式もあげたのがどうも分からない孤独。そして困難から抜け出す力もチャンスも得られずに、孤立は親から子へと伝播していき、未来はますます見えない…。10年後あなたは何歳？</p>	<p>師)、関口清美(地域生活定着支援センター)、山中節子(食事サービスクラ草)、渡辺みゆき(せせらぎ学園)、二平明美</p>	
<p>第2分科会 【立ち直り-自殺・犯罪・薬物-】 (10:45-12:45)</p> <p>「人は正しい事しかししない生き物ではない。再出発の方法と必要性について考える。」</p>	<p>(シナリオ概要) 現在の自殺者数の推移から、10年後には年間4万5000人が自殺すると算出される。約3人に1人は自殺を経験(未遂、希死念慮)するというシナリオも浮かび上がってくる。また、アルコール依存症者は現在81万人、薬物依存症者は10万人と発表されているが、共に医療に関わった経験のある人数だけであり、暗数は現在でもかなりの数になると関係者の間では語られている。</p> <p>先進諸外国の中で唯一、犯罪や薬物問題に対するリハビリの必要性が語られていない日本が10年後に果たしてどのような国になるのか?人は正しい事しかししない生き物ではない。再出発の方法と必要性についてみなさんと考えてみたい。</p>	<p>実行委員: 渡邊厚司(マロニエ医療福祉専門学校講師)、岡田正彦(岡本台病院精神保健福祉士)、栃原晋太郎(栃木ダルク職員)、野添透(とちぎAKK研究会代表)</p>	66人
<p>第3分科会 【多文化共生】 (10:45-12:45)</p> <p>外国人が日本で生活できる社会になるか。外国人2世は「外国人」なのか!?</p>	<p>(シナリオ概要) 昨年度末の外国人登録者数は2,217,426人と毎年過去最高記録を更新しています。10年経つとどうなるか。国際化による良い面も増えますが、生活課題も増えます。就労では不安定な労働環境の中で働き、不景気になれば真っ先に切られ、住居を失います。仕事を失った外国人の多くが住む地域は不法滞在者も含めて、スラム化するでしょう。生きるための犯罪も増えるでしょう(08年度の検挙人数7148人、98年度は5382人)。その他、外国人高齢者の介護や施設入居などや、日本の教育についていけなくなった外国人の子供たち、若者の居場所がなく非行に走るなども、考えられます。外国人への適切な情報提供が進まなければ、教育、医療、福祉、法律、その他日常生活に必要な情報が届かず、適切な社会保障を受けられません。そして安心した生活や社会における居場所もなくなっていくでしょう。</p> <p>今年成立した「外国人登録法」や、「出入国管理・難民認定法」改正案も踏まえ、10年後が最悪のシナリオ通りにならないように今から何をすべきか考えます。</p>	<p>実行委員: 岩井俊宗(宇都宮市民活動サポートセンター)、永島一彦(真岡市民活動推進センター)、鈴木美恵子(NPO栃木タイムズ)、石井直子(とちぎユースサポーターズネットワーク)</p>	37人
<p>第4分科会 【助成金審査】 (10:45-13:00)</p> <p>寄付金の助成審査に関わるチャンス!「とちぎゆめ基金」審査会&「花王ハートポケット倶楽部地域助成」贈呈式</p>	<p>●「ゆめ基金」は障害児者等の生きづらさを抱えた方の社会参加を応援する活動への助成です。県内NPOに最高30万円が助成されます。寄付をどの団体のあげると元気になるか。この分科会参加者は一人1票で審査会に参加してもらいます。選ぶのはあなた!</p> <p><参加方法></p> <p>①贈呈式会場受付で投票用紙もらう →②応募団体のプレゼンテーションを聞く →③選考基準に沿って「これは!」と思った団体名を記入(・活動対象の現状、課題に沿った必要性・事業の効果、継続性・実現可能性 ※ぜひ!メッセージを添えて投票を) →④結果発表を待つ</p> <p>●同時開催「花王ハートポケット倶楽部・地域助成(栃木地区)贈呈式」 ～心あたたまる栃木にする団体助成～</p>	<p>実行委員: 土屋友里・前田利一・矢野正広・安藤正知(とちぎコミュニティファンド)</p>	41人
<p>第5分科会 【仕事がない】 (13:30-15:30)</p> <p>仕事がない。給料がない。その時あなたは、社会はどうなる、どうする。</p>	<p>(シナリオ概要) 世界同時不況とともに国内の景気も一進一退。政府は20世紀の成功体験をもとに様々な政策を打ち出すが功を奏さない…新しい社会モデルを構築できないまま10年がたった。その間、完全失業率は10%を超え(失業者650万人)、生活保護世帯も200万を超えた。労働人口の高齢化が進み、若者は就職機会を喪失(若者の失業率は20%強)し、経験の蓄積や技能の伝承がされないまま国際競争力も失った。大都市では路上生活者も増え、人々は不安の中に暮らし、社会的に孤立する人も増加。利根的・反社会行動を起こすなど治安は悪化し、現在3万5000人の自殺者数も急増する。若者を中心に仕事を求めた海外出稼ぎも特別ではなくなった。</p> <p>一方で以前より従事者の高齢化が問題となっていた農業、林業など、暮らしを支える第一次産業は次の担い手を育てることができないままとなり、耕作放棄地の増加、森林の荒廃など、食糧生産、国土の保全も危機的状況となる。日本の食糧自給率はついに20%を割ってしまった。</p> <p>「働きたくても働くことができない時代に、どのような社会を構築するか」を考えます。</p>	<p>実行委員: 塚本竜也(若者自立塾・栃木)、徳山雄一・大金和人(とちぎボランティアネットワーク)、田中義博(とちぎ労働福祉事業団)、吉井久乃(とちぎユースワークカレッジ)</p>	18人
<p>第6分科会 【教育費高すぎ!】 (13:30-15:30)</p> <p>格差拡大の真犯人は「教育」だ!! 教育を受ければ受けるほど貧困になる</p>	<p>(シナリオ概要) 1990年代からのグローバル化の進展により金融資産を1億2000万円以上持つ富裕層「A層」、年収800~1000万円の「B層」、年収300万円前後の多数派「C層」、失業・無業者の「D層」が形成された。英国のような階層化社会の出現だ。現在でも国立文系の学費は年60万円、プラス生活費の仕送り…。当然C層やD層の子もたちは教育が将来の希望や夢につながる実感が持てない。むしろ、それぞれの階層を固定化する教育がおこなわれ、富めるものはより富み、貧しいものはより貧しくなる「アリ地獄構造」から抜け出せなくなる。C層・D層の多数派の子もたちは、そのまま成人し高齢化するが、いずれの世代も社会を維持できない。どんどん教育の形骸化がすすみ、教育が死をむかえ、世代を超えた文化の伝承は途絶える。さて、どうする教育。希望</p>	<p>実行委員: 中野謙作(とちぎボランティアネットワーク)、白崎一裕(樹共に生きるために)、福田雅章(児童養護施設 養徳園園長)</p>	23人

<p>第7分科会 【貧困】 (13:30-15:30)</p> <p>「衣食住がないだけでなく、夢も希望も人間関係もない10年後にしないために今からできること。」</p>	<p>の原理としての教育は可能か？ いま、私たちを問い直そう。</p> <p>(シナリオ概要) 10年後このままの日本だと貧困はどうなるか。超高齢化が政府財政を圧迫、健康保険・年金制度も破綻。現在120万世帯の生活保護世帯も格段に増える。さらに「生保」予備軍はその4倍の600万人とも予測されるが、窓口対応に保護申請を諦め、生保世帯よりも厳しい暮らしを強いられる。景気は低迷し労働人口の3割・1500万人が不安定な雇用、ワーキングプア(年収150万円以下)も常態化。500万人がフリーターのまま老いていく(内35歳以上人口は200万人)。引きこもり世帯も100万を超え、低所得の若者は結婚もできず少子化も加速。</p> <p>一方で人間関係が希薄化し「助け合い」「縁」が廃れ「支えあい」もなくなる。人間関係の貧困が、特に高齢者・母子世帯・若年無業者・ワーキングプア…を中心に夢や希望も持てない「心の貧困」を生む。…貧困の連鎖を断ち切るために私たちができることは！?</p>	<p>実行委員: 前田利一(おおきな木)、仲村久代・茂木俊雄・小林英恵・手塚茂季(サバイバルネットライフ)、赤木健一・平木千紗子(とちぎボランティアネットワーク)</p>	41人
<p>第8分科会 【気候変動・温暖化】 (13:30-15:30)</p> <p>地球環境の変化が激しすぎ。人間が起こしたなら人間が何とかしなきゃ。</p>	<p>(シナリオ概要) 温暖化で海面が上昇して陸地が失われ、海岸沿いではしばしば高波が押し寄せる。都会だけでなくあちこちで激しい局地豪雨や巨大台風に見舞われ、洪水や土砂災害に襲われて家を失う。砂漠化で農地を捨て移動した先で元の住人と土地の奪い合い。気温の変化で動物も植物も住む地域が移動して生態系が大混乱、農業・漁業は激変についていけない。今までなかった病虫害の対策に追われる。世界で既に起こっている不安定で激しい気象が、10年後にはさらに加速すると言われる。</p> <p>環境の変化と資源の枯渇や奪い合いで自然と社会はどうなっていくのか、環境に関する情報を整理し、山の自然から変化を直接感じている林業家の報告と提言を手掛かりに検討します。悪い予測が多い中でもあきらめる選択肢はない。未来のために、個人・家庭・共同体で私たちが取るべき具体的処方箋を交換し、「足るを知る」という古代からの知恵を現代の生活にどう活かせるかも考えましょう。</p>	<p>実行委員: 高野悠(とちぎユースサポーターズネットワーク)、佐藤隆司(空飛ぶモニヨンゴロ村)、増田茂(エコ・ハウスたかねざわ)、大浦智子(とちぎYMCA)、西岡隆(アムネスティ宇都宮)</p>	36人

NPO見本市参加団体

団体名 【活動分野・内容/団体所在地】 N) = NPO法人の略			
1	とちぎ骨髄バンクを広める会【医療/宇都宮】	27	シャプラニールとちぎ架け橋の会【海外協力/宇都宮】
2	わたらせ渓谷鐵道市民協議会【まちづくり、文化/群馬県桐生市・足尾町】	28	JVCとちぎネットワーク【海外協力/宇都宮】
3	N) 飛山城跡愛護会【まちづくり、史跡の保護/宇都宮】	29	N) ホワイトナイルカレッジ【若者/大田原】
4	N) e-とちぎ【まちづくり、産業振興/宇都宮市】	30	はが路100km徒歩の旅実行委員会【子ども、青少年育成/真岡】
5	N) とちぎノーモライゼーション研究会【福祉用具・バリアフリー住宅/宇都宮】	31	N) 塩谷町旧熊ノ木小学校管理組合【地域活性化/塩谷】
6	N) スペシャルオリムピックス日本・栃木【障害者/宇都宮】	32	横川地区こどもとふれあう会【子ども/宇都宮】
7	栃木県健康生きがいがいづくり協議会【高齢者、生きがいがいづくり/那須塩原市】	33	もったいないマーケット【環境/宇都宮】
8	生きがいの郷 からすやま【高齢者/高根沢】	34	N) サバイバルネット・ライフ【DV問題、母子/小山】
9	N) まごの手【高齢・障害・育児/佐野】	35	八重桜の会【まちづくり/栃木】
10	生涯学習推進センター「グラッド」【社会教育/鹿沼市】	36	モア プラス【女性起業家支援/佐野】
11	地球環境女性連絡会(GENKIとちぎ)【環境/宇都宮】	37	N) 栃木DARC【セルフヘルプ・薬物依存/宇都宮】
12	N) 日本樹木育成研究会【環境/宇都宮】	38	N) 国際自然大学校【環境学習、若者/日光】
13	とち木 ^o の会【環境/日光】	39	若者自立塾・栃木【若者/市貝町】
14	N) 森と家をつなぐ会【環境/那須】	43	N) トチギ環境未来基地【森林保全、若者/益子】
15	エコネットかぬま【環境/鹿沼】	41	オレンジいろの会【セルフヘルプ/宇都宮】
16	N) とちぎ障害者労働自立センターゆめ【障害者/高根沢】	42	N) とちぎ教育ネットワーク【若者・教育/宇都宮】
17	エコ・ハウスたかねざわ【環境/高根沢】	43	高認支援プロジェクト協議会【若者・教育/高根沢】
18	災害ボランティアオールとちぎ&N)とちぎボランティアネットワーク【災害復興支援・中間支援/宇都宮】	44	N) キャリアコーチ【若者/大田原】
19	N) はばたき【障害者/日光】	45	とちぎ県北若者サポートステーション【若者/大田原】
20	N) ひまわり【障害者/宇都宮】	46	とちぎ若者サポートステーション【若者/宇都宮】
21	NPO 栃木タイムズ【在留外国人支援/宇都宮】	47	とちぎ県南若者サポートステーション【若者/小山】
22	チベトチ【海外協力、人権、平和/宇都宮】	48	とちぎユースサポーターズネットワーク【若者/宇都宮】
23	N) もうひとつの美術館【芸術・障害者/那珂川】	49	とちぎユースワークカレッジ【若者/宇都宮】
24	宇都宮台北高雄友の会【国際交流/宇都宮】	50	N) チャレンジド・コミュニティ【障害者/宇都宮】
25	とちぎYMCAチャリティラン実行委員会【障害者/宇都宮】	51	宇都宮まちづくり市民工房【まちづくり/宇都宮市】
26	26 (財)とちぎYMCA【海外協力/宇都宮】	52	とちぎボランティアNPOセンターぼばら【中間支援/宇都宮】

(財) 栃木県臓器移植推進協会、栃木県・農村振興課(とちぎ夢大地応援団)、宇都宮大学生涯学習教育研修センター

(2)「体験ワークショップ」実施団体

<p>①NPO 法人ホワートナイルカレッジ 「幸せをつかむ・アートワーク」</p>	<p>講師：河野辺尚美さん…10:00～15:00 随時開催。手のひらと指で絵を描く</p>
<p>②エコ・ハウスたかねざわ(NPO 法人とちぎVネット) 「マイ箸づくり」</p>	<p>…10:00～15:00 随時開催。間伐材による箸づくり。箸からわかる森林のこと。</p>

③「おもしろ介護」	講師：末吉尚子さん…10：00～15：00 随時開催。 古武術の動作を応用した力の要らない、腰を痛めない介護のワザを伝授。
------------------	--

(3)「寄付イベント」

<p>①ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付を通じて来場者がNPO、市民活動、その背景についての理解を深める ・普段はボランティア活動になかなか参加できない人へ寄付を通じた貢献の機会をつくる ・NPO のファンドレイジングの方法の一つとしての寄付を定着させる → 寄付が習慣（文化）となるきっかけとする。（寄付する側も受け取る側も） <p>②大まかな流れ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 来場者に寄付券を、受付、寄付券販売所で買ってもらう。（説明の紙も渡す） 2. ドナーが見本市を歩き、興味のある団体のブースを訪れ、内容をじっくり聞く。団体側は、寄付してもらえるように、寄付の用途やその後のフォローなども伝える。 	<ol style="list-style-type: none"> 3. ドナーがここに共感した、応援したい、団体を決める。 4. 寄付券に寄付する団体の番号を書く（あればコメントも） * 5枚とも1団体へでも、1枚ずつ5団体へでもOK 5. 寄付ボックスへ入れる 6. 締め切りになったら、寄付ボックスをあけ、担当が集計。 7. 15:40からの全体会の時間に、上位3団体の結果を発表、表彰。 8. 終了後、それぞれの団体に寄付額を現金で渡す。券も渡す <p>寄付金総額 64,500円</p> <p>・寄付額上位2団体：若者自立塾・栃木、YMC Aチャリティラン実行委員会</p>
--	--

(4)講師派遣事業 (Vの啓発・普及事業)

ボランティア活動、NPOの啓発普及のため、本会役員等を講師として派遣した。派遣は77回で、昨年の70回と1割増え、3年前の78回とほぼ同じになった。災害ボランティアオールとちぎのメンバー自身が講座運営をできるように積極的に講師の補助員として参加した。分野は久しぶりにNPO関連・ボランティアコーディネーション関連の講師依頼があった。

回	月日	講座名	主催等	場所	派遣講師
1	4/8(水)	シルバー大北校「防災マップ作成①」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
2	4/10(金)	シルバー大中央校「防災マップ作成①」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
3	4/15(水)	シルバー大北校「防災マップ②③」フィールドワーク	栃木県健康福祉協会	矢板・喜連川	矢野正広
4	4/16(木)	シルバー大南校「防災マップ①」	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
5	4/17(金)	シルバー大中央校「防災マップ②③」フィールドワーク	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
6	4/22(水)	宇大国際学部・大学院「NPO起業論①」	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
7	4/22(水)	シルバー大北校「防災マップ④」まとめ	栃木県健康福祉協会	矢板	中野謙作
8	4/23(木)	シルバー大南校「防災マップ②③」フィールドワーク	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
9	5/1(金)	宇大国際学部・大学院「NPO起業論②」	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
10	5/13(水)	宇大国際学部・大学院「NPO起業論②」	宇都宮大学	宇都宮	矢野正広
11	5/7(木)	市町NPO支援センター責任者会議「中間支援の意味」	ぼぼら	宇都宮	矢野正広
12	5/9(土)	防災士講座「災害とボランティア」	防災士研修センター	東京	矢野正広
13	5/13(水)	シルバー大北校「防災マップ⑤」発表	栃木県健康福祉協会	矢板	中野謙作
14	5/14(木)	シルバー大南校「防災マップ④」まとめ	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
15	5/15(金)	シルバー大中央校「防災マップ④⑤」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
16	5/29(金)	「移動寺子屋～被災するとはどういうことか」シンポジウム	震災がつなぐ全国ネットワーク	大分・由布市	矢野正広（他震つな役員5人）
17	6/3(水)	シルバー大北校「V実習発表①②」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
18	6/4(木)	シルバー大南校講座「防災マップ⑤」発表	栃木県健康福祉協会	栃木	矢野正広
19	6/5(金)	防災士講座「災害とボランティア」	防災市研修センター	福島・郡山	矢野正広
20	6/10(水)	災害講座①「避難所運営ゲーム」	鹿沼市社会福祉協議会	鹿沼	矢野・柴田・徳山・青木・関口・君嶋・永森
21	6/11(木)	シルバー大南校「V実習発表①②」	栃木県健康福祉協会	栃木	中野謙作
22	6/16(火)	シルバー大中央校「V実習発表①②」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
23	6/17(水)	鹿沼社協・災害講座②復興支援	鹿沼市社会福祉協議会	鹿沼	矢野・柴田・徳山・青木・関口・君嶋
24	6/18(木)	シルバー大南校「自主研究①②」	栃木県健康福祉協会	栃木	中野謙作
25	6/20(土)	「ボランティア入門」講座	県障害者スポーツ協会	宇都宮	矢野正広
26	6/23(火)	シルバー大中央校「自主研究①」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
27	6/26(金)	シルバー大中央校「V実習発表①②」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
28	6/30(火)	シルバー大中央校「自主研究②」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
29	7/1(水)	シルバー大北校「自主研究①②」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
30	7/3(金)	シルバー大中央校「自主研究①」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
31	7/3(金)	ボランティアコーディネーター講座「情報収集と発信」	県・総合教育センター	宇都宮	矢野正広

32	7/8(水)	中高年・退職者のボランティア講座	栃木県雇用開発協会	宇都宮	矢野正広
33	7/9(木)	シルバー大南校「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	栃木	中野謙作
34	7/10(金)	シルバー大中央校「自主研究②」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
35	7/12(日)	町内会防災講座	今泉町自治会	宇都宮	矢野、菊池、柴田、徳山、青木、天知、関口や、関口み
36	7/14(火)	シルバー大学中央校「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
37	7/15(水)	シルバー大学北校「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
38	7/16(木)	シルバー大南校「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	栃木	中野謙作
39	7/21(火)	シルバー大中央校「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
40	7/23(木)	シルバー大南校「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	栃木	中野謙作
41	7/24(金)	シルバー大中央校「自主研究③④」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
42	7/28(火)	「中高生ボランティア講座・災害について」	鹿沼市社会福祉協議会	鹿沼	矢野、青木、柴田
43	7/29(水)	シルバー大北校「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
44	7/30(木)	シルバー大中央校「自主研究⑤⑥」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
45	8/18(火)	シルバー中央校「自主研究⑨⑩」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
46	8/19(水)	シルバー大北校「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	矢板	中野謙作
47	8/20	シルバー大南校「自主研究⑨⑩」	栃木県健康福祉協会	栃木	中野謙作
48	8/21	シルバー大中央校「自主研究⑦⑧」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	中野謙作
49	8/31(月)	ヘルパー講座「ボランティア実習・オリエンテーション」	介護労働安定センター	宇都宮	矢野、菊池
50	9/2(水)	シルバー大北校「自主研究⑨⑩」	栃木県健康福祉協会	矢板	矢野正広
51	9/4(金)	シルバー大中央校「自主研究⑨⑩」	栃木県健康福祉協会	宇都宮	矢野正広
52	9/6(日)	防災ボランティア講座	大田原市社会福祉協議会	宇都宮	柴田、君嶋、矢野
53	9/15(火)	「地域福祉とボランティア」	鹿沼市南押原地区コミュニティセンター	鹿沼	矢野、中野
54	9/19(土)	防災士養成講座	防災士研修センター	世田谷区	
55	10/18(日)	防災士養成講座	防災士研修センター	新潟・上越市	矢野、君嶋
56	10/20(火)	一芸ボランティアと福祉施設	栃木県老人保健施設協議会	宇都宮	斎藤由夫
57	10/24(土)	防災士養成講座	防災士研修センター	千葉・幕張	矢野正広
58	10/30(金)	「防災マニュアル検討会」講座(矢野)	土浦市社会福祉協議会	茨城・土浦	矢野正広
59	11/2(月)	「NPOの資金・寄付について」	とちぎユースサポーターズネットワーク	宇都宮	矢野正広
60	11/14(土)	「災害講演会」	土浦市社会福祉協議会	茨城・土浦	矢野正広
61	11/21(土)	「障害者の防災講座」	自立生活センターとちぎ	宇都宮	矢野、菊池、関口み
62	11/28(土)	日光・落合地区災害V講座	日光市社会福祉協議会	日光・文挾	矢野、柴田、君嶋
63	11/29(日)	見学/表郷ボランティアネットワーク	福島県白河・旧表郷村のボラ団体)	事務所	矢野正広
64	12/3(木)	税理士向けNPO講座	ぼ・ぼ・ら	宇都宮	矢野正広
65	12/5-6	災害講座・平常時のボランティアコーディネートの視点	三島・災害ボランティアコーディネーター三島	静岡・三島	矢野、君嶋、柴田
66	12/12(土)	災害ボランティアコーディネーター講座—復興支援までのコーディネート	静岡県ボランティア協会	静岡・浜松	矢野正広
67	12/17(木)	総合的な学習の時間でのボランティア講座	七井中学校	益子	矢野正広
	1/18(月)	ヘルパー座「ボラ実習オリエンテーション」	介護労働安定センター	宇都宮	矢野、菊池
68	1/19(火)	日光・塩野室防災講座①	日光市社協・塩野室地区	日光	君嶋・柴田
69	1/24(日)	内閣府防災とボランティアの集い分科会パネラー	内閣府	東京・幕張	柴田貴史
70	1/27(水)	震つなブックレット『災害ボランティア文化』出版記念シンポジウム	震災がつなぐ全国ネットワーク	神戸	矢野正広
71	1/31(日)	防災ボラ講座「災害ボラセンの作り方・演習」	小山市	小山	天知、徳山、矢野
72	2/4(木)	日光・塩野室防災講座②	日光市社協・塩野室地区	日光・塩野室	君嶋・柴田
73	2/20(土)	災害講座(避難所運営ゲーム、復興支援活動)	茨城県社協、土浦市社協	茨城・土浦	矢野・君嶋・青木・徳山
74	3/6(土)	防災ボランティア講座	日光市社会福祉協議会	日光・今市	矢野正広
75	3/9(火)	日光・大沢地区防災講座	日光市社協・大沢地区	日光・大沢	矢野正広
76	3/17(水)	中高年・退職者のボランティア講座	栃木県雇用開発協会	宇都宮	矢野正広
77	3/22(月)	「防災寺子屋・災害ボランティアについて」	被災地NGO協働センター	神戸	矢野正広

事業報告 B.【NPO活動推進センター】

(1)NPOに関する相談・協働事業 (NPOの育成事業)

NGO/NPOの活動推進のため、市民活動団体と協働して講座等の企画実施、イベントの協力、検討会や研究会の設置と協力、提言書の作成、基金の預託、災害救援活動などをおこない、他のNGO/NPO等からの相談を受け、課題の解決を図った。

一般からの相談は以下のとおり。各地に市町がNPO支援センターができているが、そこで受けとめていない(受け止められない)相談が来ているものもある。

(NPO相談)

4月：①定款作成のノウハウ・自閉症児の親の会。②難病の家族相談のボランティアかNPOをやりたい(60代女性)
6月：音楽のNPO法人作りたい(50代女性)、11月NPO継続:法人設立について。
11月：①NPO設立相談40代女性・佐野(前田)、②障害者グループホーム「なごやか」職員探しの訪問(赤木、石田、菊池)

①「上三川町補助金検討委員会」委員の委嘱

上三川町からの委嘱を受け、同町の補助金交付のルール作りとルールに基づいた補助金の審査具申のための委員会に参加した。大学教授、地方自治体行政の専門家、住民とともに3回の審議で補助事業の新設の可否の提言を行い町長に答申した。(委員：本会職員矢野正広08年4月～10年3月まで)

6/18、8/17、1/15 (会場：上三川町役場)

②とちぎボランティアNPOセンター「ぼ・ぼ・ら」が主宰する会議への参加

ぼ・ぼ・らが主宰するや「市町NPO支援センター連絡会議」等に出席した。

■市町NPO支援センター連絡会議：①3/11(矢野/ぼぼら) ②8/6(矢野)

③委員の委嘱などでの運営協力

各種委員に委嘱される等で会議、研修、講座の選考等に協力した。

2/22 栃木県社協「V活動振興センター」会議(矢野)
3/18 内閣府「防災ボランティア活動検討会」(東京/矢野)
12/11 宇都宮市「宇都市民大学」会議(中央生涯学習センター/矢野)

④その他NPOとの協働

県内のNPOが行う行事・事業等に参加し、会議等を行った。

●9/6 美里学園やきそば隊(赤木・徳山・天知・塚本あ・菊池・SS受講生5人)
●9/26 経済同友会・子育て助成金審査会委員(矢野)
●10/4 宇都宮市サポセン「SOS事例検討会」会議(矢野他7人)
●昭和おやじの会の応援：①4/4 春のサイクリング壬生、③6/27 ホタルの観察会(60人)、8/15-16 校庭キャンプ、10/3 登山&サイクリング
■会議：5/2、7/4、9/12、11/21、1/16

(2)NPO・ボランティアの研修事業 (NPOの育成事業)

P27 (4)参照。「NPOと行政の協働」実態調査に関連して、NPO法人や行政担当者むけに「協働力パワーアップセミナーin 栃木」を開催した。

(3)NPOに対する事務所スペースの貸出、備品・機器貸出事業 (NPOの育成事業)

事務所を置く余裕のないNPOに対し、机1つ分のスペースを貸出し、活動拠点の応援をした。またコピー機・輪転機・紙折り機等の貸出をおこないNPOへの便宜を図った。

県内には公設民営のNPO支援センターが数多く存在するが、本会以外にはこのようなインキュベーション

機能を持つ施設はない。その意味で本会が10年間独自におこなってきた重要な市民活動団体支援策のひとつといえる。

■貸出・利用備品：輪転印刷機(有料)、紙折り機、ビデオプロジェクター、パソコンプロジェクター

事務机貸出 (2団体) ……N)セニアサービスセンター、AKK
連絡所設置 (1団体) ……N) ウィメンズハウスとちぎ
会議場利用 (14回) ……昭和おやじの会 6、あしなが育英会 8、
備品利用・貸出 (約 15回) ……昭和おやじの会、シャプラニールとちぎ架け橋の会、セニアサービスセンター、食事サービスさくら草など

(4)コーヒーサロン事業 (NPOの育成事業)

県内のNPO、ボランティアのリーダーを招き、顔の見えるネットワーク作りと他分野の団体の活動紹介をすることで、県内の市民活動の活動推進を図った。身近なスゴイ人・面白い人を紹介するいわば「耳学問の場」である。今年度は3回のサロンを行った。またサロンでの話の内容は「月刊ボランティア情報」紙上に掲載した。

日時	講義名・内容	話し手	参加数	掲載号
4/16	ひここもる人の地域の居場所	清野恵美子 (NPO 法人みらい)	8人	162号
6/30	重度障害児者レスパイトケア施設「うりすん」の3年	高橋昭彦 (ひばりクリニック院長)	9人	164号
3/12	福祉と司法のかけはし…地域定着支援センターの仕事	関口清美 (とちぎ地域生活定着支援センター長)	6人	170号

事業報告 C.【若者自立支援】

(1)とちぎ若者サポートステーション事業（若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援）

①地域若者サポートステーション事業

地域若者サポートステーションとは厚生労働省キャリア形成支援室が所管する若年無業者の支援機関である。ニートと称される仕事に就かず、教育訓練や就業訓練をしない若者は、現在全国で64万人に上り、社会的な問題と懸念されている。厚生労働省は平成17年に23ヶ月の合宿形式を通して自立を目指す「若者自立塾」を全国25か所に設置した。そして翌18年には、若年無業者支援の地域の核として「地域若者サポートステーション」（以降“サポステ”と略して明記）を同じく全国25箇所に設置しました。その後平成19年には全国50か所に、20年には77か所、そして平成21年には92か所に設置され、そして本年22年には全国で100箇所に増えた。昨年末の事業仕分けで「若者自立塾」が閉鎖となり、また現代の経済不況化にあって国がこれだけ予算措置をして設置を増やしていったのも、サポステの必要性とその成果に期待されていることが考えられる。

とちぎ若者サポートステーション（通称“とちぎサポステ”）は、2007年5月、厚生労働省から本会が「地域若者サポートステーション事業」を受託し開設した。とちぎサポステの主たる業務は3つで①「相談業務」、②「講座・イベント・訓練」、③「ネットワーク構築と連携」である。

◎とちぎ若者サポートステーションの大きな柱①「相談事業」

相談にはキャリア相談（キャリアコンサルタントによる就労を前提とする相談）、心理相談（臨床心理士による心理的な相談）、訪問相談（とちぎサポステスタッフによる家庭訪問）、スタッフ相談（多様な問題に対応する相談）の4つの相談があり、一日平均15人前後の相談に当たっている。

表1 とちぎ若者サポートステーション平成21年度利用者数

	新規	面談	キャリア	心理	訪問	電話・メール	査定	セミナー	イベント	計
09年4月	21	121	31	15	62	417	0	198	14	879
09年5月	15	101	34	10	49	341	2	190	19	761
09年6月	26	136	45	11	38	381	1	224	13	875
09年7月	21	133	45	14	57	309	1	270	17	867
09年8月	21	133	27	13	68	348	0	225	7	842
09年9月	10	108	11	6	41	334	0	177	6	693
09年10月	16	140	19	14	34	357	0	166	17	763
09年11月	13	113	17	15	40	406	0	210	26	840
09年12月	16	107	19	11	55	385	3	236	23	855
10年1月	13	115	22	15	72	376	1	185	8	807
10年2月	6	115	19	8	60	336	1	202	18	765
10年3月	20	132	24	11	62	336	1	252	26	864
計	198	1454	313	143	638	4326	10	2535	194	9811

表1にあるように、今期はのべ9811人の若者に対応した。新たに登録した人は年間198人で、1か月平均16.5人となっている。開所2年間の1か月平均20人から減少したのは、2008年に県南サポステが、そして2009年に県北サポステが開所したからである。しかしそれでも、1か月16人以上が新たに登録するということは、それだけ若者が就労や自立に向けて悩みを抱えているケースが多いということを示している。電話やメールを入れた相談まで含めると全9,811人のうち、約7割の6,874人が相談していることになる。学校のことならまだしも、自立や就労に関して親や知り合いに相談することができず、悩んでいる実態が明らかになった。

また、表1からはスタッフ面談の多さが特徴的である。開設当初、厚生労働省は相談業務としてはキャリア相談と心理相談しか予定していなかった。しかし、実際サポステが開所すると、予測とは異なった現状が明らか

かになった。まず来所が困難な若者の中に、「サポステまでは行けないけれど家に来てくれれば話をしたい」と思っている者もいることが分かり、訪問相談事業を大きな柱に変更とした。また、キャリア相談にも心理相談にもつながらない若者が多く存在するということが明確になった。つまり、キャリア相談を受けながら、就職活動していくには程遠く、しかし心理相談に焦点を絞るには抱えている問題が多岐にわたっている。でも誰かに話を聞いて欲しい、サポステに繋がってほしいと思う若者が多数いる。そこで、初回面談であるインタークを担当していた者が「スタッフ面談」というカテゴリーを作り、臨機応変に若者たちの話を聞くようになった。すると圧倒的に「スタッフ面談」の利用数が増えていった。この現象からも、若者の抱えている問題や悩みは、ひとつのカテゴリーの枠では括れないほど多様であるということである。

◎とちぎ若者サポートステーションの大きな柱②「講座やセミナー・イベント」

サポステのもう一つの事業は自立や就労に向かうための講座やセミナー、イベント、そして訓練等がある。相談と並行しながら、イベントや講座への参加で職業意欲の醸成、対人不安の解消、コミュニケーション力の向上などを目指している。下記の表2をご覧くださいとわかるが、動き出した若者が自分に合った内容の講座やプラスになると思うセミナーなどを多様に用意することで若者たちの動き出しはよりスムーズになり、また一歩ずつだが向上していけることが明らかになっている。

表2 講座やセミナー・イベントの過去2年間の参加者数

平成2008年度(のべ)

セミナー・イベント名	就業トレーニング	学習支援	ちょべり場	SST	PC講座	就活講座	過緊張講座
参加人数	236	105	304	198	30	264	11
セミナー・イベント名	ロータスルーム	就労実践	もちアゲ隊	職場めぐり	ポイトレ	親の会	その他
参加人数	82	109	26	67	53	37	87

平成2009年度(のべ)

セミナー・イベント名	就業トレーニング	学習支援	ちょべり場	SST	PC講座	就活講座
参加人数	261	514	388	340	96	246
セミナー・イベント名	ロータスルーム	就労実践	もちアゲ隊	職場めぐり	親の会	その他
参加人数	122	542	22	94	23	96

- **就業トレーニング**…まだ対人関係が難しかったり、何ができるかわからない若者が自分にできる仕事や自分に合った業務を見つけるために行うトレーニング
- **学習支援**…高校在学中の補習や高校中退者向けの高卒認定取得支援、短大や大学の受験支援、そして資格取得支援など若者が望む学習の支援
- **ちょべり場**…同年代の人たちの居場所であり、友達作りや興味の会った人同士で話せる場として機能している。作新大学人間心理学部の准教授が担当している。
- **SST(ソーシャルスキルトレーニング)**…コミュニケーションのためのグループカウンセリングで、サポステの臨床心理士が担当している。
- **PC講座**…パソコンの打ち方から始めている基礎のパソコン講座。通常のパソコンスキルと異なり、個別対応の指導で一歩ずつ学べるのが特徴
- **就活講座・対人講座**…サポステのキャリアコンサルタントが担当している講座。働き続けるための講座であったり、電話のかけ方からビジネスマナーまで学べる。
- **「サロン・月の庭」(元：ロータスルーム)**…女性だけの居場所で今年度から名称が変更になり、「サロン・月の庭」として女性の居場所となっている。
- **就労実践**…誰もが利用でき、就労体験とわずかながらの謝金をもらうことで就労意欲の醸成には大きく影響している
- **もちアゲ隊**…自然体験や農業体験を中心に身体を動かすイベントを盛り込んだ内容。日光市霧高原にある日光自然大学校を舞台にしている
- **職場めぐり**…1ヶ月に1回、実際の職場を訪問し、見学や体験をする。そして企業の社長さんや総務や人事の方から仕事や人材の話を直接話してもらう。
- **親の会**…サポステを利用する保護者向けの親の会。今年度から年に8回程度は開催する

予定。サポステの臨床心理士が担当している。

今期は多くのイベントや講座を設けた。全ての講座やセミナー、イベントは若者たちのニーズに応じていった結果生まれていったものである。多様なイベントやプログラムが形となり、若者同士のつながりの場ともなっている。表1にもあるようにこれだけさまざまな悩みや苦しみを抱えながらも、相談やイベントなどを通じて現状にわずかでも変化をもたらし、一歩でも二歩でも前に進みたいと希望する若者が多いということでもある。

◎とちぎ若者サポートステーションの大きな柱③「ネットワーク構築と連携」

発見・誘導、そして参加、それから自立に向けての就労のためにサポステに求められる中で重要なことは関係機関との連携である。今期は特に「連携」に重点を置いて活動した。

児童相談所や生活保護ケースワーカーとの協議、精神保健福祉センターや発達障害者支援センターとは事例を共有したり、医療機関とは役割分担した支援をするなどである。そして不登校に関しては教育委員会や学校との連携も回数を増やしていった。若者自立塾や県南サポステとは運命共同体とも言うべき協力関係を組んでいる。また市町行政はもちろん、県行政との連携や協働は官民一体のモデルケースとも言える。出口である就労に関してはハローワークを始めとする労働局や実際の雇用にもつながった協力企業との連携はより強固なものとなった。下記の表は今期の具体的な会議の内容であるが、外部会議が本会が構築している「ネットワーク会議」である。

表3 サポステで平成21年度に実施、または参加した会議一覧

月	会議	外部会議・イベント	主催事業
4月	○4/8, 14, 22: SS (サポステ) 会議 (上兼、川島、中野、塚本) ○4/18: CC (コーディネーター) 会議 (安永、星野、若林、石田、黒田、半田)	○4/16: いつでもどこでもサポートモデル事業 (中野、塚本) ○4/20: SS 合同会議 (中野、塚本) ○4/21: SS 全国会議 (中野、塚本) ○4/23: キャリア講演会 (中野) ○4/28: 若者自立支援講話 (少年鑑別所・中野)	4/25: YA (ユース・アドバイザー) 養成講座 (中野)
5月	○5/2: CC 会議 (安永、星野、若林、石田) ○5/20: SS 会議 (上兼、川島、中野、塚本)	○5/11: SS 合同会議 (中野) ○5/15: 県北サポステ開所式 (中野、塚本) ○5/19: 宇都宮少年鑑別所講話 (中野) ○5/25: 足利特別支援学級キャリア教育 (中野)	○5/14, 28 足利就労支援講座 (半田、若林、中野)
6月	○6/2, 8, 17 SS 会議 (安永、若林、佐藤、川島、中野、塚本)	○6/6, 7 マルコプロジェクト (中野) ○6/9 高等学校進路指導主事会議 (中野) ○6/13 発達障害セミナー (中野) ○6/16 長期ひきこもり経験者仕事作り (中野) ○6/24 宇都宮少年鑑別所講話 (中野) ○6/30 足利市企業支援事業会議 (中野)	○6/11 足利就労支援講座 (中野) ○6/11 高認支援プロジェクト会議 (中野) ○6/27 YA 養成講座 (福祉プラザ・中野)
7月	○7/4: CC 会議 (安永、若林、星野、黒田、石田、半田、中野、塚本) ○7/15, 28: SS 会議 (村澤、山尾、川島、上兼、中野、塚本)	○7/1: ふるさと済世雇用選考委員会議 (中野) ○7/6: ユースカレッジ打合せ (中野) ○7/6: 心の探検打合せ (中野) ○7/8: 人権研究会実行委員会 (中野) ○7/12: 若者フェスタ実行委員会 (中野) ○7/12: ふらっぶ自立支援相談会 (中野) ○7/13: ユースサポーターズネットワーク設立委員会 (中野) ○7/18: 精神保健福祉センターフェスティバル (川島、塚本) ○7/28: 栃木人権研究会 (中野) ○7/29: ベリー会議 (中野) ○7/25: 若者フェスタ実行委員会 (中野) ○7/28: 県労政課協議 (中野) ○7/28: 反貧困ネットワーク会議 (中野) ○7/29: 足利企業セミナー推進委員会 (中野)	○7/9, 23 足利就労支援講座 (若林、半田、塚本) ○7/14, 23 野菜直売実行委員会 (中野)
8月	○8/1: CC 会議 (安永、若林、星野、黒田、石田、半田、中野、塚本) ○8/28: SS 会議 (村澤、佐藤、川島、中野、塚本)	○8/6: キャリア教育講座打ち合わせ (中野) ○8/11: 県労政課会議 (中野) ○8/20: いつでもどこでもサポート支援事業会議 (中野) ○8/24: 県労政課との協議 (中野) ○8/27: ユースカレッジ会議 (中野) ○8/27: 長期ひきこもりのための雇用創出事業会議 (中野) ○8/31: 若者フェスタ実行委員会 (中野)	○8/9 YA 養成講座修了式 (中野、塚本) ○8/1, 10, 12, 20, 22, 29, 31: 野菜販売実行委員会 (中野) ○8/20: 高卒認定支援会議 (中野)
9月	○9/5: CC 会議 (若林、星野、黒田、石田、半田、中野、塚本) ○9/28: SS 会議 (村澤、佐藤、川島、中野、塚本)	○9/1: 県社協打ち合わせ (中野) ○9/2 ふらっぶ打ち合わせ (中野) ○9/4: 足利企業セミナー (中野) ○9/7: SS 全国会議 (塚本) ○9/8: 反貧困ネットワーク (中野) ○9/8: 県労政課会議 (中野) ○9/8: 労働局会議 (中野) ○9/9: 倫理法人会 (中野) ○9/10: いつどこサポートモデル事業会議 (中野) ○9/11: 若者自立支援促進事業会議 (中野) ○9/11: 心の探検隊実行委員会 (中野) ○9/15: 若者自立支援促進事業会議 (中野) ○9/17: 橋渡し訓練会議 (中野) ○9/17 HP 打ち合わせ (中野)	○9/2, 13, 18, 25 野菜販売実行委員会 (中野) ○9/10 トライアル会議 (中野) ○9/3, 10 足利就労支援講座 (中野)

		<p>○9/18：発達障害ケース会議（中野）○9/18 保護監察所打ち合わせ（中野） ○9/20：若者フェスタ実行委員会（中野） ○9/24：宇都宮少年鑑別所講話（中野）○9/28：ふらっぷ事例検討会（中野） ○9/28：若者自立支援促進事業会議（中野）○9/29：高根沢町講演（中野） ○9/29：ふらっぷ講演（中野）</p>	
10月	<p>○10/10：CC 会議（星野、石田、黒田、半田、塚本） ○10/6, 27:SS 会議（村澤、川島、中島、中野、塚本）</p>	<p>○10/1：ユースワークカレッジ開校式（中野） ○10/2, 16：足利企業セミナー（中野）○10/2：県労政課と協議（中野） ○10/2：栃木県労働局職業安定課と協議（中野）○10/4 &ハンド講話（中野） ○10/7：県南サポステ講話（中野） ○10/9, 24：若者フェスタ実行委員会（中野） ○10/12：「子育て検定」P会議（中野） ○10/1：とちぎ教育ネットワークとの協議（中野） ○10/16：少年保護監察所にて講話（中野） ○10/19：橋渡し訓練合同会議（中野） ○10/20：宇都宮少年鑑別所講話（中野）○10/20：勤青ホーム会議（中野） ○10/21：ふらっぷとの打ち合わせ（中野） ○10/23：パートナーシップ大賞受賞団体講話（中野） ○10/26：とちぎヤングスポーツフェスティバル実行委員会（中野、川島） ○10/28：とちぎ人権センターにて講話（中野） ○10/30：「職業意識啓発セミナー」（中野） ○10/31 反貧困ネットワーク設立総会（中野）</p>	<p>○10/7, 13, 17, 21, 野菜販売実行委員会（中野） ○10/9 高認支援P会議（中野） ○10/15 足利就労支援事業（中野）</p>
11月	<p>○11/10, 24：SS 会議（中野、村澤、川島、中島、塚本） ○11/7:CC 会議（星野、石田、黒田、半田、塚本）</p>	<p>○11/1 とちぎ教育ネットワーク 10 周年記念シンポジウム ○11/3「子育て検定」P会議（中野）○11/4 キャリア教育（中野） ○11/6 とちぎヤングスポーツフェスティバル（中野、川島） ○11/10 県労政課との協議（中野）○11/11 就業体験打ち合わせ（中野） ○11/14 子ども・若者達もうひとつの文化祭（中野、塚本） ○11/14 ワカモノフェスタ実行委員会（中野） ○11/17 保護監察対象青少年就学就労促進支援研究会（中野） ○11/18 反貧困ネットワーク会議（中野） ○11/21 ワカモノフェスタ実行委員会（中野） ○11/24 宇都宮市少年鑑別所講話（中野）○11/24 保護監察所にて協議（中野） ○11/26「子育て検定」スカイプ会議（中野） ○11/29 ふらっぷ合同説明会（中野）</p>	<p>○11/3 高認支援P 集中講座（中野）○11/8 高認支援P 直前模擬試験 ○11/7, 21, 28 第 2 期 YA 養成講座（中野、塚本） ○11/12, 26 足利市就労支援事業（中野）○11/19 野菜直売実行委員会（中野）</p>
12月	<p>○12/1, 15, 22, SS 会議（中野、村澤、中島、塚本） ○12/5 CC 会議（安永、石田、若林、中野、塚本） ○12/19 サポステ忘年会 12/20 第 2 期 YA 忘年会 12/29 野菜直売忘年会</p>	<p>○12/1, 4, 11, 16, 28：県労政課との協議（中野） ○12/1, 5, 19：ワカモノフェスタ実行委員会（中野、川島、塚本） ○12/6：ワカモノフェスタ（中野）○12/8：宇都宮保護監察所とケース検討会 ○12/10：中央 SS の業務指導協議（中野、塚本） ○12/11：キャリア教育講話（中野） ○12/15：1 回保護監察対象青少年就学就労促進支援研究会（中野） ○12/18 橋渡し訓練打ち合わせ ○12/19：若者の自立を考える保護者セミナー ○12/18：高認支援P会議（中野）○12/22：宇都宮少年鑑別所講話（中野） ○12/22：森病院との連携会議（中野、塚本） ○12/23：反貧困ネットワーク年越し電話相談に参加（中野） ○12/25：県北学校就学支援会議（中野）</p>	<p>○12/20, 26 第 2 期とちぎ YA 養成講座振り返りミーティング（中野） ○12/4, 8 野菜直売実行委員会（中野）</p>
1月	<p>○1/19・26:SS 会議（中野、村澤、佐藤、上兼、中島、川島、塚本） ○1/9：CC 会議（安永、石田、半田、中野、塚本）</p>	<p>○1/4, 18：県労働政策課と協議（中野） ○1/8：とちぎユースワークカレッジにて講話（中野） ○1/9：「かかしの旅」実行委員会 ○1/1：2 障害者職業センターと協議（中野、塚本） ○1/14：人と緑を育む森づくり 企画委員会（中野） ○1/15：県北若者自立支援ネットワーク会議（中野） ○1/18：心の探検実行委員会（中野）○1/20 宇都宮少年鑑別所講話（中野） ○1/22：県勤労青少年ホーム担当と協議（中野） ○1/25：第 3 回保護観察対象青少年就学就労促進支援研究会（中野） ○1/26：橋渡し訓練打合せ（中野）○1/29：発達障害者支援連絡協議会（中野） ○1/29：反貧困ネットワーク定例会（中野） ○1/31：「かかしの旅」上映会&講演会（中野、塚本）</p>	<p>○1/14, 28 足利市就労支援事業 ○1/16 第 1 期 YA 会議○1/17, 30 第 2 期 YA 振り返り会議 ○1/28 野菜直売実行委員会</p>
2月	<p>○2/2, 9：SS 会議（中野、川島、中島、塚本） ○2/6 CC 会議（安永、星野、若林、石田、半田、中野、塚本）</p>	<p>○2/1, 4, 5, 8, 17, 22, 26：県労働政策課と協議（中野） ○2/2, 8, 24：橋渡し訓練打ち合わせ会議（中野） ○2/3：ファーム&ファームカンパニー社長と協議（中野） ○2/4：キャリア教育講話（中野）○2/6：「子育て検定」会議（中野） ○2/9：保護監察青年事例検討会（中野） ○2/10：中央児童相談所と連携会議（中野） ○2/12：若年者の短期雇用についての協議（中野） ○2/14：横松議員市政報告会（中野） ○2/14：心の悩みと地域ボランティアの関わり（中野） ○2/15：今市特別支援学校キャリア講話（中野） ○2/16：今市特別支援学校キャリア講話（中野）○「思春期の子どもの心を考える」講話（中野） ○2/19：キャリアミニ講話（中野） ○2/17：アイエスエフネットとの就職情報協議（中野）○ユースワークカレッジ</p>	<p>○2/18 足利市就労支援事業（中野）○2/20, 27 第 2 期 YA 振り返りミーティング○2/12, 22 野菜直売実行委員会○2/24 高認支援プロジェクト会議</p>

		アドバイザー会議(中野)○長期ひきこもりの自立に向けた検討委員会(中野) ○2/19: 橋渡し訓練現場研修説明会(中野)○若者支援団体連合体育祭ミーティング(中野) ○2/22: 橋渡し訓練面接(中野) ○2/22: 厚生労働省に SS 申請書類提出(中野) ○2/24: 勤労青少年ホーム研修会にて講話(中野) ○2/24: 宇都宮少年鑑別所講話(中野) ○2/25: 足利労政事務所所長と打ち合わせ(中野) ○2/25: 「若者の自立を考える保護者セミナー」(中野) ○2/26 橋渡し訓練現場研修説明会(中野) ○2/27 心の探検カレッジ(中野)	
3月	○3/2, 30 SS 会議(中野、川島、中島、佐藤、川島、上兼、中島、塚本) ○3/6 CC 会議(安永、星野、若林、石田、半田、中野、塚本)	○3/2, 15, 23, 26, 29 県労働政策課と協議○3/2, 30, 31 橋渡し訓練打ち合わせ会議○3/1 内閣府の若者担当参事官と話し合い○ 第4回保護観察対象青少年就学促進委員会○3/3 SS いつでもどこでも事業「訪問支援員」会議○3/4 県男女協働参画課と協議○宇都宮青少年自立支援センターふらっつと協議○3/5 発達障害者地域連携協議会○3/10 「子ども若者育成支援法」を活用した地域ネットワーク作りイベント参加○3/16 ユースワークカレッジでのミニ講話 ○3/19 育てあげネット、SOS10 と協議○3/23 榎木教授と次年度の打ち合わせ ○3/19 ユースワークカレッジ卒業式○3/24 加藤秀視さんと協議○3/23 NPO 法人栃木県就労支援事業者機構発足シンポジウム出席○3/24 宇都宮少年鑑別所講話	○3/11, 25 足利市就労支援事業(中野・半田) ○3/20, 27 第2期YA振り返りミーティング(中野・塚本) ○3/11 野菜直売実行委員会(中野)

◎具体的な課題①「サポステ利用者の統計から見える学歴の矛盾」

サポステの利用者の統計を見てみるとそこから自ずと課題が見えてくる。その一つは学歴コンプレックスといえる。現在、日本の高校進学率は 97%に及ぶ。これはほぼ 100%だからある意味、義務教育といっても過言ではない。しかしながらサポステの統計を見てみると下記の表 4 でもわかるが、高校中退以下の若者が全体の 24%の 160 名もいるとうことだ。97%の高校進学率がある以上、高校を卒業できなかった若者は誰もが学歴コンプレックスを抱くといっても過言ではない。学歴がないから進学はできない、就職もままならない、履歴書が書けない、などその悩みは尽きない。「現代は実力社会で学歴社会ではない」という言葉は 30 年前から語られていたが以前、日本社会は学歴社会に違いない。

そこでせめて高卒に近い資格は取って欲しいと、民間団体が結集して高卒認定の学習支援ボランティア団体「高認支援プロジェクト協議会」が昨年 4 月に発足した。

この協議会は、高卒認定合格のために 1 週間に 1 回 2 時間程度、人と場所を提供し若者にボランティアで学習支援を提供していただく団体で構成されている。

「高認支援プロジェクト協議会」学歴別人数

	中 在	中 卒	高 在	高 休	高 中	高 卒	高 校 認 定	専 在	専 中	専 卒	短 在	短 卒	短 中	大 在	大 休	大 中	大 卒	院 在	院 中	院 休	院 卒	養 護 学 校	不 明	計
07年	3	16	9	2	20	62	0	0	4	27	0	4	0	1	3	22	45	0	0	1	1	0	10	230
08年	1	26	5	0	27	62	1	2	5	23	3	11	0	7	1	12	43	0	1	0	4	0	0	234
09年	1	18	5	2	25	51	3	1	8	21	0	6	2	2	2	14	27	0	0	0	5	1	4	198
計	5	60	19	4	72	175	4	3	17	71	3	21	2	10	6	48	115	0	1	1	10	1	14	662

高認支援プロジェクト協議会・加盟団体(拠点) ①とちぎ県北若者サポートステーション(大田原) 金 14:00~ ②地域子ども・若者サポートセンター(高根沢) 金 10:00~ ③とちぎ若者サポートステーション(宇都宮) 火水木 金 14:00~ ④心とまなびドットコム(宇都宮) 土 15:30~ ⑤とちぎ美術学院(宇都宮) 月 10:00~ 月 14:00~ ⑥ユースサポーターズネット(宇都宮) 木 14:00~ ⑦宇都宮学習センター(宇都宮)	⑧人材育成会社 or 日光市民活動支援センター(日光) 土 18:00 ⑨清掃会社事務所(下野) ⑩交流ハウス亀の島(宇都宮) 金 14:00~ ⑪夜間中学(栃木) 土 15:00~ ⑫フリースペース&学習塾(佐野市) 水 15:00~ ⑬とちぎ県南若者サポステ(小山) 金 13:00, 16:00~ ⑭居場所サロン&NPO 法人(野木) 水 16:00~ ⑮足利勤労青少年ホーム(足利) 木 16:00~
--	---

2009 年 4 月より開始したプロジェクトだが、**問い合わせは 150 件**を超え、案内を送付した家庭が 70 件、県内各所で学習を始めている人が 43 人、8 月の 2009 年度第 1 回高校卒業程度認定試験の受験者が 21 人、11 月の第 2 回高校卒業程度認定試験の受験者は 20 人とその必要性が如実に現れている。また、高校卒業程度認定試験を合格し、**高卒認定資格を取得した人は 11 人**なった。

県教委の発表によると毎年約1500人の高校中退者が出ている。これは、県立及び私立高校普通科及び専門学科によるものでここに通信制高校、定時制高校及び民間のサポート校の中退者を含め、また中学卒業者を加えれば1年間でおよそ2000人以上が高校程度を中退していると言える。その後の進路を見ると、就労が4割、進学が2割で残り4割はどこにも属していない。全体を通して1年間で約800人が高校中退＝最終学歴はほとんどが中卒のまま若年無業の状態にいるといえる。

そこで、まずは高卒認定を代表とする高校中退後の進路の情報提供と進路相談を行うことを第一の目的とする。第二に、高校中退者の半数以上が就労するわけですが、高卒認定は計画さえ立てられれば働きながらでも高卒認定は取得可能となる。いわゆる高校中退や中卒と言う学歴コンプレックスを少しでも軽減する一助になることを目的とする。第三に所属、所属・帰属する場所の確保である。高校中退者で就労に結びつかない者はいわゆる若年無業、ニートなどと呼ばれ、世間や地域からの偏見は歪めない。たとえ週に1回でも通って「学ぶ」ことができることは教育機関に通うわけであるから若年無業やニートではなくなる。彼らに所属場所ができることは大きな意義がある。

また表4を別の観点から見ると、サポステ利用者の中には大卒以上が20%の127人いる。本来ならば大学や大学院を卒業すれば、自動的に就職が決まる、思っているだろうが、この数字からは、現代は大学と社会がもかけ離れてしまっているとも言える。産学連携や学社融合という言葉だけは流暢に聞こえてくるが、現実には「大学を出ても就職できないどころかニートになる」可能性が増えている。国立大学も続々と民営化になっているならば、よりこの若者支援について大学のあり方について真剣に検討してもらいたい。

◎具体的な課題②「グレーゾーンの若者の増加」

表2をから、サポステの利用者で何らかの**疾病、障害を抱えている若者は313人(47%)**である。また、**発達障害は32%、102人**である。しかし、発達障害者として医師や専門機関からの**診断を受けている者はわずか5人**だった。診断を受けてはいないが、明らかにその傾向が見られたり、サポステの専門家(臨床心理士等)の見立てから発達障害者と思われるいわゆる「グレーゾーンの若者」が急増しているということである。当然、この若者の中で医療機関によるアセスメントを受けると発達障害という診断がくだる者は多数いる。しかし、今まで「当たり前」という概念の中で生きづらさを抱えながら生きてきているので、今更、障害の有無を調べるための検査といっても受け入れられない若者もいる。

表5 利用者の症状

	うつ		統合			広汎性	ADHD	LD	回避性	てんかん	SD	強迫性 障害	その他の 精神障害	知的障害	視覚障害 身体障害	疾病	計
	有	無	有	無	無												
07年	7	10	7	10	1	28	3	3	3	2	8	0	17	1	1	4	105
08年	6	14	11	5	2	28	2	1	3	4	2	4	10	5	2	5	104
09年	7	8	9	1	2	32	0	0	0	2	0	6	24	4	3	6	104
	20	32	27	16	5	88	5	4	6	8	10	10	51	10	6	15	313

多様なニーズ、課題がある反面、若者の「働きたい」「社会の一員になりたい」「役に立ちたい」という思いはかなりある。その全てを叶えることはできないが、可能な限り、若者一人ひとりの願いを実現したいと考えている。それこそがとちぎサポステ、そしてVネットの根底にある個別具体的な対応に他ならない。

(2) 他人の風プロジェクト (若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援)

①とちぎユースアドバイザー

もともとこの「ユースアドバイザー」の名称は内閣府主管の事業で「機関別の支援にとどまることなく、全

てを横断的に支援できる方を養成すること」を目的に平成 20 年度より始められた。一方、本会が運営する「とちぎ若者サポートステーション」も平成 2007 年の開設から、徐々に利用者も増え、現在では電話やメールでの対応も含めると毎月のべ 800 人も若者に対応している。しかしながら限られた予算の中、スタッフだけでは滞留する若者や悩みを抱える若者への対応が後手後手にまわる現状があった。そこで、ボランティアで若者を支援できる地域の方を増やすことを意図して 2008 年秋からユースアドバイザー養成に取り組んだ。内閣府には、厚生労働省委託事業である「とちぎ若者サポートステーション」から依頼をし、講座開催と名称使用、テキスト利用について許可を受けた。2009 年 1 月から第 1 期、10 月から第 2 期めの講座を開催した。講座開催に当たって、将来的に若者に実際関わって人々を養成するという観点で、受講料はすべて本会負担とした。

○全 5 回（1 回 6 時間）の座学による講座

第 1 期の修了生は 16 人。第 2 期は 2009 年 10 月から開始し、計 28 人が修了した。講義形式の講座は全 5 回で、「ユースアドバイザー養成講座」のテキストに沿い、かつ現場での必然性を重視して講座を組んだ。

精神障害、発達障害、そしてカウンセリングと家族療法については県内でも各分野の第一人者を講師として招いた。また、若者支援の中でも支援内容がより専門的な要素を含む虐待・DV、薬物依存、自立援助ホームにおいては、県内の第一人者を講師として招き、より具体的な内容の講義やワークショップをお願いした。そして、若者自立塾を始めとする現場で直接若者に関わっている人に関わり方やそれぞれのノウハウを伝えていただいた。

インテークからアウトリーチ（訪問支援）、そしてネットワークの有効な利用法まで、すぐにでも現場で活用できる内容を中心に講座を組み立てた。各講義の内容も重厚だが、それに聞き入る受講生は真剣そのもので、1 日約 6 時間の講義終了時には皆、疲れきってしまうほど真摯な態度で受講されていた。それだけ皆の若者支援に関わろうという真剣さが伝わってきた。

○10 回以上（4 ヶ所以上）の若者支援の現場研修

全 5 回の講座が修了した翌月からは、若者支援の現場での研修が始まる。県内県内各地の若者支援の現場研修を 10 回以上赴き、各支援団体の内容や具体的支援方法を学びながら実際に各団体を利用している若者とも接してもらう。支援団体は多岐にわたる。

不登校やひきこもりの親の会、フリースクール、居場所やフリースペース、高卒認定などの学習支援現場、青少年自立援助ホーム、DV・虐待関連施設、薬物依存復帰施設、自死予防により組む民間会社、精神障害や発達障害やそのグレーゾーンの就労支援をするカレーハウスや喫茶店、若年無業が販売している野菜直売の現場、若者支援に力を入れている派遣会社、そしてサポステの各プログラムや若者自立塾など、官民を問わず約 20 団体、40 近いプログラムに参加していただく。

表 6 とちぎユースアドバイザー講座内容

	前の部	後の部
2 月 14 日（土） とちぎ福祉プラザ	イダンス 栃木県内の若年者を取りく 環 講師：中野謙作	発達障害の現 と対応 講師：永雄二（宇都宮大学教育学部特別支援教育教授）
2 月 28 日（土） ぼぼら	若者を取りく環 青少年自立援助ホ ムより 講師：星俊彦（星の家ホーム長）	カウンセリング・生涯学習発達心理・家族関係などに関する知識 講師：楡木満生（立正大学心理学部名 教授）
3 月 14 日（土） ぼぼら	精神障害者の現 と対応 増茂 （栃木県健 保 福祉センター所 長）	若者を取りく環 V 支援団体より 講師：中村明美（ウイメンズハウスとちぎ理事長） 物依 回復施設より 講師：栃原晋太郎（栃木ダルク事務局長）
3 月 21 日（土） ぼぼら	若者の声～体験談を通して～ 講師：山本和彦（ホワイトキャンパス理事長） インテーク・電話相談について 講師：塚本明子（とちぎサポステ）	関係分野の 度の連携 講師：村 美子（ひよこの家教育相談員） 県内支援団体の紹介 講師：市田 生（若者自立塾・栃木）
3 月 28 日（土） 会場 福祉 サ	10 代の若者への支援について 講師：本 （若者自立塾・栃木塾長）	アウトリーチについてとまとめ 講師：中野謙作

表 7 とちぎユースアドバイザー現場研修先

4月～7月の間で2時間 10日間（4ヶ所以上）の現場研修 実習場所

●とちぎ若者サポートステーション ●若者自立塾・栃木 ●とちぎ県南若者サポートステーション ●寄り処 えん
●高根沢町フリースペース ひよこの家 ●ホワイトナイル・カレッジ ●カフェ ふるーるぶらん(ホワイトキャンパス) ●星の家 ●
NPO法人キャリア・コーチ ●不登校、ひきこもりの親の会 ●若者ハウス ●若者の居場所 ●栃木ダルク ●NPO法人みらい●国
分寺作業 ●国際自然大学校(もちアゲ隊) ●アウトリーチ(訪問支援) 同行 ●ちょべり場、SST、ロータス ●職場めぐりツアー(サ
ポステプログラム) 同行他

約6か月間、5回の講座と現場研修を10回以上修了された方を対象に2009年8月9日修了式を催した。第1回とちぎユースアドバイザー養成講座の修了生は16人でだれもが熱心で積極的な方ばかりだった。中には現場研修を10回で修了にも関わらず10回以上続けていらっしゃる方もいた。また、修了式前にも関わらず、9名の修了生がサポステに関連する若者及び保護者の支援に直接的に関わっていただいた。まさに、ユースアドバイザーの現場を研修中から実践していただいた形になる。

悩み苦しむ若者に寄り添い、共に考えわずかでも光を差し、安心して一人で歩けるまで応援していく…そういった熱心な大人たちがこれだけ身近で見させてもらえると、栃木県における若者支援の潜在的な関心が見えたような気がしてならない。

同時にこのユースアドバイザーの必要性はただ単に若者支援に留まることなく、ネットワーク機関の調整役であったり、これから始まる新たな若者支援の戦力になったり、まさに多岐に渡る活躍が期待される。将来的にはこの「とちぎユースアドバイザー」が県内各地に存在し、悩んだり困ったことがあったら「ユースアドバイザーに聞きにいこう」といった構図ができていけば、若者に関わる諸問題は大きく前進できると確信している。その核になるのは、間違いなくユースアドバイザーである。これからも多くの若者に寄り添い、共に歩めるユースアドバイザーを養成していく所存である。

(3) 若者自立促進支援事業(ジョブトレーナー)(若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援)

今期、栃木県より委託された若者自立促進支援事業を利用し「**新たな仕事作り**」の事業に着手した。誰もが利用でき、就労体験とわずかながらの謝金をもらうことで、若者の就労意欲の醸成に大きく影響する。2009年度は**56人の若者が仕事に取り組んだ**。

◎講演や研修のテープ起こし…3人が従事

講演会や研修などで録音したテープをデータに残す作業。時間はかかり正確さを求められますが、自宅でき、また時間も自分の好きな時間を使えるのでなかなか家から出れない人にも可能な業務。

◎事業の中に仕事を作る(例:テキスト作成)…7人が従事

NPO法人が行政から委託業務を受けるがその中の**事務経費や管理費を若者に外注する形にした**。例えば「**テキスト作成費**」や、インターネットのメールなどの管理が必要なら「**メール管理費**」などを、**予算の段階で若者ができる仕事を入れ込んだ**。NPOに限らず行政でも自らの**仕事をシェア(ワークシェア)**することで若者の仕事が生まれてくる。

◎駐車券の回収と補充業務…10人が従事

スーパーの駐車場の駐車券の回収と補充の仕事。県内にあるこういった仕事のほとんどがシルバー人材センターが業務に当たっているが、宇都宮のあるスーパーでは栃木県の若者自立支援ネットワークの関係からの紹介で仕事をくれた。仕事内容は簡単で時間も30分程度で終わるので**慣れてしまえば誰にでもできる仕事**である。また、機械相手の仕事で、人と話すのは駐車場に入って来た客の誘導だけなので**対人不安の若者**でもできる仕事である。

◎中心市街地(オリオン通り)での朝採り野菜直売…33人が従事

宇都宮市は大型店舗が市街地にできたことで中心市街地の活性化は日常的な課題になっていた。また隣の市町と隣接する農業地帯では低農薬でおいしい野菜を作っているが、高齢化の影響で中心市街地まで運んで販売することはできないでいた。そこで2009年8月から、**中心市街地での朝採り野菜の直売が始まることになり**、その販売などをサポステの若者にやらせてくれることになった。販売といっても仕事は何種類もある。農家までの仕入れと運搬、野菜の陳列と品出し、接客、会計、商品管理と集計、準備と撤収と一つの商店と同じくらいの業務がある。この仕事には約20人の若者が参加しており、その中には**グレーゾーンの若者**もいる。

一人ひとりに合った仕事を作ることができれば生き生きと仕事ができるようになる。

◎割烹料理店での配膳と調理場業務…3人が従事

グレーゾーンの若者の中には、集中力が続かなかつたり体力そのものがなかつたりする者も少なくない。通院しながら投薬を続けている若者は時には予告なしに仕事に出られなくなってしまうこともある。そういった若者には、一般就労を考えると1日8時間で週5日の勤務自体に無理があると考えられる。つまり一般就労そのものが苦しい若者がいる。

ある日本料理店の店長は自らそのことを考慮していただき、週に2回で5時間程度の仕事を若者に紹介してくれた。一人の人が全て勤務するのではなく、その仕事を3人に分けて一人が週に1～2日程度勤務する体制をとっていただいた。仕事の内容は日本料理の配膳だったり、調理場の中での仕事なので決して簡単ではない。しかし、こういった仕事に興味のある者で負担の少ない日数や時間であれば勤務できる若者はいる。この料理店さん自身がワークシェアのお手本を見せてくれている。

（４）就職対策セミナー足利市委託事業（若年無業者、障害者の就労支援及び自立支援）

今期で3年目となった「足利市就職対策セミナー」を平成21年度も受託・運営した。内容は、「履歴書・職務経歴書セミナー」と「面接等就職試験セミナー」である。

1年間で失業者や無業者計74人が受講したが、**7割・51人が就職できた**との報告があった。サポステの利用者とは異なり、就労に向かう不安は特になく、自ら何度もハローワークにいつている方々なので当たり前と言えばそれまでだが、少なからずこのセミナーを通して自信がついたり、講座で使った履歴書で面接を受けたりして、とてもためになったとの報告も数件入っている。効果が大きかったと足利市の担当者も喜んでいる。

これはワーキングスクールやサポステかでできたキャリアコンサルタント資格保持者7人が担当していた親身な指導がこうした結果を生んだのだと思う。やはり個別具体的な対応をこの講座でも実施したことこの実績につながったといえるだろう。

事業報告 D.【情報センター】

(1)『とちぎVネット・月刊ボランティア情報』の発行事業（Vの啓発・普及事業）

V活動・市民活動の啓発、普及、推進のため『月刊V情報』を毎月1300部（年10回）発行した。会員のほか、県内NPO法人、教育委員会、社会福祉協議会、福祉施設等へ無料配布し、県内の市民活動の情報を提供した。職員、ボランティアによる取材、執筆を行い、担当職員1人による印刷とボランティア2～3人による製本・発送で成り立っている。

本会情報誌は年間80万円以上の持ち出しをして関係機関・団体への無料配布をしており、結果、県内の市民活動が活性化していることは確かだが、概して無料配布している施設・団体からの反応や応援はなく「NPO同士の支えあい」は深まっていない。「もらうだけ」「してもらって当たり前」のNPO自身の意識を改革し、「やったり・やられたり」の支えあいの関係が必要である。

そこで、一昨年度から、日光市民活動支援センターと業務提携をして、情報提供・取材・執筆を委託した。日光市の細やかな情報が分るようになり好評である。

また、運営委員会が活性化したことと関連して『V情報』のコンセプトを見直し、「会員ハンター」などの記事で「会員の活動の活性化」に資するものを企画した。また取材者や「連載もの」の書き手に若い世代を多く入れていくようにした。

課題は「購読者が増えないこと」である。

月	号	特集記事	月	号	特集記事
4月	160	サロン 録80/ホームページド・エドケーション	10月	165	ルポ/マルコプロジェクト
5月	161	サロン 録81/ひきこもる人の地域の み台	11月	166	ルポ/トチ 環 未来基地
6月	162	討論/知的障害者の地域生活支援・方法論	12月	167	予告/栃木ボランティア市民活動フォーラム
7.8月	163	報告/ 地震から1年	1.2月	168	迎春企画/ 和の記
9月	164	サロン 録82/うりずんの3年	3月	169	報告/市民活動フォーラム2010

(2)新聞情報収集・データベース化（Vの情報資料の収集・提供事業）

V活動、市民活動の情報を提供するため、新聞4紙から記事を要約しデータベース化するとともに、記事のダイジェストを『月刊V情報』にも掲載した。ボランティア6人の毎週の切り抜きにより実施した。年間約50回。（新聞切り抜き隊：大野幹夫、加藤久美子、左巻健次、阿久津恵さん、関口三恵、安藤さん）

①取材への対応・報道

新聞・テレビ、ラジオ、雑誌からの取材に年間15回対応した。サポートステーション事業、街頭募金の報道が多かった。

回	記事発行日	取材マスコミ(内容)	対応者
1	5/30	下野新聞：扉の向こうへ・とちぎ若者サポステ2年(上)「長い目で就労手助け」	中野
2	5/31	下野新聞：扉の向こうへ・とちぎ若者サポステ2年(中)「対象者掘り起こし訪問」	中野
3	6/1	下野新聞：扉の向こうへ・とちぎ若者サポステ2年(下)「さあ押そう重い扉」	中野・村澤
4	8/17	内閣府「防災」：防災リーダーの素顔	矢野
5	10/11	下野新聞：サモア・スマトラ…街頭募金	矢野
6	10/23	下野新聞：棚田交流のべ750人。実を結ぶ被災地支援	君嶋、矢野
7	11/16	IIHOE「NPOマネジメント誌」：対談/災害救援系の15年	矢野、大分・村野
8	1/17	下野新聞：雷鳴抄・阪神淡路大震災	矢野
9	1/18	下野新聞：ハイチ地震寄付募集	矢野
10	1/20	毎日新聞：ハイチ地震寄付募集	矢野
11	1/24	読売新聞：ハイチ地震寄付募集	矢野
12	2/2	朝日新聞：NPO見本市・予告	矢野
13	2/6	下野新聞：雷鳴抄・市民活動フォーラム	矢野
14	2/9	下野新聞：市民活動フォーラム開催	矢野
15	3/1-3/31	広告代理店カラズビジョンの：街頭テレビの無料広告(二荒山神社前)	中野・塚本

②原稿の執筆

本会が実施する事業について、新聞・学会雑誌等からの原稿依頼に対し役職員が執筆、寄稿・投稿した。

回	月日	「タイトル」掲載紙・出版社名	執筆者
1	4/23	「復興の条件・方法」復興デザイン研究・日本災害復興学会「復興デザイン研究会」	矢野正広
2	4/23	「評論3・マニュアル・個別支援」日本災害復興学会ニュースレター3号・日本災害復興学会」	矢野正広
3	8/30	とちぎコミュニティファンド「CANPAN・CSRプラス大賞」エントリー企業レポート「吉川油脂」	前田利一
4	10/17	「小規模被災地の復興支援の課題①」「木沢棚田オーナー制 ②」 日本災害復興学会誌	①君嶋福芳、 ②君嶋・矢野
5	1/6	「とちぎ寸評・収入の1%誰かのために」読売新聞	山中節子
6	1/17	震つなブックレット「災害ボランティア文化編」扉：災害ボランティアは何をしてきたのか 第1章：プロの世界にとどまらないボランティアだからこそ	矢野正広
7	1/17	震つなブックレット「災害ボランティア文化編」災害ボランティアの文化とは何か	柴田貴史
8	3/31	「とちぎ寸評・地域で高齢者を支えよう」読売新聞	山中節子

事業報告 E.【調査・研究・連絡調整・ネットワーク】

(1)とちぎVネット災害救援ボランティア基金 (NPOの活動資金の援助事業)

主に国内で発生した自然災害などに際し、緊急救援ボランティア活動が必要な場合の初動の活動資金を援助する(「基金運用規定」による)。

今年度は兵庫県作用町での水害のボランティア活動支援金として新聞紙上で寄付を募り14,100円を寄付として震つな加盟団体である被災地NGO協働センター(兵庫・神戸)に助成した。

また、夏の間にアジア・太平洋地域で発生した台風の災害(台湾・フィリピン・ベトナム)やサモアの津波災害、インドネシア・スマトラ島の地震災害について募金活動をした。とちぎYMCAと共同で街頭募金を行い23,500円をCODE=災害援助市民センター(兵庫・神戸)に助成した(YMCAは日本YMCA同盟を通して各国のYMCAへ寄付)。

1月に発生したハイチの地震では22万人が亡くなる今世紀でも最大級の地震災害となった。本会は新聞紙上や街頭で「ハイチ地震NGO活動支援金」を募り、58人からいただいた652,471円をCODE=災害援助市民センター(兵庫・神戸)に助成した。

金	
10/10(土)スマトラ・サモア、台	・フィリピン・ベトナム水害 金(矢野・ 徳山・大塚・菊池・青木・ 田 YMCA 人)
1/23(土)ハイチ地震の	金(18人)

(2)震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)への加盟、運営 (Vの連絡調整事業)

災害時の全国的なボランティアネットワークを構築するため「震災がつなぐ全国ネットワーク(略称=震つな)」へ加盟し、職員を同ネットワークの事務局長として業務にあたらせた。また会議や「移動寺子屋」事業にはオールとちぎメンバーを積極的に派遣するようにした。内閣府「防災ボランティア会議」にも引き続き参加した。

5/29-30●大分しんつな総会・ブックレット 集会議(大分/矢野)	2/23●震つな役員会議(世田/矢野)
11/15●震つな定例会議(世田 /矢野、村井：神 、村野：大分、 田・松田：名古屋、宇田川・ 山：神 川、 内：新 、 :大 、中家：世田 V他3人)	2/23●震つな・移動寺子屋(大学： 田先生「災害時の げ時」 講義/矢野・ 田・菊池)

(3)「全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」実行委員会の運営

(Vの連絡調整事業)

全国の市民活動やV活動の中間支援団体が一堂に会し、市民活動の推進方策、中間支援団体自身の経営について研鑽し話し合う、「第28回全国民間ボランティア・市民活動推進者企画戦略会議」を6月8・9日に佐賀で実施した。企画・準備のため本会職員1人を派遣し、年度末までに4回の会議に参加した。当日は全国から約60人の参加があった。次年度(2010年)は6月5・6日に静岡で実施する。

■実行委員会参加団体：大阪ボランティア協会、富士福祉事業団、世田谷ボランティア協会、静岡県ボランティア協会、日本青年奉仕協会、東京ボランティア・市民活動センター、とちぎボランティアネットワーク、茨城NPOセンター・コモンズ、佐賀CSO推進機構
6/6-7 民ボラ実行委員会(佐 /矢野、 、安久、水)、9/18 民ボラ実行委員会(静岡/矢野)、11/27 民ボラ実行委員会(静岡/矢野、 、松山、岡村、 見、高山、鈴木)、3/8 民ボラ実行委員会(静岡/矢野、 、松山、岡村、 見、安部)

(4) 「NPOと行政の協働」実態調査および

「協働カパワーアップセミナーin 栃木」の開催 (NPOの育成事業)

IIHOE (人と地球と環境のための国際研究所) の全国調査に協力して「NPOの行政の協働実態調査」を実施した。全国の民設NPO支援センターと共同でおこなっている一斉調査で、人口10万人以上の自治体(都道府県政令市・市)の協働の実態を調査するもので、今回は3年前の前回調査に続いて4回目となった。本会が担当した栃木県内の自治体は栃木県、宇都宮市、足利市の3自治体で、。調査結果は冊子となり5項目のレーダーチャートになって公開されている。

また、3月には「協働カパワーアップセミナーin 栃木—NPOと行政の協働実態調査報告会—」を開催し、自治体、NPOのリーダー、市町NPO支援センター職員へ研修の機会とした。

栃木県内の調査3自治体は「制度やしきみ化」はできたものの、仕組みを生かす施策や、仕組みを改善する方策に努力が必要とされる結果となった。調査外の自治体は「予算措置の範囲内の協働」であり、協働の仕組み化がされていないという意味では、時々自治体の都合に左右されるレベルの協働である。

3/11(木) 13-16時半	協働カパワーアップセミナーin 栃木 協働環境と活用度から見る「協働の真実」。協働で何を成す? どう評価する?	参加者
■講師： 川北秀人さん (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)	◆各地の総合計画や首長立候補者のマニフェスト、条例、指針などに「協働」という言葉が頻繁にみられるようになって何年も経ちました。公共サービスや公益事業に関わる方にとってはすっかり聞きなれた協働ですが、実際にはどの程度すすみ、どの程度、効果をあげているのでしょうか。 ◆本報告会では、全国の都道府県と主要市を対象に開催された「第4回都道府県・主要市におけるNPOとの協働環境調査」の結果から、協働の真実を探ります。 ◆人口構造や経済だけではなく様々な面で刻々と変化していく地域。これからの社会を、私たちの地域はどう生き抜いていけばいいのでしょうか。協働という手法から地域を考えるために、ぜひ多くの方の参加をお待ちしています。 ■内容 解説「自治体とNPOとの協働」を考える基本的な視点 ・調査報告：県内の協働環境“活用度”結果とその課題(矢野正広) ・調査報告：全国の協働環境“活用度”傾向と活用事例(川北秀人) 意見交換：協働のしきみを活用するために ■場所：ぼぼら (とちぎボランティア・NPOセンター/宇都宮市昭和2-2-7) ■対象：県、市町、国の地方拠点などの職員の方、市民団体やまちづくりの支援に取り組む方、地域づくりに取り組むNPO、市民団体、その他、公共事業に取り組む組織など。 ■参加費：一般1,000円(本会会員500円)	23

事業報告 F.【災害ボランティア・オールとちぎ】

(1) 救援・復興支援事業 (災害救援活動)

今年度は、中越地震と岩手・宮城県陸部地震の復興支援、兵庫県作用町の水害での救援活動を行なった。また、能登半島地震復興支援の町おこしの祭り復活にも協力した。新潟へは19回、宮城へは5回の訪問となった。

① 緊急救援活動 (岡山県作用町の水害)

8月10日に兵庫県作用町で発生した水害の救援活動のため、8月14-16日に同町久崎地区災害ボランティアセンターに行った。ボランティアセンターでのマッチング、御用聞きなどのコーディネート業務を行った。「震つな」などの連携により実施した。

8/14-16 ●作用町水害救援(青木、柴田、君島、関口)	8/21-23 ●作用町水害救援(柴田)
-------------------------------	----------------------

② 復興支援活動 I (岩手宮城内陸部地震)

一昨年(2008年6月14日)に発生した岩手・宮城内陸部地震での救援・復興支援活動を1年間継続し、2009年6月28日に「くりこま応援の会」事務所を撤収した。春の雪解け後には避難指示を解除するとの見通しになったのがその理由である。今後は栗駒山ろくの被災地内での生活再建が優先課題となるため、被災地内へ定期的に訪問し経過をみながら復興支援(むらおこしの支援)をしていくことにした。

また、今年度はいままでもあまり関係性がなかった花山地区を重点的に支援した。

(経過)	(今年度)
2008/6/14 ●岩手・宮城内陸部地震発。 ◆7/14 ●宮城県社協、ハートネットふくしまと「避難地区に集会所兼ボランティアの拠点設置」の提案。 ◆8/17 ●「くりこま応援の会」現地事務所開設。 ◆2009/1/17 ●「住民版復興計画策定会議」	5/16-17 ●くりこま・花山仮設住宅訪問(矢野・徳山・菊池・関口) 6/28 ●「くりこま応援の会」事務所撤収・解散式(矢野・菊池・柴田・徳山、ハートネットふくしま・吉田・中村、仙台・青木・菅原) 8/1-2 ●くりこま・花山仮設住宅、耕栄地区訪問(矢野、君島、青木) 10/25 ●耕英・花山地区訪問(復興学会・室崎先生、矢野、君嶋) 12/27 ●耕英・花山地区訪問(矢野・君嶋・菊池・青木、仙台・青木)

(成果と課題)

定期的な訪問で次第に復興に関する地域の課題が明らかになってきた。

5月20日以降段階的に避難地区が解除になっているが、被災者は住宅再建も含めてすぐに自宅に戻れる状況ではなく、被災者間で生活再建に格差が生じている。これは観光産業がない花山地区で顕著であり、地区内の半数は戻らないだろうとの予測もあった。高齢化もすすんだこの地区での50-60代の中堅層がほとんどいない中で復興には「よそ者」による強力な支援が必要だが、宮城県内ではすでに忘れられた存在になりつつある。古民家再生などの「内と外の協働プログラム」の発足が待たれるところである。

今後も継続して訪問し、内発的なプログラムができることを支援をしていく。

③ 復興支援活動 II (新潟中越地震)

A 「そば畑オーナー制」の運営支援

5年目になった「ソバ畑オーナー制・和南津そば楽校」を実施した。そばの種まきなど農作業を地元農家の方々に指導いただきながら実施した。本会が主導しなくても住民主体で実施できるようになり、地元マスコミへ周知するなど新そばのまつりには120人が来訪してにぎわった。50・60歳代の集落の中堅と長老が運営をおこなうようになり、「豆みそづくり」や「花笠甚句」の復活も加わって村おこしの事業へと発展した年であった。地元農家はそば打ちをきっかけに町内の他集落との交流が盛んになった。

B 「木沢・棚田オーナー制」の運営支援

木沢地区の棚田のオーナー制をはじめて2年目となった。木沢・棚田保全協議会により「震災米・越後川口木沢棚田オーナー制度」を実施したオーナーも18組に増え、年間来訪者はのべ500人になるなどますますのひろがりがあった。しかし一方で、集落内での棚田の持ち主の参加がなく、活動は村の中堅からは様子見となっ

ていた。本会・オールとちぎとしても1区画のオーナーとなり、田植え、草刈、稲刈など毎月農作業に行くと同時に、オーナー制への参加を村の人に伝える**つなぎ役**に徹することにした。棚田のみでなく、**雪下ろし、雪除けなどで「よそ者が役にたつ」**ことを集落に人がわかるような活動を意識した。

また昨年、中越沖地震で関係を持った**八王子集落（長岡市小国地区：旧小国町）と木沢集落の高齢者同士の交流**も始まった。今年も棚田保全協議会が中心となって、集落同士のいっそう活発な交流がおこなわれている。

新潟関係復興支援（◆中越地震：そばオーナー制、棚田オーナー制、雪ほりボランティア ◆中越沖地震：小国八王子）

4/18-19●木沢棚田オーナー制・田んぼの作業（矢野、柴田、徳山、関口2、学生3人）、●東川口「よってげ亭」餃子出店 5/23-24●棚田の田植え 6/5●木澤地区住民&長岡（ママと子供たち）&八王子集落との交流会（菊池・関口2） 7/19●和南津・ジャガイモ堀り（柴田、青木、永森、関口2） 7/25-26●棚田草刈り（柴田、青木、矢野、君島、徳山、保坂、池田、菊池） 8/9●和南津・そばの種まき（青木、大島） 9/5-6●和南津そば交流会（青木、永森） 9/26-27●棚田稲刈り（柴田、青木、君島、関口、徳山、矢野+1）	10/14●小国・八王子交流会（徳山、関口2、天知） 10/17●茂木・田村さんと和南津・木沢のオーナー制について懇談会（和南津9人、木沢2人、菊池・青木・関口・徳山・矢野・君嶋） 10/22-25●5年追悼式典。そば収穫（柴田、青木、大島） 11/7-8●棚田収穫祭（関口2+1） 11/29●そば収穫祭（天知、青木、関口み） 1/16-17●雪堀ボラ（青木、関口、君島、大島、永井+1） 1/31-1●そばオーナー制「振り返りワークショップ」（関口2、青木） 2/6-7●雪かき道場・十日町（関口2） 2/11-12●雪かき道場・木沢（青木、永森） 2/27-28●雪掘りボラ（柴田、青木、手塚、君島、矢野、小山2、さくら2）
--	--

(2)啓発・普及活動（災害救援活動）

①講師の派遣、講座の企画

災害・防災についての啓発のためにオールとちぎメンバーを主に図上訓練の**講師として派遣**した。また自主講座として、子どもや一般向けの防災ゲームを企画して、イベントなどに出前した。**障害者団体からの防災講座や、被災地への視察コーディネート**などがあり、被災地交流のつなぎ役となった。

また、**小山市**から災害時のボランティアのコーディネートを考えたいと依頼があり、会議や研修会を継続して実施した。結果的に成果物は**マニュアルではなく「協定書」**となった。

6/10(水)●鹿沼市社協災害講座①「避難所運営ゲーム」（矢野・柴田・徳山・青木・関口・君嶋・永森）、 ②6/17(水)「復興支援」（矢野、柴田、徳山、青木、関口、君嶋） 7/12(日)●今泉町自治会（矢野、菊池、柴田、徳山、青木、天知、関口や、関口み） 7/28(火)●中高生ボランティア講座「災害について」鹿沼市社会福祉協議会（矢野、青木、柴田） 9/6(日)●防災ボランティア講座大田原市社会福祉協議会（柴田、君嶋、矢野） 11/14●鹿沼市社会福祉協議会被災地視察コーディネート（柴田、青木、天知、関口み） 11/21(土)●「障害者の防災講座」自立生活センターとちぎ（矢野、菊池、関口み） 12/5-6●災害講座・平常時のボランティアコーディネートの視点三島・（矢野、君嶋、柴田） 1/19(火)・2/4(土)●日光・塩野室防災講座①②（君嶋・柴田） 2/20(土)●災害講座（避難所運営ゲーム、復興支援活動）茨城県社協・土浦市社協（矢野・君嶋・青木・徳山）	●災害の協定 9/9(水)小山市「災害Vの協定」会議（矢野） 10/14(水)小山市「災害ボランティアセンターマニュアル作成会議」 12/9(水)小山市の災害VC設立の協定書会議 1/31(日)●防災ボラ講座「災害ボラセンの作り方・演習」小山市（天知、徳山、矢野）
---	---

②ネットワーク・研修会への参加

静岡県ボランティア協会が4年前から実施している「**静岡県内外の災害ボランティアの広域図上訓練**」に3人が参加し関係者間のネットワークを作った。

9月には、**能登半島地震の復興支援活動**として、祭りの復活を企画した神戸のNPOからの要請で**よそ者によるみこしの担ぎ手**として4人が参加した。

そのほかに、**日本災害復興学会**で、オールとちぎの取り組みを報告するとともに、被災地支援の課題を提起するため論文等を提出し、学会で発表した。

9/19-21●能登・七尾市「お熊甲まつり」（柴田、青木、高田+1） 11/14●鹿沼市社会福祉協議会被災地視察・川口町等コーディネート（柴田、青木、天知、関口み）	2/27-28●静岡図上訓練（君島、青木、天知） 10/17●日本災害復興学会学会発表（棚田オーナー制について：君島・矢野）ポスターセッション（復興基金について：君嶋）
---	---

③『オールとちぎ通信』の発行

被災地の状況をお知らせするため「オールとちぎ通信」を年間に**56回発行**した。希望者にメールで発信し、さらにHP上で公開した。

オールとちぎ通信（編集長：青木秀子）

号	発行日	記事
141	2009. 4. 2	Happy wedding 大作戦イン木沢
142	2009. 4. 06	OGP 主催の交流会に参加してきました 木沢棚田の収穫祭に参加
143	2009. 4. 20	happy wedding 大作戦 in 木沢（撮影会）/和南津そばの郷新年会/V飯にいらっしやい！
144	2009. 5. 1	「宮っ子防災ゲーム」実施/東海地震が起きたらどう動く。「受援力」シュミレーション
145	2009. 5. 25	栗駒に越後のそば打ちボラ遠征/木沢棚田で杉の葉拾い
146	2009. 6. 1	3年目のよってげ亭/めえちゃん母になる/小山っ子防災ゲーム
147	2009. 6. 5	避難解除直前の栗駒訪問
148	2009. 6. 5	木沢の棚田で田植え/闘牛見学/そば打ち道場見学
149	2009. 6. 22	岩手・宮城内陸部地震から1年の栗駒訪問/
150	2009. 6. 29	岩手・宮城内陸部地震から1年を振り返るⅠ（生活再建と復興に関する所見）
151	2009. 7. 2	岩手・宮城内陸部地震から1年を振り返るⅡ
152	2009. 7. 9	木沢と小国の交流
153	2009. 7. 13	鹿沼市社会福祉協議会防災講座/栗駒のいちご
154	2009. 7. 13	くりこま応援の会、涙の撤収…/栗駒からの電話/和南津そばの郷 ジャガイモ掘り実施
155	2009. 7. 29	和南津そばの郷 始動 ジャガイモ掘りしたよ/宇都宮・今泉地区防災講座
156	2009. 7. 30	能登にて
157	2009. 8. 10	川口町は暑かった（汗）棚田草刈・花火
158	2009. 8. 13	栗駒・花山訪問
159	2009. 8. 13	岩手・宮城内陸部地震被災地の声に耳を傾ける
160	2009. 8. 21	雨の和南津
161	2009. 8. 24	水害対応に思う（兵庫県佐用町水害①）
162	2009. 8. 25	兵庫県佐用町水害支援②
163	2009. 8. 31	（栗原）花山の温泉施設再開に希望
164	2009. 9. 13	兵庫県佐用町水害支援③ 防災の日点検
165	2009. 9. 15	川口へ里帰り？ そば打ち体験会&懇親会
166	2009. 9. 17	木沢で講座（棚田オーナー制見学）
167	2009. 9. 23	大田原市で防災講座 美里学園・焼きそば隊2009 川口訪問活動
168	2009. 10. 6	9月の連休は能登半島で 能登の祭 お熊甲祭！
169	2009. 10. 9	棚田の収穫2009 棚田の秋風
170	2009. 10. 13	震災5周年 復興祈念コンサート B B V再び
171	2009. 10. 16	中越地震5年間をふり返る①/徳山雄一、私の災害V参加/永森裕子
172	2009. 10. 22	中越地震5年② また行きたくなくなる理由/関口三恵、ボランティアへの一步/天知稔
173	2009. 10. 29	中越地震5年③ 災害ボラ「自分」を振り返る/君嶋福芳
174	2009. 10. 30	八王子多世代交流会を開催 いいもの見つけた小国八王子の石仏
175	2009. 10. 30	災害復興学会で報告 アジア・太平洋地域で発生した災害の街頭募金しました。
176	2009. 11. 3	木沢で和南津の衆集う（茂木田村さんを囲んで）、よってげ亭ふれあい市で餃子焼き
177	2009. 11. 4	くりこま耕英と花山を訪ねて
178	2009. 11. 8	和南津そばの郷5年目の収穫 豆だ会NHKに出る 栃木の人川口で味噌を売る 愛の兜
179	2009. 11. 17	10. 23川口町追悼式典に参加
180	2009. 11. 30	No Volunteer, No Life/柴田隊長 棚田収穫祭
181	2009. 12. 6	栃木県鹿沼市V連、川口町復興支援センター視察
182	2009. 12. 6	障害者の防災講座 日光市の防災講座
183	2009. 12. 8	みんなの顔が輝いたー「そばの郷」5度目の収穫祭
184	2009. 12. 14	災害ボラセン、その後～復興について学ぶ「災害復興学会シンポ」
185	2009. 12. 21	三島市と神戸長田区の中心市街地活性化の取り組み事例
186	2010. 1. 6	栗原・花山を訪問
187	2010. 1. 20	「災害復興基本法」原案を発表
188	2010. 1. 25	木沢雪堀りボランティア2010
189	2010. 2. 9	ハイチ地震街頭募金 弥七先生のちょこっと防災講座
190	2010. 2. 14	和南津「ソバオーナー制」ワークショップ
191	2010. 2. 21	小山で災害ボランティアセンター設立の講座・演習
192	2010. 2. 21	雪かき道場 in 十日町・池谷 栃木ボランティア・市民活動フォーラム2010
193	2010. 2. 16	雪かき道場 in 木沢
194	2010. 3. 7	土浦市で防災講座 豪雪地帯で雪堀り 震つな移動寺子屋に参加して
195	2010. 3. 11	えちごかわぐち雪洞火ばたる祭 雪堀その2 チリ地震津波について
196	2010. 3. 16	静岡県の広域図上訓練
197	2010. 3. 26	まちかどVネットのため川口訪問

④会議

オールとちぎ会議を年間で44回開催した。定例は毎週水曜日午後7時からとした。夜の会議なので夕食と一緒に作って食べるようにした。一人200円以上のカンパで職員が交代で作っている。

■オールとちぎ定例会議 44 回 毎週水曜 19 時から

4/1(9 人)、4/8(9)、4/15 (9)、4/22()、5/13(11)、5/20(10)、5/27(HUG 練習)、6/3()、6/24()、7/1(8)、7/8(8)、7/15(9)、7/22(13)、7/29()、8/5 (9)、8/12(11)、8/19()、9/2(13)、9/9(12)、9/16(10)、9/30(9)、10/7(9)、10/14()、10/21(7)、10/28()、11/4(7)、11/11(19)、11/18(5)、11/25()、12/2()、12/9()、12/16(10)、1/6(10)、1/13(8)、1/20()、1/27()、2/10 ()、2/17 (9)、2/24 ()、3/3(7)、3/10(5)、3/17()、3/24()、3/31()

事業報告 G. 事業報告【エコ・ハウスたかねざわ】(指定管理者)

(1)全体の評価 (環境の保全を図る活動)

(目標)昨年度から始めた『エコイベント推進事業』(リユース食器・洗浄ユニット・エコステーショングッズの貸出し)と『とちぎの元気な森づくり県民税交付金事業』(マイ箸づくり講座)の本格的な運営を行うことを目標とした。ほかに各種団体や行政、企業などとの協働・連携も充実させながら活動の広がりを持たせること、町が整備した森がエコ・ハウスに隣接しているためこの森を使った体験事業を企画することを目標とした。

(総評)エコハウスの利用人数は全体で8.3%増(前年度比較)となり念願の年間利用者数3万人を超えた。平成21年8月の衆議院議員選挙会場での利用者(1500人)が含まれているため、この数字を引くと2.9%増となる。リサイクルコーナーの展示数は上半期2.7%増であったが下半期の展示数が少なく最終的には2.5%減となった。資源回収ステーションは3.2%増、部屋の使用は4.4%増と少しではあるが全て利用者は増加した。

視察、見学、体験の受け入れは、阿久津小学校を除く町内の小学校と係わることができた。特に東小学校では4つの学年と、上高根沢小学校では3つの学年と係わることができた。

(平成21年度の新たな取り組み)

①里山文化の会のコース分け…里山文化の会の参加者が固定されており、より深い内容の体験を希望していることから、ビギナーコースとアドバンスドコースの2つに分け活動をした。

②夜のエコ料理教室…本田技術研究所からの依頼で仕事終了後に独身者や単身赴任者などを対象としたエコ料理教室を8回開催した。料理教室などに行ったことのない人が多く大好評だった。会場も町担当者からの依頼もあり、元気あつぷむらの調理室で開催した。

③ファーストスプーンづくり…元気な森づくり県民税のマイ箸づくりが、県の森林政策課のエコチャレンジスクールに採用され、大きく展開したため、他の体験教室として、「新米パパの木製ファーストスプーンづくり」を1回開催した。

④森林整備でボランティア募集…産業課が主体となって行っている森林整備のボランティアをエコ・ハウスたかねざわで募集した結果、1日め約40人、2日め約20人の参加があった。当日は雨だったが、みなさんががんばって活動した。

⑤102人の生徒受け入れ…10/13に小山市立間々田東小学校5年生102人を受け入れ、紙すき・木工・絵手紙・さき織り・廃油キャンドルづくりの5つの体験を一度にやった。エコ・ハウスたかねざわが休館日であったため、展示室も使用し活動した。(102人は受け入れ人数の新記録)

⑥高根沢町生涯学習課との連携事業…高根沢町生涯学習課の環境学習支援事業として、7つの講座を連携して活動した。①5/6 キリンビール観察会(自然体験教室) ②5/24 エコ・フェスタ「元気な森で遊ぼう」 ③6/20 森や里山で思いっきり遊ぼう(エコ・アクションデー) ④8/16 里山文化の会夏休み特別企画 ⑤8/22 キリンビール観察会(自然体験教室) ⑥2/20 冬の森で観察会&ネイチャーゲーム(エコ・アクションデー) ⑦3/20 早春の森を楽しもう!(エコ・アクションデー)

⑦いろいろな団体が、エコ・ハウスたかねざわを会場に活動した…4/26にまち普請志民の会コミュニティ分科会が、廃油キャンドルづくりをした。(エコ・ハウスたかねざわで参加者の申し込みを協力) 5/31に真岡青年会議所が「野育」をテーマに、昨年整備した森で遊びながら、竹でスプーンを作り(木楽遊倶楽部が協力)カレーを作って食べた。高根沢子どもエコクラブやとちぎYMCA、那須YMCA、若者サポートステーション、トチギ環境未来基地などとも連携して研修会などに協力した。

⑧エコイベント推進で簡易型洗浄機…リユース食器を洗浄する「さらピカくん」は、自動洗浄機が搭載されており、軽トラックに載せるタイプであるが、秋にシンクと温水器がセットされた簡易型の2号機(全て手洗い)が完成し、小さなイベントで活躍した。また、ポリプロピレンのカップと小判型の皿が新たにリユース食器として増えた。4月のECOたんたんライブでは、100円のデポジットで、リユースカップの貸出しをした。

(2)事業報告 (環境の保全を図る活動)

【運営総務管理部門】

①施設利用者総数

施設全体の総利用人数。(来館・資源回収・部屋の利用・視察・体験・見学・販売・展示・精算)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2002年度	204	518	921	1020	1053	808	1046	1009	1021	1081	1248	1301	10184
2003年度	1213	1159	1502	1612	1259	1065	1208	1306	1366	1423	1654	2029	15430
2004年度	1833	1986	1685	1854	1394	1629	1753	1599	1574	1510	1603	1718	20157
2005年度	1799	1872	1719	1668	1824	1913	1847	1609	1544	1903	1662	1977	21337
2006年度	2988	2412	2166	3380	1947	2022	2295	2010	2090	1907	1752	2485	27454
2008年度	2153	2744	1934	2370	2306	2297	2325	3079	2131	2044	2077	2367	27827
2009年度	2458	3019	2327	2425	3788	2302	2431	2246	2141	2281	2092	2637	30147
前年度比	1.14	1.10	1.20	1.02	1.64	1.00	1.05	0.73	1.00	1.16	1.01	1.11	1.08

■2008年度：27,827人 2009年度：30,147人 前年度比：1.08

②展示情報室(リサイクルコーナー)展示数

ごみ減量を目的に、ご家庭で不要になったものを値段を付けて販売している。以下は展示品の数。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2002年度	145	288	203	287		208	469	420	239	489	582	424	3753
2003年度	585	650	581	582	535	813	731	699	517	689	733	743	7323
2004年度	658	1013	848	857	534	806	811	862	910	639	819	594	9351
2005年度	889	673	1015	580	814	702	901	1062	635	675	599	680	9225
2006年度	877	1216	829	818	623	769	1044	981	755	616	635	913	10076
2008年度	976	1162	626	924	620	915	936	1125	874	791	849	851	10649
2009年度	978	1306	900	972	522	687	874	1022	894	705	771	750	10381
前年度比	1.00	1.12	1.44	1.05	0.84	0.75	0.93	0.91	1.02	0.89	0.91	0.88	0.97

■2008年度：10649点 2009年度：10381点 前年度比：0.97

③資源回収ステーション利用者数

リサイクルできる資源(13種類)の拠点回収を利用した人数。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2002年度	59	77	99	159	182	162	166	227	251	210	210	265	2067
2003年度	283	268	289	341	357	317	347	299	336	362	325	433	3957
2004年度	437	420	448	560	551	505	559	454	453	546	443	554	5930
2005年度	587	517	552	636	705	654	647	569	556	724	594	692	7433
2006年度	778	666	786	794	893	826	750	708	794	783	645	854	9277
2008年度	765	837	770	859	987	816	800	891	811	792	779	887	9994
2009年度	892	928	798	924	1052	841	877	800	753	908	680	856	10309
前年度比	1.17	1.11	1.04	1.08	1.07	1.03	1.10	0.90	0.91	1.15	0.87	0.97	1.03

■2009年度：9,994人 2008年度：10,309人 前年度比：10.3

④部屋の貸し出し件数

研修室・エコアクションルーム・談話室・調理室の貸し出し件数。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2002年度	0	8	10	24	16	12	28	19	37	24	27	33	238
2003年度	20	22	28	33	15	18	25	19	28	21	34	40	303
2004年度	27	24	37	43	25	49	35	34	37	23	38	43	415

2005年度	33	28	44	44	35	40	42	35	37	44	48	49	479
2006年度	44	38	48	54	41	48	59	48	36	42	35	58	551
2008年度	39	48	42	58	45	49	56	54	47	41	47	48	574
2009年度	52	45	54	52	36	50	55	60	42	40	57	56	599
前年度比	13	-3	12	-6	-9	1	-1	6	-5	-1	10	8	1.04

■2009年度：574件 2009年度：599件 前年度比：1.04

⑤視察・見学・体験の受け入れ

学校や各種団体などの要望に合わせた、視察・見学・体験教室・出前教室などの受け入れの平成21年度実績

1	4/15 火 11:00-11:30 日光女将の会(10人)見学	29	10/2 金 10:00-12:00 いきいきふれあいセンターみつわ(19) 見学・体験:さき織り
2	4/16 木 10:30-12:00 若者サポートステーション(13)体験:マイ箸づくり	30	10/9 金 12:30-14:00 小山城北小5年(64)体験:さき織り・紙すき・木工
3	4/19 日 11:00-16:00 たんたんライブ 出前:マイ箸づくり	31	10/10 土 10:00-13:00 那須塩原市西公民館(6)出前:エコ料理
4	4/26 日 9:00-13:00 まち普請志民の会コミュニティ分科会(14)体験:廃油キャンドル	32	10/13 火 12:45-14:00 間々田東小5年(102)体験:さき織り・紙すき・絵手紙・木工・廃油キャンドル
5	5/13 水 10:00-10:40 野うさぎクラブ(3)見学	33	10/16 金 9:20-10:05 上高根沢小5年(21)出前:環境カルタ
6	5/16 土 14:00-16:00 那須町役場女性部(37)出前:マイ箸づくり	34	10/30 金 10:00-12:30 トチギ環境未来基地(5)体験:マイ箸づくり
7	5/27 水 11:00-13:00 さいたま市エコクラブ(7)体験:マイ箸づくり	35	10/30 金 9:00-10:30 東小3年親子(37組)出前:さき織り
8	5/31 日 9:00-15:30 真岡青年会議所(53) 体験:スプーンづくり・森で遊ぶ	36	11/4 水 10:00-11:30 生涯学習課いきいき教室(29)出前:さき織り
9	6/10 水 10:00-11:30 小山市市民生活課・VC運営委員(15) 見学	37	11/4 水 17:30-20:30 本田技術研究所(16)出前:エコ料理
10	6/11 木 14:00-15:00 日光商工会議所今市地区(19)視察	38	11/6 金 13:30-15:00 中央小4年(39) 見学・体験:分別ゲーム
11	6/23 火 9:00-9:30 上高根沢小3年(11) 見学	39	11/11 水-11/13 金 9:30-15:00 阿久津中学校マイチャレンジ(3)
12	6/2 土 10:00-13:00 子どもエコクラブ(22)体験:エコ料理、図書館中央館調理室	40	11/11 水 10:00-11:30 生涯学習課いきいき教室(17)出前:さき織り
13	6/30 火 9-10時・さくら市上松山小5年(83) 見学・講話	41	11/15 日 10:30-14:30 那須YMCA(18) 体験:紙すき・落ち葉のボール
14	7/14 火 10:00-10:15 東小学校5年(26) 見学	42	11/18 水 10:00-11:30 生涯学習課いきいき教室(17)出前:さき織り
15	7/24 金 9:00-11:00 町内小学2年生担任(8) 体験:さき織り	43	11/18 水 13:30-15:30 那須町立那須小学校(14)出前:マイ箸づくり
16	7/24 金 10:00-10:50 エコライフネットワークとちぎ(61) 見学	44	11/18 水 17:30-20:30 本田技術研究所(15)出前:エコ料理
17	7/28 火 10:00-15:00 とちぎYMCA(15) 体験:マイ箸づくり・ボランティア	45	11/23 月 10:00-12:00 高根沢子どもエコクラブ(47) 体験:廃油キャンドル
18	8/6 木 9時半-12時・北高根沢中1年(2) 職場見学	46	12/1 火 10:00-11:00 宇都宮市篠井地区市民センター(32) 見学
19	8/6 木 15:20-15:50 町内新人教職員(6) 見学	47	12/2 水 17:30-20:30 本田技術研究所(15)出前:エコ料理
20	8/25 火 13:30-15:00 若者サポートステーション(2) 見学・体験:エコ料理	48	12/18 金 14:00-15:30 日光市あすなろ会(15) 体験:廃油キャンドル
21	8/26 水 10:00-12:00 宮崎県都農町議会総務産業建設常任委員会(5) 視察	49	1/20 水 14:10-16:30 那須小4年親子(37)出前:マイ箸づくり
22	9/3 木 14:00-15:30 塩谷地区指導員部会(8) 体験:さき織り	50	1/22 金 10:30-12:10 東小6年親子(31)出前:マイ箸づくり
23	9/10 木 10:30-11:15 上高根沢小4年親子(23)出前:マイ箸づくり	51	1/28 水 17:30-20:30 本田技術研究所(21)出前:エコ料理
24	9/10 木 13:20-14:30 上高根沢小5年親子(21)出前:紙すき	52	1/29 金 10:30-12:20 東小1年親子(18)出前:エコ料理
25	9/18 金 13:00-14:30 那珂川町役場環境総合推進室(3) 視察	53	2/3 水 17:30-20:30 本田技術研究所(20)出前:エコ料理
26	9/29 火 9:00-12:00 北小4年(35) 体験:環境カルタ・紙すき・さき織り	54	2/7 日 10:00-15:00 NPO見本市(31)出前:マイ箸づくり
27	9/30 水 11:00-11:30 上都賀法人会日光地区女性部(16) 見学	55	2/17 水 17:30-20:30 本田技術研究所(19)出前:エコ料理
28	10/1 木 10:20-12:15 西小4年親子(99) 体験:マイ箸づくり・分別ゲーム	56	3/17 水 17:30-20:30 本田技術研究所(15)出前:エコ料理

⑥展示コーナー

2010年1月から「2010年度ごみ減量化・リサイクルポスター優秀作品」の展示をした。

⑦教材づくり(学習プログラムの提案)

2009年5月「マイ箸づくり」を環境学習プログラムに追加した。高根沢町産業課の「とちぎの元気な森づくり県民税交付金事業」をうけ実施した。

⑧人材育成（スタッフ研修）

高根沢職員の研修のため、資格取得の講座に積極的に出席させた。また、つくば市、茂木町など先進地域に研修に行った。

◆資格取得 ●愛玩動物飼養管理士 2 級（スタッフ 1 名） ●栃木県 IT 産業人材育成研修 EXCEL 講座「基礎・中級」スタッフ 1 人、
◆職員研修/国立環境研究所（つくば市）：研究者による地球温暖化の話と循環型社会・廃棄物研究センターの見学・説明。美土里館（茂木町）：
葉っぱや家畜の糞尿などの堆肥化施設の見学・説明。…3/23・8-17 時・スタッフ 8 人、環境課 2 人

⑨PR 活動

○「エコ・ハウスたかねざわ通信」の発行…毎月 10 日発行（毎回 1000 部発行） 第 55 号（4/10 発行）から第 66 号（3/10 発行）まで。

○ホームページによる広報…新聞の発行に合わせ、月 1 回更新した。2009 年 5 月より環境学習プログラム「マイ箸づくり」を追加した。また、5 月からスタッフブログを開始した。

◆アドレス <http://homepage3.nifty.com/ecohouse-t> ◆アクセス数：4032 アクセス（4/1～3/31）

○イベント

<ul style="list-style-type: none"> ・4/19 E C O たんたんライブ（オリオンスクエア）：マイ箸づくり ・9/27 もったいないフェア（宇都宮市城址公園）：エコ料理（試食）・マイ箸づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・11/1 映画会「天国はつくるもの 107+1 パート 2」（エコハウスたかねざわ） ・11/7・8 たかねビア秋祭り（町民広場）：エコ料理 ・1/31 ポジ茶 's 映画まつり（町民広場）：エコ料理 ・2/7 N P O 見本市（とちぎ健康の森）：マイ箸づくり・分科会司会
---	---

○報道（町政だよりは除く）

回	月日	新聞社名	内 容	テーマ
1	4/8 水	下野新聞アスポ	食 o o k i n g アスパラガスの 2 色ソース	エコ料理教室
2	4/26 日	下野新聞	木工の楽しさ伝授	ボランティア
3	5/6 水	下野新聞アスポ	食 o o k i n g 本格インドカレー	エコ料理教室
4	6/4 木	下野新聞	和綿が紡ぐ世代間交流	里山文化の会
5	7/8 水	下野新聞アスポ	食 o o k i n g 鶏と野菜の煮びたし、初夏の香りごはん	エコ料理教室
6	8/5 水	下野新聞アスポ	食 o o k i n g ブッキーニの肉詰め焼きネパトロあん	エコ料理教室
7	8/28 金	下野新聞	8 月 3 1 日は「野菜の日」すべて使ってエコ料理を	エコ料理教室
8	9/2 水	下野新聞アスポ	食 o o k i n g ナスのみそマヨ焼きとグレープ煮	エコ料理教室
9	9/9 水	下野新聞アスポ	300 秒... 技あり！? の簡単レシピ	エコ料理教室
10	11/11 水	下野新聞アスポ	つぎつぎリメイク料理	エコ料理教室
11	12/23	韓国毎日経済新聞放送局	正月 T V 番組	
12	2/17 水	下野新聞アスポ	食 o o k i n g 白菜を使い尽くす料理	エコ料理教室
13	2/17 水	朝日新聞	和綿が紡ぐ地域交流	里山文化の会
14	3/10 水	下野新聞アスポ	旬の味わいたっぷりと	エコ料理教室

【事業部門】

①食用油サイクルせっけんグループ「しゃぼんだま」

「しゃぼんだま」は、エコアクションルーム 2 を拠点に、月 1 回、保育園等で使わなくなった廃食用油（天ぷら油）を原料に、せっけんづくりをおこなっている。

○特別企画

回	月日	時 間	内 容	参加者数
1	5 月 24 日（日）	10：00～14：00	手作りせっけんをつくらう！（エコフェスタ）	-
2	7 月 25 日（土）	10：00～12：00	マイせっけんづくり	2 人

②エコ料理教室

生ゴミを出さない、リメイク料理、省エネルギー、短時間、安価などをテーマに、環境にやさしい料理の教室を毎月開催した。報道で取り上げられ人気が出て、出前で、夜間に、取材のため、など要望に応じて出張料理教室も開催するようになった。

回	月日	時間	テーマ	メニュー	参加者
1	4 月 10 日	10：00～13：00	環境について考え直すエコ料理。調理から後片付けまで	本格インドカレー・フライドジンジャー・きゅうりの和え物 ピクルス風味	11

2	5月24日	10:00-13:00	エコ・フェスタ	手作りウインナー ※ソーラークッカーの展示(曇天のため使用できなかった)	—
3	6月12日	10:00-13:00	お酢たっぷりメニュー	いかと玉ねぎの海苔酢和え・鶏と野菜の煮びたし;+初夏の香りごはん(二品同時調理)・手作りカッテージチーズサラダ	11
4	7月10日	10:00-13:00	ねばねば料理で夏バテ知らず	エノキ茸の佃煮・ズッキーニの肉詰め焼きネバトロあん・オクラと春雨のサラダ・もずく酢一ラータン	16
5	8月21日	10:00-13:00	大変身のナス料理	ナスのディップ風・鶏肉とナスの梅酒煮・ナスの味噌マヨ焼き・ナスのグレープ煮(デザート)・皮とヘタの黒ソース	11
6	9月11日	10:00-13:00	フルーツを使ってお惣菜を作る	キウイとチキンのサラダ・具沢山きのこの栗一ムスープ・梨の前菜2種・かつおのソテーぶどうソース	9
7	10月9日	10:00-13:00	つぎつぎリメイク料理	ひじきと大根のサラダ・ひじきと切干大根の煮物・おから入りひじきの春巻・ひじきの混ぜごはん	9
8	12月10日	10:00-13:00	本格シホンケーキに挑戦	シホンケーキ・豆腐入り無発酵パン	12
9	1月8日	10:00-13:00	白菜を使い尽くす料理	白菜のたらこ和え・白菜の洋風かき揚げ・白菜と塩辛のクリーム煮・白菜と玉ねぎのサラダ(はちみつ梅ドレッシング)	11
10	3月12日	10:00-13:00	かぼちゃ料理	かぼちゃのニョッキトマトソース(きな粉和え)・かぼちゃと鶏肉の甘辛煮・かぼちゃとゆで卵の豆腐グラタン・かぼちゃの皮とワタのちじみ	13
11	3月30日	10:00-13:00	子どもエコ料理 皮から手づくり本格餃子	カラフル餃子	4

○出張料理教室

回	月日	依頼者(形態)テーマ・内容
1	6月27日	子どもエコクラブ ポテトメンチカツ・ポテトサラダ・マヨネーズ
2	8月25日	下野新聞(取材) キャベツを使い切るレシピ
3	8月25日	下野新聞アスポ(取材) 300秒のできる簡単レシピ
4	9月27日	もったいないフェア宇都宮2009(模擬店) 梨の皮のかき揚げ・玉ねぎ茶
5	10月10日	那須塩原西公民館(出前) ポテトメンチカツ・ポテトサラダ・マヨネーズ
6	10月21日	本田技術研究所(体験) 料理初心者向け『たっぷり作って便利「ボトフ」七変化』
7	11月4日	本田技術研究所(体験) 単身者・独身者向け『これさえあれば「万能ねぎ味噌」』
8	11月7日・8日	たかねピア秋祭り(模擬店) にんじん入りドーナツ・玉ねぎ茶
9	11月18日	本田技術研究所(体験) お酒を飲む方に『「市販品を使って」料理に親しもう』
10	12月2日	本田技術研究所(体験) 料理は工夫次第で『蒸し器を使えばヘルシー「一度に4品同時調理」』
11	1月12日	本田技術研究所(体験) 工夫次第でカロリーダウン
12	1月27日	本田技術研究所(体験) 切る、こねる、焼くで美味しく!『ジューシーな本格ハンバーグを作ろう』
13	1月29日	小学校1年生親子(出前) 電子レンジでチョコレートブラウニー(バニラアイスでカスタードクリーム)
14	1月31日	ポジ茶's映画まつり(模擬店) にんじん入りドーナツ・玉ねぎ茶
15	2月3日	本田技術研究所(体験) 栃木の小麦粉を使って『こだわり派の手打ちうどん』
16	2月17日	本田技術研究所(体験) 手元の道具と材料で『フライパンで作るクリスピータイプのピッツァ』
17	2月25日	下野新聞(アスポ) 取材 旬の味わいたっぷりと(春キャベツ)
18	3月17日	本田技術研究所(体験) 蒸し器を使えばヘルシー『一度に4品同時調理』
19	3月20日	エコ・アクションデー かぼちゃのすいとん

③犬のしつけ教室

犬に関するトラブルを少なくするために散歩の仕方などを中心とした「犬のしつけ教室」を開催した。5月17日にも開催を予定していたが、雨天のため中止にし、秋に延期した。

回	月日	ビギナーコース		ステップアップコース	
		時間	参加者数	時間	参加者数
1	4月19日(日)	10:00~11:00	5組	11:00~12:00	6組
2	9月26日(日)	10:00~12:00	5組	11:00~12:00	1組
3	10月31日(土)	10:00~12:00	3組	11:00~12:00	3組
4	11月7日(土)	10:00~12:00	5組	11:00~12:00	0組
5	11月28日(土)	10:00~12:00	5組	11:00~12:00	3組
6	3月27日(土)	10:00~12:00	2組	11:00~12:00	1組

④エコ・フェスタ(イベント協力)

フリーマーケットや体験教室、ステージ発表、犬のイベント、模擬店など、年に1回のエコハウスのお祭りとして開した。

5月24日(日) 9:30~14:00	エコ・フェスタ	参加者
■内容: 廃油キャンドルづくり(まち普請志民の会)・ミニ気球作り(熱気球ふれあい事業実行委員会)・マイせっけんづくり体験教室(しゃぼんだま)・マイ箸づくり体験教室・里山文化の会体験教室・おもちゃの病院 ●ステージ(西小金管バンド部・アロハホアビリ・ハーモニカ高根) ●展示コーナー(宝光会・デコパージュ・アート押し花・絵手紙・古布リサイクル・子どもエコクラブ・県・町)		500

<ul style="list-style-type: none"> ●特別展示（自転車で日本全国からの環境メッセージを集めた22歳・・・榎木雄一朗さんからの報告！） ●模擬店（ひよこの家を支援する会・若者サポートステーション・西小金管バンド部・北星会・すまいる） ●フリーマーケット（小雨のため、出店しなかったグループもありました）●犬のデモンストレーション、競技会 ●元気な森で遊ぼう（観察/ネイチャーゲーム：町産業課協力） 	
---	--

⑤エコ・アクションデー（毎月第3土曜日：開放日）

月に1回の開放日として、毎回テーマを決め、環境に関する体験を中心とした活動の場として開催した。

回	月日	時 間	内 容	参加者
1	4月18日（土）	10:00～13:00	橋田先生と里山散歩 野の花の観察と押し花づくり	14
2	6月20日（土）	10:00～15:00	森や里山でおもいっきり遊ぼう！	13
3	7月18日（土）	10:00～15:00	牛乳パックでハガキを作ろう！	26
4	8月1日（土）	10:00～13:00	流しそうめん&竹細工で遊ぼう！	19
5	9月19日（土）	10:00～12:00	古布でさき織り体験	16
6	10月17日（土）	10:00～15:00	自然の中で運動会と竹とんぼづくり	26
7	11月21日（土）	10:00～12:30	玉ねぎでバンダナを染める	5
8	12月19日（土）	10:00～15:00	手すきハガキでクリスマスカード、年賀状を作ろう	1
9	1月16日（土）	10:00～15:00	凧作り&凧揚げにチャレンジ	12
10	2月20日（土）	10:00～15:00	冬の森で生き物観察&ネイチャーゲーム	20
11	3月20日（土）	10:00～15:00	早春の森を楽しもう！	19

※5月はエコ・フェスタを開催したので「エコ・アクションデー」は実施しなかった。

⑥エコ・ガーデニング

花や野菜を育てる方法を学習する教室を開催した。講師は小口光夫さんをお願いした。

回	月日	時 間	内 容	参加者
1	4月11日（土）	10:00～12:00	ヒマワリ&ミニトマトの播種	13
2	5月9日（土）	10:00～12:00	ミニトマトの移植・バジルの播種	11
3	6月13日（土）	10:00～12:00	ハーブの播種	13
4	7月11日（土）	10:00～12:00	夏の寄せ植え	10
5	9月12日（土）	10:00～12:00	葉ボタン&パンジーの播種	9
6	10月10日（土）	10:00～12:00	球根を植える～スノードロップ&チューリップ～	7
7	11月14日（土）	10:00～12:00	にんにくの植え方、葉牡丹とパンジーの生育	11
8	12月12日（土）	10:00～12:00	クリスマスの寄せ植え	9
9	3月13日（土）	10:00～12:00	ミニトマトの播種	10

⑦里山文化の会：自然体験

綿や藍などを育てながら、綿紡ぎや染など体験を行い、昔ながらの里山の生活を見直す機会づくり

回	月日	時 間	内 容	参加者
1	4月12日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	リサイクル風呂敷①・藍の播種	6
		アドバンズドコース 13:00-17:00	藍の乾燥葉染め	12
2	5月10日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	リサイクル風呂敷②・沈殿藍で染める	8
		アドバンズドコース 13:00-17:00	麻を紡ぐ・沈殿藍染め	13
3	6月14日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	風呂敷の結び方・藍の畑の除草	7
		アドバンズドコース 13:00-17:00	麻布のヨモギ染め	12
4	7月26日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	藍の生葉染め	9
		アドバンズドコース 13:00-17:00	藍下染め（生藍+カリヤス）	11
5	8月16日（日）	9:00-14:30	夏休み特別企画・里山で藍を染めよう！	36
6	9月13日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	原始コマで糸紡ぎ	7
		アドバンズドコース 13:00-16:00	麻を紡ぐ	8
7	10月18日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:00	原始コマで糸つむぎ	16
	10月11日（日）	アドバンズドコース 10:00-12:30	臭木で染める	9
8	11月8日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	桜葉で綿糸を染める	5
		アドバンズドコース 13:00-16:30	桜葉で布と綿糸と麻を染める	9
9	12月13日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	桜で染めた綿糸でしおりづくり	4
		アドバンズドコース 13:00-16:30	藁で和紙を漉く	14
10	1月24日（日）	10:00～15:00 特別編	イチイの木で染める	8
	1月31日（日）	10:00～15:00 特別編	イチイの木で染める（2）	8
11	2月14日（日）	ビギナーズコース 10:00-12:30	フェルトづくり	7
		アドバンズドコース 13:00-16:30	五倍子を知る	9
12	3月28日（日）	10:00～12:30 講演会	布生活と持続可能性～里山文化の再考～ 講師：佐々木和也さん	12

6月1日（月）ケアハウスフローラで綿を植える（協力：ひよこの家/宇都宮大学）

11月5日（火）わたわた祭り（協力：ケアハウスフローラ/陽だまり保育園/宇都宮大学）

⑧天体観察会：自然体験

月や惑星、星雲・星団などを見ながら、天体について学習する教室を開催した。また7月22日の皆既（部分）日食の撮影を高根沢町行なった。

回	月日	時間	内容	参加者
1	12月25日（金）	18:00～19:30	上弦の月（クレーター）と木星を見よう！	18名

⑨自然体験教室

＜キリンビール栃木工場ビオトープ観察会＞…キリンビール栃木工場にご協力をいただき、昆虫や草花の観察会を実施（今年度は、高根沢町生涯学習課との共同開催）。

回	月日	時間	内容	参加者
1	5月6日	10:00～12:00	「森へのプレゼント」 野草の観察と植樹	15組31名
2	8月22日	9:30～11:30	夏の寄せ植え昆虫観察会	13組31名

＜マイ箸づくり＞…木の良さと森の大切さを知ってもらうことを目的に、2009年度から始まった「とちぎの元気な森づくり県民税交付金事業」（高根沢町産業課）として、マイ箸づくりの教室を開催した。木工ボランティア「木楽遊倶楽部」のメンバーが指導した。

回	月日	時間	内容	参加者
1	4月16日（木）	10:30～12:00	若者サポートステーション	20
2	4月19日（日）	11:00～16:00	たんたんライブ（オリオンスクエア）V：林	27
3	5月16日（土）	14:00～16:00	那須町役場職員女性部V：増田	37
4	5月24日（日）	10:00～14:00	エコ・フェスタV：有山・林・菊地	55
5	5月27日（水）	11:00～13:00	さいたま市エコクラブ	6
6	6月21日（日）	13:30～16:00	町内ご家族	3
7	7月19日（日）	10:00～12:00	ひだまり保育園V：佐々木	15
8	7月28日（火）	10:30～20:00	とちぎYMCAV：有山・林	20
9	9月10日（木）	10:30～11:15	上高根沢小学校4年生親子	12
10	9月16日（水）	10:00～12:00	西小学校4年始保護者役員	4
11	9月27日（日）	10:00～15:00	もったいないフェア V：有山・黒川・林・小野口	50
12	10月1日（木）	10:20～12:20	西小学校4年生親子体験 V：林・菊地	99
13	10月30日（金）	10:00～12:00	トチギ環境未来基地	5
14	11月11日（水）	10:00～12:00	阿久津中学校マイチャレンジ	3
15	11月14日（土）	10:00～12:00	北区育成会 V：林・菊地	35
16	11月18日（水）	13:30～15:00	那須町立那須小学校保護者	14
17	1月20日（水）	14:20～16:30	那須町立那須小学校4年生（親子体験）V：野村	39
18	1月22日（金）	10:30～12:10	東小学校6年生（親子体験）V：有山・林	33
19	2月7日（日）	10:00～15:00	NPO見本市 V：有山・林・小野口	25

＜木製ファーストスプーンをつくろう！＞…マイ箸づくりに加えて新規に「ファーストスプーン」づくりを行った。乳児の父親、または子供がこれから生まれる父親が対象。「とちぎの元気な森づくり県民税交付金事業」として実施した。

日時/3月14日（日）9:30-13:00	内容/ファーストスプーンづくり、メッセージ書き込み、ミニコンサー	参加者/14
-----------------------	----------------------------------	--------

＜平成20年度整備森の利用＞…2008年度に町が整備した森がエコ・ハウスたかねざわに隣接しているため、自然観察会などに利用した。

回	月日	団体	内容	備考
1	4月18日（土）	エコ・ハウス	橋田先生と森の草花の観察	エコ・アクションデー
2	5月24日（日）	エコ・ハウス	エコ・フェスタで森の散策とネイチャーゲーム	町産業課協力
3	5月31日（日）	真岡青年会議所	「野育」をテーマに森の中で宝探し	
4	6月20日（土）	エコ・ハウス 環境学習支援事業	伊村先生と森の虫の観察/ネイチャーフレンドと森でネイチャーゲーム	エコ・アクションデー
5	11月15日（日）	那須YMCA	幼児・小学生と森の中でネイチャーゲーム	
6	2月20日（土）	エコ・ハウス 環境学習支援事業	伊村先生と冬の森の中で虫の観察/ネイチャーフレンドとともに森でネイチャーゲーム	エコ・アクションデー
7	3月20日（土）	エコ・ハウス 環境学習支援事業	トチギ環境未来基地のみなさんと森の中のもの工作/きのこの菌植え/植樹	エコ・アクションデー 町産業課協力

⑩生活環境体験教室

牛乳パックの紙すき、古布のさき織り、分別ゲームなどの体験をする教室を要望に合わせて開催した。（運営総務部門の⑤視察・見学の受け入れ実績を参照）

⑪学校支援

学校での総合的学習の時間や親子体験活動などを支援した。(運営総務部門⑤視察・見学の受入実績を参照)

⑫エコイベント推進

イベントなどを開催するにあたって環境に配慮していただくために「エコイベントマニュアル」を作成し、配布した。ゴミ減量を目的とした「リユース食器」(洗い回しの食器)の貸出や食器を洗浄するユニット、資源を分別するための「エコステーショングッズ」の貸出も行なった。

回	月日	イベント名	団体	ステーション	食器	ユニット	エコイベント
1	4月14日	保健委員会総会	高根沢町環境課		○		
2	4月19日	ECO たんたんライブ	音広場実行委員会		○		
3	5月24日	エコ・フェスタ	エコ・ハウス	○	○	○	○
4	6月20日	総会	とちぎボランティアネットワーク		○		
5	6月21日	ちよつ蔵ホールイベント	商工会		○		
6	6月27日	保育参観	ひまわり保育園		○		
7	7月4日	熱気球ふれあい事業	熱気球ふれあい事業実行委員会		○	○	
8	7月5日	なまず祭り	なまず会	○	○	○	
9	7月10日	24H 駅伝祭り	本田技研工業 品質改善センターQ 遊会		○	○	○
10	7月19日	北区夏祭り	東町北区自治会		○	○	
11	7月24日	山あげ祭	まちづくり合同会社		○		
12	7月28日	慰労会	西小金管バンド部		○		
13	8月10日	夏キャンプ(学童)	陽だまり保育園		○		
14	8月16日	里山で藍を染めよう!	里山文化の会		○		
15	8月23日	そすい音楽祭	那須野が原サウンドプロジェクト	○	○		
16	8月30日	敬老の集い地域交流会	第27区(伏久)		○	○	
17	9月6日	音広場たんたんライブ09	音広場実行委員会	○	○		
18	9月12日	夏祭り	陽だまり保育園		○		
19	9月21日	敬老会	東町北区自治会		○		
20	10月10・11日	エコ・もりフェア2009	栃木県エコ・もりフェア実行委員会	○	○	○	○
21	10月22日	食育体験	高根沢第二幼稚園		○		
22	11月3日	みんなでY・ワイ・さくらんぼ2009	とちぎYMCA	○	○	○	
23	11月7・8日	たかねビア秋祭り	高根沢町産業課・高根沢町商工会	○	○	○	
24	11月14日	よつ葉ふれあいまつり	よつ葉生活協同組合		○		
25	11月15日	イルミネーション点灯式	光のページェント実行委員会		○		
26	11月21日	10周年記念事業	とちぎ障害者労働自立センターゆめ	○	○	②	
27	11月22日	ぼかぼか祭り09 縁ENISHI	陽だまり保育園保護者会		○		
28	11月27日	カレーパーティー	ひまわり保育園		○		
29	12月5日	熱気球ふれあい事業	熱気球ふれあい事業実行委員会		○	②	
30	12月12日	クリスマス会	高根沢町おもちゃ図書館		○		
31	12月26日	よしもとお笑いライブ in 高根沢	高根沢町商工会青年部	○	○	②	
32	1月17日	C'mon Tour in とちぎ	とちぎの117	○	○	②	
33	1月23日	打ち上げ	TMO高根沢		○		
34	1月31日	ポジ茶's 映画まつり「かかしの旅」	高根沢町社会福祉協議会青少年福祉講演会実行委員会	○	○	②	
35	2月7日	お別れ試合	高根沢西スポーツ		○		
36	3月6日・7日	森林整備	高根沢町産業課		○		

⑬おもちゃの病院

子どもたちに「物の大切さ」を教えるために、ボランティアにより壊れたおもちゃを修理した。無料で直せる範囲で実施した。開館時には常時受付している。23件の修理をした。

⑭自主グループの育成

古布・古着を材料に、リサイクルしていろいろなものを作っている自主グループの運営の支援をした。毎月1回実施。

○古布グループ：リサイクル体験

回	月日	参加者	回	月日	参加者
1	4月23日(木) 13-16時	7	6	9月25日(木) 13-16時	6
2	5月22日(木) 13-16時	8	7	10月22日(木) 13-16時	6
3	6月26日(木) 13-16時	7	8	11月26日(木) 13-16時	7
4	7月24日(木) 13-16時	11	9	12月17日(木) 13-16時	5
5	8月28日(木) 13-16時	6			

事業報告 H. 【とちぎコミュニティファンド(とちコミ)】

企業・市民がNPOを支えるための「資源循環の仕組み」と「NPO側の情報公開」を促進するため県内中間支援型NPO4団体による共同事業として「とちぎコミュニティファンド」の運営およびファンドレイジングを行った。

今年は緊急経済対策で政府が定額給付金を支給することになったので、4月からの支給時期にあわせて、「**定額給付金・NPO春の合同寄付キャンペーン**」をおこなった。定額給付金をもらっても使い道が見当たらない人はぜひNPOにご寄付ください、という趣旨である。キャンペーン期間中にファンド登録NPOのリストを作成して配布。同時に山に登って寄付をするイベント、「**寄付ハイク**」を企画した。結果、**約58万円の寄付**があつまった。

冠ファンドは「**花王ハートポケット倶楽部・地域助成**」を今年度も実施し**6団体に総額49万円**の助成をした。また「**とちぎゆめ基金**」の助成もおこない、**4団体に総額70万円**の助成をした。

また、地域のNPOの情報公開の窓口となる「**公益ポータルサイト**」の運営をおこなった。団体登録の推進とともに、普及のため「**公益ポータルサイト関東ブロック会議**」をとちコミとして開催し、本会からは矢野、前田が運営委員として千葉県での会議を企画・実施した。(日本財団やI I HOE (人と地球と環境のための国際研究所)、ちばNPOサポートクラブ、神奈川こども未来ファンド)

ファンドの運営や助成金審査などの作業を通して、中間支援団体間・運営委員間の連携が進んだことも大きな成果であった。同時に、NPOの情報公開のあり方や**寄付を集める意識が薄く、「他人に応援を求める方策」も未熟**であることもわかり、本会など中間支援団体の仕事も明確になってきた。

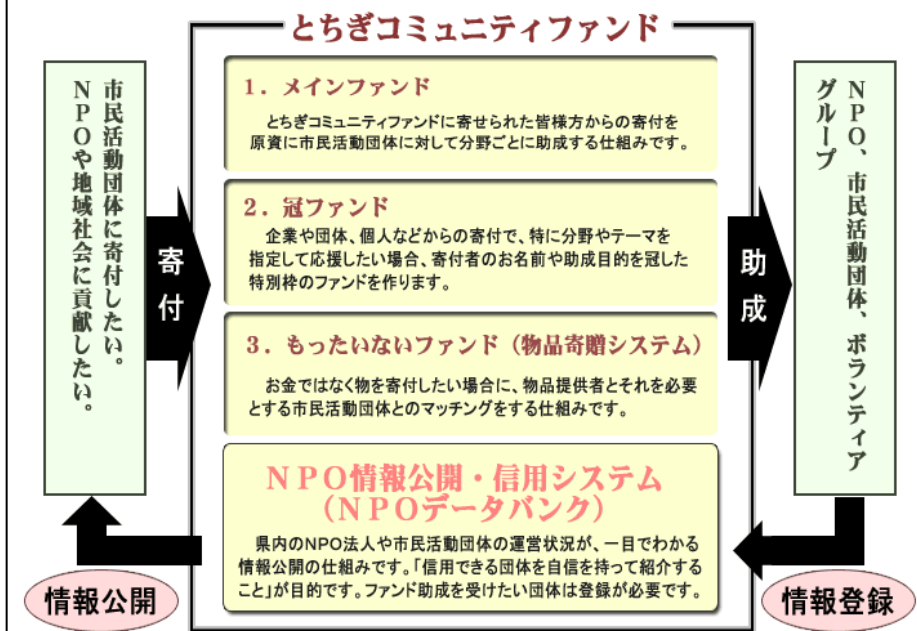
とちぎコミュニティファンド運営委員会実施日：7回 4/21 (矢野・前田他5)、5/19 (矢野・前田他3)、7/17(矢野・前田他5)、11/17 (矢野・前田他)、10/20 (矢野・前田他5)、12/15 (矢野・前田ほか4)、1/15 (矢野・前田他)

①とちぎコミュニティファンドの仕組み

とちぎコミュニティファンドの仕組みは大きく、「**寄付(お金・モノ)システム**」と「**NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク)**」の2つがある。同ファンドが集めた寄付を情報公開(NPOデータバンクに登録)している団体に対してだけ助成する。

【寄付システム】

寄付システムには大きく3つの仕掛けがあります。(1)メインファンド(とちぎコミュニティファンド本体助成)、(2)冠(かんむり)ファンド、(3)もったいないファンド(物品寄贈システム)です。また、寄せられた寄付金の中から20%~40%をファンド運営経費として使用することも条件とした。



(1) **メインファンド(とちぎコミュニティファンド本体助成)**は「とちぎコミュニティファンドに直接に寄せられた皆様からの寄付金を合わせて、分野ごとに助成する仕組みです。助成する団体は原則公募方式とし、審査や選考も原則公開で行います。

(2) **冠(かんむり)ファンド**は企業や団体(個人)からの寄付で、特に分野やテーマを指定して応援したい場合、寄付者のお名前や、助成目的を冠した特別枠のファンドを作ります(原則は毎年継続の大口寄付です)。助成する団体は原則公募方式で、審査や選考も原則公開で行います。本体ファンドとあわせて、楽しい選考会を行いましょう。

(3)「**もったいないファンド(物品寄贈システム)**」 お金だけが寄付ではなく物品の寄贈もあります。企業等からの新品、新品、中古品を預託いただき、内覧会を開いて、応募多数の場合は抽選で部物品を寄贈します。

寄付先は「メインファンド」については認定NPO法人であり、寄付者にメリットがあるある本会（とちぎVネット）とし、特別会計を設け寄付仲介システムが公開されるようする。（経費 20%）

冠ファンドは企業や団体が公募・助成を直接実施してもかまわないが、NPO使い、助成の制度設計や相談、事務局代行をファンドがおこなうことで、企業等のCSRの宣伝効果とファンドの信頼性の強化を狙ったものである。また、助成金事務代行は企業等から委託された各中間支援団体が行った。（運営経費 20~40%）

「もったいないファンド」は製造物責任法は廃棄物処理などのことを考慮して、寄贈する企業・団体から仲介手数料程度の負担をいただくようにし、安易な廃棄物処理ではない仕組みとした。すでに本年度5月に第1回の物品の寄贈がおこなわれた。（贈呈者：本会（輪転機）→宇都宮子ども劇場）

また、NPOへの直接寄付への相談も今後積極的に行う予定である。

「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク)」

「市民活動団体の情報公開」は寄付くださる市民・企業の側と、NPO・市民活動団体側との信頼をつくりだすために不可欠のものです。この「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク・CANPAN)」に登録された情報はホームページ(<http://tochikomi.canpan.info/>)で公開するほか、県内各地の中間支援団体で閲覧できるようにします。また、このとちぎコミュニティファンドからの寄付・寄贈品の助成を受けようとする団体は、「NPO情報公開・信用システム(NPOデータバンク CANPAN)」への登録が必須条件になります。「信用できる市民活動団体を自信をもって紹介すること」が目的です。現在17団体が登録している。

②運営

とちぎコミュニティファンドの運営は、趣旨に賛同した**中間支援団体4団体の共同運営(本会、とちぎ協働デザインリーグ=とちぎボランティア・NPOセンター、おおきな木=日光市民活動支援センター宇都宮市民まちづくり工房)**とし、新たな団体をつくらないで、団体の共同プログラムとする。会議は毎月1回行う。

(1)メインファンドの運営 (NPOの活動資金の援助事業)

メインファンドは本会内に「**とちぎコミュニティファンド特別会計**」を設けて認定NPO法人としての寄付控除を活かして運営する。冠ファンドとは違って、とちぎ運営委員会直営的にNPOに公募、配分できる資金として受けつける。

定額給付金寄付キャンペーンでの選択肢の一つとしてメインファンドへの寄付を打ち出したが、ファンドの知名度が高まっていないので寄付金は集まりにくかった。今後、寄付イベントなどでの地道な周知が必要である。

① 定額給付金寄付キャンペーン、寄付ハイクの実施

一昨年末(2008年11月)のリーマンショックに端を発する世界同時不況への消費刺激策として政府定額給付金を配ることになったが(2009年3月)。そこで急遽「定額給付金をいらないならNPOに寄付」するキャンペーンを「**定額給付金・NPO春の合同寄付キャンペーン**」として企画した。とちぎ登録団体の中からキャンペーン参加団体を募り、振込口座公開したチラシを作成。ホームページとともにマスコミに広報を開始した。3月の定額給付金が配られだした頃には話題になったが(朝日・毎日・下野)実際には5月から配られる自治体も多く、1か月後でも寄付額は低調であった。そこで今年度になってマスコミへの周知を目的に話題性があるイベントとして「**寄付ハイク**」を企画した。実施日が梅雨で中止になり、周知期間も短かったにもかかわらず、寄付イベントによる新規寄付者の拡大の可能性が見えた企画であった。寄付ハイクでの寄付金は **15人33,500円**であった。

キャンペーン終了後に関係したNPOとの振り返り集会を実施した。キャンペーンを実施して分ったのは、①周囲に「寄付をください」と声かけしている団体にしか寄付は集まらないこと。②寄付を集める意識が薄くNPO法人であることのメリットを十分に生かしていないこと。③定額給付金という寄付を集める千載一遇のチャンスすら生かせないこと。総じて、**市民活動であるにもかかわらず「市民を巻き込む力が弱い」**ことが露呈されたと思える。

NPOの活動推進は、複数のNPOと共同して寄付や支援者を集める切磋琢磨の場が重要である。その意味で合同寄付キャンペーンは毎年継続して実施する必要があると感じた。

●合同寄付キャンペーン参加団体

<p>とちぎコミュニティファンド 定額給付金・NPO春の合同寄付キャンペーン 重点期間：4月～6月 寄付から始まる[あなた]のボランティア この機会にぜひ</p> <p>ここに掲載されている団体はとちぎコミュニティファンドのNPOデータバンクに登録した情報開示に積極的な団体です。NPOデータバンク登録に関するお問い合わせは下記窓口まで。</p> <p>■とちぎボランティアネットワーク（事務局）電話 028-622-0021 ■宇都宮市民活動サポートセンター(宇都宮まちづくり市民工房) ■日光市民活動支援センター(おおきな木) ■真岡市民活動推進センターコラボレもおか(真岡市) ■とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・ら(とちぎ協働デザインリーグ)</p> <p>参加団体：17団体</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特定非営利活動法人もうひとつの美術館（芸術、福祉） ●特定非営利活動法人鹿沼ファミリー劇場（子育て支援・まちづくり） ●特定非営利活動法人和音（子育て支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ●あるべき支援を考える会（障がい者福祉） ●精神障がいと共に生きる海がめ会（福祉） ●サバイバルネット「ライフ」（人権・平和、子ども健全育成、男女共同参画） ●特定非営利活動法人はばたき（障がい者福祉） ●特定非営利活動法人栃木県車椅子の会（医療、福祉、まちづくり、人権、青少年の健全育成等） ●特定非営利活動法人わかば（福祉） ●特定非営利活動法人鮭守の会（さけもりのかい）（自然保護、まちづくり、子供の健全育成、地域安全） ●特定非営利活動法人とちぎ障害者労働自立センターゆめ（福祉） ●はが路100km徒歩の旅実行委員会（青少年健全育成） ●特定非営利活動法人国際自然大蔵校・日光霧降校（青少年教育、若者自立支援） ●特定非営利活動法人宇都宮まちづくり市民工房（まちづくり） ●特定非営利活動法人おおきな木（中間支援） ●&ハンド（DV被害者支援活動・DV防止啓発活動） ●認定特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク（ボランティア&NPOセンター、若者自立支援、災害救援） ●とちぎコミュニティファンド（寄付文化の醸成、市民活動支援）
---	---

○寄付ハイク

とちぎコミュニティファンド「定額給付金寄付キャンペーン」 寄付ハイク（日光・丸山）一山に登って爽快！な気分寄付しよう！		参加者
<p>6/14(土) 10-14時</p> <p>■主宰：とちぎコミュニティファンド（NPO法人おおきな木+宇都宮まちづくり市民工房+とちぎボランティアネットワーク+とちぎ協働デザインリーグ）</p> <p>■集合：霧降高原夏山リフト乗り場(9:30受付開始)</p> <p>■参加費：寄付→2000円以上ください。（頂上でいただきます。Highな所で）また、体力に自信がない人は第4リフトだけ乗ります。その場合片道500円かかります。</p> <p>■ルール：頂上に着いたら、合同寄付キャンペーン参加団体(20団体：裏面)から応援したい団体を選んで寄付。預かったあなたの寄付金(と気持ち)をその団体にお渡しします。またキャンペーン参加団体のリーダーの方もハイキングに参加します。歩きながら話が聞けます。</p> <p>■問：TEL&FAX 0288-22-7756 (NPO法人おおきな木・前田)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●服装：動きやすい服と靴！ ●持ち物：雨合羽、飲み物、弁当、手提げのビニール袋 ●注意事項：山は自己責任の世界です。主宰者では保険等も加入いたしませんので、不安な方はご自身の保険の確認を！ ※雨天中止 ※事前申込が必要。※オプションで温泉入浴可。※体調の悪い方はご遠慮ください。（誰かに寄付を託してもOK） ●登れなくても寄付はできます。体力ないけど登った気分、という方でも寄付できます。ファンドホームページから団体を選んで。選ばない人は「とちぎコミュニティファンド」へ 	<p>寄付者→ 15人 (雨で中止。登頂は4人)</p>

○合同寄付キャンペーン/寄付ハイク

<p>合同寄付キャンペーン●総額：約580,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎボランティアネットワーク 378,540円 ・サバイバルネットライフ約60,000円 ・メインファンド32,000円 など <p>寄付集めの秘訣：「直接声かけ」、「寄付は慣れ（もらう側・あげる側）」、「周囲に支援者の輪をつくり維持する」</p>	<p>寄付ハイク●総額33,500円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とちぎコミュニティファンド9,500円 ・おおきな木8,000円 ・はばたき7,000円 ・あるべき支援を考える会5,000円 ・サバイバルネットライフ2,000円 ・わかば2,000円
---	---

(2)冠ファンド「花王・ハートポケット倶楽部(地域助成)」事業（NPOの活動資金の援助事業）

昨年に引き続き、花王株の同助成金を活用しNPOへ助成金を贈る地域助成を行なった。第3回目の助成金配分であるが、応募件数が少ないことから、「NPOデータバンク」への登録を必須とせず、簡易な方法での応募とした。

審査は第1次審査で6団体を選考し、それらを、花王ハートポケット倶楽部の社員1700人の投票により、3

団体にしぼる方法で2次審査(最終選考)とした。メイン助成は**20万円が1団体、10万円が2団体**、サブ助成各団体**3万円の総額49万円**である。**応募は35団体**で昨年の6団体より格段に増えた。とちぎゆめ基金と募集時期が同時だったことも影響しているかもしれない。工夫が必要である。

●**花王・ハートポケット倶楽部・地域助成(栃木地区)の助成団体**

<p>栃木県内のNPO・市民活動団体を応援 2009年度 花王・ハートポケット倶楽部地域助成(栃木地区) (とちぎコミュニティファンド・冠ファンド助成)</p>	<p>■3、応募団体の条件 ①営利を目的とせず、公益的・社会的な活動をすでに1年以上継続的に行っている栃木県内のNPO・市民活動団体・ボランティア団体(法人格の有無は問わない) ②昨年度「メイン助成」を受けた団体でないこと(1年お休みのあとの応募は可)。 ※とちぎコミュニティファンドの「NPO データバンク(CANPAN)」への登録は、今年度は必須ではありません。</p> <p>■4 応募・問い合わせ先 特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク「花王・ハートポケット倶楽部係」 栃木県宇都宮市埴田2-5-1 電話028-622-0021 FAX028-623-6036 HP http://tochikomi.canpan.info/</p>
<p>■「花王・ハートポケット倶楽部助成」について 花王㈱では社員有志による社会貢献寄付プログラム「ハートポケット倶楽部」を組織し、全国・地域のNPOを社員と企業で応援しています。今年、栃木事業場のハートポケット倶楽部が、栃木県全域の全ての分野で活動するNPOや市民活動団体から、「心温まる活動」「地域で必要とされる活動」を対象に助成します。</p> <p>■1、助成内容 ・助成総額：49万円 ・助成団体数：6団体 ・助成金額 ・メイン助成：20万円＝1団体、10万円＝2団体 ・サブ助成：3万円＝3団体 ・1次選考(書類審査)を通過した団体のうち、2次選考にもれた3団体にサブ助成として各3万円</p> <p>■2、選考までの流れ ◎応募受付開始：9月1日 ◎応募用紙提出締切：11月20日必着 ◎一次選考：12月中旬。とちぎコミュニティファンド運営委員会により、二次選考の6団体を選出。 ◎二次選考(投票選考)：1月中旬。花王ハートポケット倶楽部に参加している社員に応募申請書を公開し、投票で採択団体を決定します。 ◎贈呈式・レセプション：2月7日。「NPO見本市&栃木市民活動フォーラム」でメイン助成とサブ助成の採択団体においていただき、贈呈式・レセプションを行います。 ◎活動報告：助成金を使った様子を所定の書式で簡潔にご報告ください。</p>	<p>■メイン助成：あるべき支援を考える会(20万円) 日本語教室「わたの花」(10万円) KHJとちぎベリー会(10万円)</p> <p>■サブ助成(各3万円)：ネットワークとちぎ、栃木ダルク シャプラニールとちぎ架け橋の会</p> <p>■スケジュール 9月「花王ファンド」「ゆめ基金」募集要項の作成(矢野) 12/1(火)とちぎ・花王助成金一次審査会(矢野・前田他) 2/7(日)栃木ボランティア・市民活動フォーラムで発表</p> <p>11/25(水)花王ハートポケット倶楽部運営委員会・報告会(本社に招待・プレゼン。矢野・前田/東京)</p>

(3)冠ファンド「とちぎゆめ基金」事業 (NPOの活動資金の援助事業)

本会に9年前から預託され、一定額がたまるまで内部に留保してきたゆめ基金(障害者労働自立基金：本会「ゆめ基金特別会計」)を活用し、障害者の職業自立を図るNPOなど支援するための助成金を贈る事業とした。とちぎの冠ファンドとして公募選考し助成した。助成金の制度設計などを年度当初から行ない。9月に公募開始したが、障害者系NPOが少ないこともあり、応募は少なかった。花王の助成金とも重なり、2重に助成が行かないような配慮など制度設計に難しい面もあった。助成金は**総額70万円**となり、**30万円を2団体**に、**5万円を2団体**に助成した。

<p>とちぎゆめ基金事業助成</p> <p>■助成の主旨) このプログラムは、障害児者または生きづらさを感じている方たちの社会参加を目指した民間ならではの事業に対して助成を行います。その結果、そうした方たちの社会参加と周囲からの理解が進み、誰もがその人らしく生きられる社会に少しでも近づいていくことを期待しています。 ※現在実施中で来年継続予定の事業での応募も可能です。 ※前年ゆめ助成(30万円)を受けた団体も、事業の経過報告書を添えて応募できます。</p> <p>■助成対象の活動：障害がある、職場・学校になじめない、DV被害等の理由で、生きづらさを感じている方たちの、就労を含めた社会参加を支援する実践活動</p> <p>■助成期間：2010年4月1日～2011年3月31日まで</p> <p>■助成金額、件数) (1)「とちぎゆめ基金事業助成」：1団体最高30万円×2団体(※人件費充当可) (2)「小さなゆめ助成」：とちぎゆめ基金事業助成の選考にもれた団体の中から奨励金として5万円を2団体に助成</p> <p>■応募条件：とちぎコミュニティファンドのNPOデータバンクへの登録が必須。</p> <p>■選考方法と基準：とちぎゆめ基金関係者、当ファンド運営委員等からなる選考委員会にて第1次選考団体4団体を決定。2010年1月中旬頃、文書で連絡。 第2次選考は「栃木ボランティア市民活動フォーラム」会場でプレゼンテーションしていただき、会場からの投票結果を加味し授与式当日決定します。</p>
--

※授賞式は2010年2月7日(日) 栃木ボランティア市民活動フォーラム

(1) 障害児者や生きづらさを感じている方の生活や現状、課題に則した必要性の高い事業か。

(2) 事業の効果や継続性が期待されるか。

(3) 過去の実績等からみて実現可能性が高いかどうか。

■問い合わせ

・認定特定非営利活動法人 とちぎボランティアネットワークほか

・詳しくは URL : <http://tochikomi.canpan.info/>

■とちぎゆめ基金の原資について

NPO法人とちぎ障害者労働自立センターゆめ(高根沢)では、ダイードリンコと業務提携して、ジュースの自動販売機の缶の詰めかえ作業を障害者団体に委託することで賃金を発生させる障害者の仕事づくりを行っています。この売上の中から1本につき1円をNPO法人とちぎボランティアネットワークに「障害者労働機会づくり支援基金」として1999年から拠出しています。これが「とちぎゆめ基金」の原資です。とちぎゆめ基金は“障害者自身が他の障害者を支援する”試みです。この助け合いの輪が栃木県内に広がることを願っています。

(4)公益ポータル・プロジェクトの運営 (NPOの育成事業)

IIHOE(人と企業と環境のための国際研究所)と日本財団のよびかけで始まった同事業は、全国各地域・ジャンルのNPOなどのポータルサイト(入口のホームページ)を増やし、NPOの情報公開をすすめるようという主旨の計画。内容が「とちコミ」の構想と同一だったので、プロジェクトに参加した。**年2回の全国合同研修(東京)への参加と関東ブロック会議(千葉)**を開催した。関東エリア研修会では本会職員1人を運営委員として派遣した。

とちコミ内部では、インターネットサイト運営に労力がかかり、独自サイトでは見られる可能性が限定されることから、日本財団・CANPANに「とちコミ」のサイトを移管することに決定した。しかし、情報公開の意味が周知できていないのか、参加NPOが微増にとどまっている。市町のNPO支援センタースタッフの働きかけの強化をした。

また、とちコミとしてダイバーシティ研究所が行う「**地域CSR大賞**」事業に協力した。

■全国会議：2回

8/8・9「公益ポータル全国会議」&日本財団CANPAN運営者会議①(矢野・前田他50人)

11/7・8(土)「公益ポータル全国会議」&日本財団CANPAN運営者会議①(矢野・前田他50人)

■関東ブロック会議：1回

12/7(月)日本財団で「公益ポータル関東ブロック会議」打合(矢野・前田)

2/3(水)公益ポータルサイト運営関東ブロック会議(矢野・前田他県内から4人)

8/5 **地域CSR大賞**(吉川油脂、ワイズ・ティール・ネットワーク、参加50人ぐらい)

2. 事業報告【その他の事業】

今年度は実施しなかった。

3. 財政運営

(1) 会員

会員数を現状維持としたが、年度末には**582人**で会員は横ばい状態であった。会員増加の方策として、「ボラ情報」紙上で会員とのつながりを意識した紙面にする(会員ハンターなど)、会員向け・一般住民向けイベント「**まちかどVネット**」の企画を開始した。

(2) 寄付

一昨年度から発足したファンドレイジング委員会は、本会の寄付金の分析、寄付者・寄付額の拡大のための方策を理立案・実施・データを蓄積する委員会とした。今年度はとちコミと連動して、寄付イベントにあわせて寄付者へのはたらきかけを強化した。また日本ファンドレイジング協会に加盟し遺贈についてなどの内部勉強会を行った。

11月から1月末にかけて「2009年度・とちぎVネット年末年始募金」と街頭募金を実施し昨年並みの**1,211,952円**の寄付額となった。宇都宮未来クラブ小・中・高校生に応援してもらった。

また**年間寄付額は5,424,527円**となり、昨年なみであった。

■ファンドレイジング委員会委員/大金和人委員長、前田利一、矢野正広、中野謙作、菊池順子、塚本明子 ■開催日：9回 4/9 大金・市川・矢野・菊池・中野・塚本 5/14 大金理事、前田、菊池、矢野、中野、塚本 6/25 大金理事、前田、矢野、塚本、菊池	9/3 矢野・中野・菊池、柴田理事、前田理事、塚本理事 10/8 大金理事、矢野、中野、塚本、菊池+手塚V+原君 10/29 大金、矢野、菊池、中野、塚本 11/12 大金、矢野、菊池、中野、塚本 3/4 大金、前田、矢野、菊池、中野、塚本
12/19(土)街頭募金(矢野、君嶋、柴田、関口2、UFC小学生3+高校生など4、菊池、中野+1、高橋さ) 12/20(日)街頭募金(矢野、菊池、徳山、塚本、UFC5人、中野・鈴木・田中あ)	

現在の寄付金の項目は以下の通り。

		銀行引落し
①一般寄付	通常の寄付(災害救援バンダナの寄付も含む)	年1回と毎月引き落なs どの方法が 選べる。
②年末年始募金	年末年始のキャンペーン時の寄付。12月1日~1月末まで	
③災害救援ボランティア基金	災害救援目的の寄付	
④サンクスVクラブ	Vネット“後援会”メンバーからの寄付金(後述)	
⑤他人の風プロジェクト寄付	ワーキングスクールを支援するための寄付。企業等で受講生受入企業などからいた だいている。企業が「若者の職業自立支援」のための寄付である。	
⑥とちぎコミュニティファンド	「とちコミ」のメイン寄付。認定NPO法人の利点を活かして、本会特別会計で預かっている	

(3) 事業収入

自主事業収入は大きく「情報提供」と「講座」「物品販売」「その他」に分けられる。これらは事業毎に独立しており単独の収支は黒字だが、本会職員はこの他の非収益的事業(公益事業)に割く時間割合が多い。そのため本会全体の収支は常に赤字体質が続く。また事業のほとんどがNPOのミッション(社会的使命)を達成するためのものであり事業単独での収益性が薄い。本会の自主事業にはなんらかの形で寄付金での補填が必要とされている。

今後伸びる見込みがあるものは災害・防災分野、若者支援分野の講師派遣事業であろう。

③講師派遣事業による収益

講師派遣事業は**236万円**の収入となり、前期より1.5倍の収入となった。災害分野で社会福祉協議会への講師の派遣が増えたことなどがその要因である。

④受託事業による収益

SS事業、エコハウス事業あわせて**3300万円もの委託事業収入**があった。しかし額が大きい委託事業中心の財源構成は非常に危険である。本会は市民によって成り立つ団体として、ボランティアとともに行う事業の開発・育成が大切であると考え、若者自立支援に関しては受託事業をうけながら、講師派遣、ボランティアな事業展開、寄付の推進を図る方向性を模索してきた。

4. 組織運営

(1) 会員総会

6月20日に定期会員総会を実施した。172人の出席（うち委任状140人）があり会員総会が成立した。議案のすべてが原案どおり可決成立した。

第2部は食事（V飯）をしたあと、「10年後の日本とVネット」を考えるグループワークをおこなった。

また本会員総会に先立って、6月16日に監事による業務監査・会計監査が実施され、会員総会で「適切に事業運営、適正に会計処理」されている旨の監査報告がなされた。

(2) 理事会(役員会)

定期理事会を3回開催した。

月日	議題
6/13 第1回理事会	①2008年度事業報告・決算の承認、②理事の選任について ③その他
11/28 第2回理事会	①上半期の事業報告、会計報告 ②次年度事業計画のとりまとめについて、③その他
3/27 第3回理事会	①2009年度事業計画・予算について、②会員総会について、②その他

(3) 運営委員会

運営委員会を12回開催した。運営委員は役員全員、職員全員、運営ボランティアによって構成されている。出席は任意だが、職員は必ず出席することになっている。だが会員からの運営委員がいなくなったことで、事実上の職員会議と同じようになっていた。そこで運営委員会活性化のため10月から委員を倍増した。運営委員会が本会の日常活動の意思決定をしていくようにしたい。

今年も運営委員会とV情報を支える会(編集委員会)を同時に開催した。毎月第2火曜日夜7時半から実施。

4/7 (5人)、5/12 (5人)、6/9 (5人)、7/14 (4人)、8/11 (3人)、9/10 (4人)、10/13(10人：矢野・菊池・中野・塚本、関口V、徳山理事、石田V、塚本竜、前田理事、二見理事)、11/10(8人：矢野・中野・菊池・塚本、石田V、君島V、関口みV)、12/8(9人：矢野、中野、塚本、菊池、石田V、塚本理事、徳山理事、天知V、関口嫁V)、1/12(9人：矢野・中野・菊池・塚本、前田、君嶋、天知、石田、三恵)、2/9 (10人：矢野、中野、菊池、塚本、前田、天知、石田、徳山、君嶋、塚本竜)、3/9 (9人：矢野・中野・菊池・塚本、石田、天知、君嶋、前田、手塚)

(4) 役員、職員、Vネットサポーターの研修・懇親など

運営委員会が活性化してきたことで、以前からある研修システムが利用されだした。(交通費・参加費の7割を本会が負担)特に災害ボランティアオールとちぎでは、この研修規定を使って会議・研修に行っている。同様に職員・ボランティアを「東海地震の広域図上訓練」に参加させた。また、役員・職員・ボランティアの懇親を目的に3回の交流会(飲み会)を行った。

12/23(水) 浄鏡寺の落葉さらい(10人位)・エコハウス忘年会、12/26(土) 忘年会(30人位)、他
--

(5) サンクスVクラブ(後援会)

10周年を機会に、本会の後援会組織として「サンクスVクラブ」を結成した。Vネットへの**定期的な寄付(年間2万円)**をいただけること、クラブ員の親睦のため年に**2回の定例会(親睦会)**を行うことの2項目だけを条件にした「ゆるやかな」つながりが持てる会となっている。今年度は、春と秋に定例会を開き、懇親と近況報告の楽しい会合となった。**クラブ員は32人**となった(09年5月現在)。代表は元・本会理事の高橋昭彦さん(ひばりクリニック/宇都宮)

<p>サンクスVクラブ 会則 2005年7月30日</p> <p>(第1条) 本会はサンクスVクラブと称する。</p> <p>(第2条) 本会の事務局を宇都宮市埴田2丁目5番1号とちぎボランティアネットワーク内に置く。</p> <p>(第3条) 本会はとちぎボランティアネットワークの応援をすることを目的とする。</p> <p>(第4条) 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寄付に関すること 2. クラブ員の親睦に関すること 3. その他、目的達成に関すること。 	<p>(第5条) 本会は栃木県内のボランティア、NPO、企業及び本会の目的に賛同するものを会員とする。</p> <p>(第6条) 本会に次の役員を置く。</p> <ol style="list-style-type: none"> [1] 代表 1名 [2] 副代表1名以上 [3] 会計 1名 <p>(第7条) 本会の経費は寄付金、その他の収入をもってこれに当てる。</p> <p>(第8条) 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。</p> <p>(附則) 本会則は平成16年10月26日から施行する。</p>	<p>役員名簿</p> <p>代表：高橋昭彦さん 副代表：高木敏江さん 会計&事務局：菊池順子</p> <p>青柳拓也 赤木健一 飯島恵子 上田由美子 江波戸啓悟 大浦智子 大金和人 岡部昇子 鎌田一雄 鎌柄克美 木村和子 栗山宏 佐藤由紀子 関口清美 関根直久 早乙女正次 早乙女順子 高木敏江 高橋昭彦 高橋克法 竹内明子 長正仁 徳山雄一 中村明美 仲村久代 西岡隆 平木千紗子 福田雅章 二見令子 鱒淵元成 矢野正広 山中節子 若森正子 渡辺みゆき、</p>
<p>5/9 サンクスVクラブ定例会 11/28(土) サンクスVクラブ (30人ぐらい)</p>		

(6)委員会・チームの会議、ボランティアの活動日

- ①**ボラ情報を支える会(編集委員会)**…『ボラ情報』の編集・制作を行うためほぼ毎月会議を行った。企画、取材、執筆、製本、発送を行う。また『ボラ情報』の製本・発送作業のため毎月末3日程度のボランティアによる作業日がある。
- ①**ファンドレイジング(FR)委員会**…毎月1回、委員長が出席できる曜日を調整して実施。理事4人、本部職員全員が出席。寄付を集める企画・戦略会議。
- ③**新聞切り抜き隊+しみん情報玉手箱**…毎週木曜日13時半から活動を行う。各自新聞の切り抜きを持ち寄り、ファイリング、要約、パソコンへ入力を行う。情報の収集・提供のためのボランティアチーム。
- ④**災害ボランティア オールとちぎ**…毎週水曜19:00から会議。200円で本会職員が作った**夕食(V飯)**を食べながら会議するのも魅力となっている。活動はほぼ毎週末の土日に行う。
- ⑤**まちかどVネット実行委員会**…本会の一般市民への周知・広報を目的に1月から「まちかどVネット実行委員会」が発足した。2010年6月20日の会員総会にあわせて、宇都宮・オリオン通りで広報イベントをやろうというもの。すでに10回程度の会議を終え当日の実施段階に入っている。

<p>●実行委員長・天知稔 ■柴田、石田、半田、前田、霜田、手塚、早川、古川、倉本 ●まちかどVネット会議日：3/5、3/17、(以下2010年度)4/2、4/14、4/23、4/30、5/12、5/28、6/3、6/11</p>

- ⑥年末年始募金にあわせて「**フードバンク**」を**試行**した。米のみの提供をよびかけた。結果、8人から玄米の提供があった。内部的な要綱をきめ、本会独自の生活支援システムを作りたい。